

# 上智大学

(2022年度)

教育研究上の目的

人材養成の目的

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

## 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. 神学部 .....     | 3  |
| 神学科 .....        | 3  |
| 2. 文学部 .....     | 4  |
| 哲学科 .....        | 5  |
| 史学科 .....        | 6  |
| 国文学科 .....       | 7  |
| 英文学科 .....       | 9  |
| ドイツ文学科 .....     | 10 |
| フランス文学科 .....    | 12 |
| 新聞学科 .....       | 13 |
| 3. 総合人間科学部 ..... | 14 |
| 教育学科 .....       | 15 |
| 心理学科 .....       | 17 |
| 社会学科 .....       | 18 |
| 社会福祉学科 .....     | 19 |
| 看護学科 .....       | 21 |
| 4. 法学部 .....     | 22 |
| 法律学科 .....       | 23 |
| 国際関係法学科 .....    | 24 |
| 地球環境法学科 .....    | 25 |
| 5. 経済学部 .....    | 26 |
| 経済学科 .....       | 28 |
| 経営学科 .....       | 29 |
| 6. 外国語学部 .....   | 30 |
| 英語学科 .....       | 32 |
| ドイツ語学科 .....     | 33 |
| フランス語学科 .....    | 35 |
| イスパニア語学科 .....   | 36 |
| ロシア語学科 .....     | 37 |
| ポルトガル語学科 .....   | 39 |

|     |                    |    |
|-----|--------------------|----|
| 7.  | 総合グローバル学部          | 40 |
|     | 総合グローバル学科          | 40 |
| 8.  | 国際教養学部             | 42 |
|     | 国際教養学科             | 42 |
| 9.  | 理工学部               | 43 |
|     | 物質生命理工学科           | 44 |
|     | 機能創造理工学科           | 46 |
|     | 情報理工学科             | 48 |
| 10. | ディプロマ・ポリシーに係る共通事項  | 49 |
| 11. | 全学共通科目のカリキュラム・ポリシー | 49 |
| 12. | 語学科目のカリキュラム・ポリシー   | 50 |

(別添)

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| SPSF 対象学科の教育研究上の目的、人材養成の目的及び 3 つのポリシー | 52 |
| 文学部                                   |    |
| 新聞学科                                  | 52 |
| 総合人間科学部                               |    |
| 教育学科                                  | 53 |
| 社会学科                                  | 56 |
| 経済学部                                  |    |
| 経済学科                                  | 57 |
| 経営学科                                  | 59 |
| 総合グローバル学部                             |    |
| 総合グローバル学科                             | 61 |

## 1. 神学部

### 神学科

#### [教育研究上の目的]

神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史的変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的発展に寄与すること

#### [人材養成の目的]

カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民的人材や聖職者・教職者を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. カトリック神学とその価値観の基礎を修得し、それにもとづいて現代世界における諸問題に学問的にアプローチし、また実践的にコミットできる能力
2. 学生が選択した「系」の分野に関して充分に精通し、当該領域の諸問題について分析・考究する能力
3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズ
4. 学生が選択した「系」の分野に沿ったテーマで卒業論文を完成させる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のような科目群によりカリキュラムを編成しています。

1. カトリック神学の基礎的素養を養う科目群
2. 学生が選択する「系」(神学系、キリスト教倫理系、キリスト教文化系)に沿って、学生が各自の関心に従い、より専門的に勉学を深めるための選択必修科目群
3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズを養う必修科目群
4. 神学の勉学を総合する卒業論文執筆に向けた、問題解決と発表の能力を育てるための必修科目群
5. 教皇庁認可神学部共通の国際的学位(STB/STL/STD)を取得するための基準に則した神学専門科目、また教会の必要に応えるための宣教実務に関する科目

#### [アドミッション・ポリシー]

本学部では、カトリック神学を主な教育研究の対象としており、以下のような学生を受け入れます。

1. キリスト教に関する基本的知識を持っていること。
2. 異文化や国際性に開かれた柔軟な思考能力があること。
3. 人間の尊厳と社会正義に关心を持ち、ボランティア活動などの実践にも積極的であること。
4. カトリック教会と人類社会への貢献を望むこと。

多様な背景をもった学生を積極的に受け入れるために複数の試験制度を設け、日本語の他に英語やそれ以外の語学能力と歴史の知識の試験を行い、面接試験を重視します。また聖職志願者をはじめ社会の多様な人々を受け入れるため、編入学枠を設けています。

## 2. 文学部

### 〔教育研究上の目的〕

高度な専門教育と質の高い学術研究に基づいて、人文教養の本質である人間探究を行い、もって人類の精神的遺産を将来に継承し、世界と人間を真に理解する力を養うこと

### 〔人材養成の目的〕

分析力・理解力・表現力の陶冶に基づいて、世界と人間の本質を洞察する根源的な知性を養い、自己実現の自覚をもちつつ主体的に思考し、世界に寄与する自律的人間を養成すること

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、哲学・思想・歴史・文学・文化・芸術・情報・身体などを、人文学の基盤にある人間の尊厳とのかかわりのなかで研究します。人文教養を涵養することで、社会のさまざまな分野で未来を創造できる自律的な人間を養成します。また、高度な専門教育と質の高い学術研究の成果を活かして、広く社会と世界に貢献できる人を育てます。学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めており、次の卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人間の歴史・文化が集約された資料・情報を、自らの力で批判的に分析・解釈・評価する能力
2. 人文教養の基盤である人間性・人格性について深く考察し、十分な裏付けに基づいた自らの意見を他人に分かりやすく表現する能力
3. 日本語、外国語を問わず、言語とそれが使われる文化に対する深い理解に基づいた高度なコミュニケーション力
4. 人文教養を、社会生活、職業生活、市民生活、ひいては人生そのものに実践的かつ創造的に役立てる能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門分野別の学科編成をとっています。各専門分野を学ぶ学生ひとりひとりの関心を重視し、人格的関係に基づいた指導を行います。質の高い、一貫したカリキュラムを通して、学生と教員が一体となって、「人間を考える学問」としての人文学研究に取り組むができるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 学部の初年次研修で、基礎的な人文学研究の特徴・勉学態度・表現方法などを指導する。
2. 初年次から、各分野の専門教育をカリキュラムに含め、卒業時まで充実した一貫教育を行う。
3. 少人数授業やゼミナールによって、学生の自主性・分析力・理解力・表現力・対話力を集中的に養う。
4. 全学共通の外国語科目に加えて、各学科の専門的な語学教育を徹底して行う。

- 全学科で卒業論文を必修科目として、長期間にわたる個人指導を行い、総合的な学習到達度を判定する。
- 学科科目とは別に学科横断型のプログラムを設け、各学科の専門領域を超えた人文学の知見を広める機会を設ける。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学部は、人間性の探究および人文教養の各領域について深く幅広い関心と動機づけを持つ学生が、学科を選択して入学し、自発的かつ積極的な態度で学業に研鑽することを期待します。そこで、次のような学生を受け入れます。

- 人文教養を主体的に探究しようとする意欲と、学業への誠実な態度を持っている。
- 志望する個別の専門分野について具体的な関心を持っている。
- ものごとを批判的に考え、自らの意見を明確に表現するための基礎的なスキルを身につけています。
- 大学での学修に必要とされる基礎的な教養、知識、語学能力を備えている。

### 哲学科

#### [教育研究上の目的]

建学の精神である上智の探求 *philosophia* に基づき、古今の哲学思想や哲学的問題をその本質から学ぶことによって、優れた思考力・理解力・表現力を養うこと

#### [人材養成の目的]

哲学・倫理・美学・宗教等の研究者及び教育者を育成するとともに、他者のために、他者とともに生きる自律的な人格を育成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、建学の精神である上智の探求 (*Philosophia*) の理念に基づき、哲学・思想を根本から研究することによって、人間と世界に関する広く深い理解をもって現代社会に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

- 人間と世界をめぐる哲学的問題、なかでも「真」「善」「美」という基本的価値をめぐる哲学的問題の内容と意味を十分に理解し、それらを自ら考える能力
- 哲学的問題を探求してきた人類の歩みに関する十分な知識・教養をもち、その探究の継承者としての自覚と責任をもって探究を続ける能力
- 哲学的問題を自ら考えかつ他の人々と共に考え、哲学の古典文献を原語で読解する能力
- 現代社会の諸事象の根底にある哲学的問題を洞察し、それを哲学的な知識・教養および思考力を基盤として探究し、その成果を説得的に表現する能力
- 以上の哲学的知識・技能・態度を基盤として、自律的に〈他者のために、他者とともに〉生きること

によって、多様なものが共生する世界に貢献する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 「体系的な科目」（「人間論」「認識論」「自然神学」「形而上学」「倫理学」「美学」）により、哲学の諸問題に関する系統的な理解と、それらをめぐる哲学的な思考力を養う。
2. 「哲学史科目」（「古代哲学史」「中世哲学史」「近世哲学史」「現代哲学史」）により、人類の哲学的探究の歩みに関する知識と教養を養う。
3. 「演習科目」および「文献講読」により、哲学的な問題を討論・対話を通じて探求する技法と作法、哲学的文献の読み解きの技能、およびそれに必要な外国語の技能を養う。
4. 「哲学思想系列」「倫理学系列」「芸術文化系列」の三系列に配置された「系列科目」により、一人一人の哲学的関心を系統的に方向づけ、主体的に研究に取り組む技法と作法を養う。
5. 「卒業論文指導」「卒業論文」により、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養う。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人間とそれをとりまく世界にさまざまな問題を見出し、その問題の表層的な解決ではなく本質的な理解を求めて、主体的・対話的・協働的に探求することに強い関心と意欲を持つ。
2. 〈知恵を愛し求めること〉としての哲学を通じて思考力、判断力、表現力を陶冶することによって、〈他者とともに他者のために生きる〉ことに強い関心と意欲を持つ。
3. 人間の社会、文化、歴史に関する基礎的な知識・教養と、日本語の優れた理解力・表現力、および堅実な英語の技能を持つ。

### 史学科

#### [教育研究上の目的]

歴史学の理論や方法を学ぶことによって、種々の出来事や社会現象に対する鋭い調査能力や真偽鑑定能力、さらに社会や時代を多元的・総合的に評価できる力を養うこと

#### [人材養成の目的]

過去への探求によって、人間社会の問題点の歴史的起源を理解し、現状改革のために自分の考察結果を広く社会に発信して、未来への指針を示すことのできる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、現代社会を現状固定的ではなく、歴史的に形成してきたものとして批判的にとらえる能力を身につけ、多文化共生の基盤となる多元的な歴史認識と国際的な視野をもって、社会に貢献でき

る人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. さまざまな社会事象現象について広い視野から歴史的な洞察をする能力
2. 既存の研究に即して、自ら問題を発見する能力
3. 各種の史料を正確に解読し、史実を調査・分析する能力
4. 調査結果から一定の歴史像を構築し、的確に表現・発信する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「幅広い学習から専門性の高い研究」へといったるよう、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1年次に、歴史学の初步的な理論や方法を学び（「研究入門」「入門演習」）、各分野の基礎知識を幅広く獲得させる（各種「概説」）。
2. 2年次に、各自の専攻分野を決定し、それぞれの分野の重要な諸研究や原史料に触れる（「教養演習」、「講読演習」）とともに、最新の研究成果や専門的な知識・技法・考収能力を身につけさせる（各種「特講」）。
3. 3年次に、原語で書かれた専門書や原史料の正確な読解能力を培うとともに、プレゼンテーションや討論を通じて研究能力の育成をはかる（各種「演習」）。
4. 4年次に、これまでの学修の集大成として、自ら問題を発見して追究し、それを論理的・客観的に表現・発信する力を身につけさせる（卒業論文）。

#### [アドミッション・ポリシー]

歴史学は「過去を学ぶことによって、現在を深く理解し、未来への指針を獲得する」学問です。それに向いている資質を持った以下のような学生を受け入れます。

1. さまざまな社会事象やその歴史的背景について、幅広い関心と知識欲を持っていること。
2. ありきたりの解説に満足せず、自分の頭で考え方問題点を発見しようとする主体性を持っていること。
3. 史料の記述とねばり強く対話し、客観的に読解できるような忍耐力、文脈を把握する論理的な思考力を持っていること。
4. 自らの主張を論理的に組み立て、他者に分かりやすく提示できる表現力を持っていること。

## 国文学科

#### [教育研究上の目的]

日本文化研究の中核を担う学科として、国文学・国語学・漢文学の有機的連関のもと、古典学を教育・研究の基盤にすえ、読解力・思考力・表現力を鍛えながら、人間・社会・文化の本質を問う学識と見識を養うこと

#### [人材養成の目的]

専門性と学際性を兼ね備えた多角的な思考方法の養成を重視し、教育・研究の世界をはじめ、国際化のなかで貢献しうる人材を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、原典資料を精密に解読する力を持ち、そこから得られた確実な論拠に基づいて、独自の見解を説得力のある形で公表することができるこことを目指し、どのような時代・分野を専攻する者でも、国文学（日本文学）・国語学（日本語学）・漢文学の三分野を偏りなく学びます。学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めており、卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 江戸期以前の原典資料が精確に解読できる技術を身に着け、そのために必要な、背景の文学史・国語史の知識を活用する能力
2. 江戸期以降の板本や、近代・現代の多種のメディアを理解し、それらに依存した各時代の言語表現についての、的確な判断力
3. 上代から現代に至る各時代の言語作品の歴史とそれぞれの特質を、原典資料に基づいて理解し、諸学説の得失を根拠を以て論じる能力
4. 各時代の日本語の音韻・文法特徴を、具体的な言語作品に基づいて調査する方法を修得し、その調査に基づき独自の見解を発表する能力
5. 漢文訓読の技術を身に着け、漢文訓読の歴史を把握した上で、漢文表現が日本語にもたらした精華を理解して、文語文・漢文を味読する能力
6. 上記の知見と判断力・表現力の醸成の上に、卒業論文を執筆し、客観的で着実な原典解読に基づいて、独自の見解を主体的に主張し、しかもそれが独善に陥らないような対話性・協働性

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、国文学（日本文学）・国語学（日本語学）・漢文学の三分野を偏りなく学ぶことにより、日本の言語文化の精髓に達し得るように、原典資料の精密な読解を重視し、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 江戸期以前の原典資料が精確に解読できるような導入・指導を行ない、併せて、そのために必要な背景の文学史・国語史の知識を与える。
2. 江戸期以降の板本や、近代・現代の多種のメディアについての指導を行ない、各時代の言語表現との相関について、的確な判断力を養う。
3. 上代から現代に至る各時代の言語作品の歴史とそれぞれの特質を、原典資料に基づいて理解させ、主要な学説・論争について、根拠を以て論じ得る力を養う。
4. 各時代の日本語の音韻・文法特徴を、具体的な言語作品に基づいて調査する方法を修得させ、その調査に基づき独自の見解が発表できるように指導する。
5. 漢文訓読の技術を身に着けさせ、漢文訓読の歴史について指導した上で、漢文表現が日本語にもたらした精華を紹介して、文語文・漢文を味読させる。
6. 上記の知見と判断力・表現力の醸成の上に、卒業論文を課し、客観的で着実な原典解読に基づいて独自の見解を主体的に主張させ、それが独善に陥らないための対話性・協働性を、論文指導の過程で養

う。

#### [アドミッション・ポリシー]

日本の伝統的な言語文化と日本語の特質を理解するために、文語や漢文訓読も含んだ日本語の豊かな言語作品を、国文学・国語学・漢文学の領域で広く深く学ぶ意欲を持ち、そのための基礎的な読解力を備えている学生を受け入れます。

1. 古代から現代に至る日本の文学作品に関心があり、それぞれの原典資料を、より深く、より綿密に判断して読み解く力を更に伸ばし、自らの主体的な新しい読み方を発見し、それを他との対話の中で磨いて行くことに意欲がある。
2. 古代から現代に至るまで一貫して「国語」であり続けた日本語の仕組みを、時に他国語との対照も交えながら、主体的に解明して行くことに意欲がある。
3. 日本語・日本文学の歴史で、常に基盤の一つであった漢文体に関心があり、漢文体の作品を味わう力を、更に伸ばすことに意欲がある。

#### 英文学科

#### [教育研究上の目的]

英米の文学、思想、文化の知見を広めるとともに、体系的かつ批判的な視点から問題を見つけ、調査・分析によって得た結果を日英両言語で論理的に伝達する能力を身につけること

#### [人材養成の目的]

言語、文化、思想、歴史、社会の深い理解に基づく見識と高度なコミュニケーション能力を用い、国際社会において現実に起こりうる未知の諸問題に対処できる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、人間的営為に必然的に付随する意味の多義性、曖昧さを読み解くためのリテラシーを獲得する人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 日本語と英語で現実の表象の仕方が異なることを理解する能力と発信・受信の双方向における言語表現の多様性への感受性
2. 文化の多様性、異文化理解といった概念を、社会の表層を上滑りする言説としてではなく、自らの言葉で再構築、再解釈する必要性を認識するために不可欠な読解力、思考力、想像力、表現力
3. 知的訓練を体系的に積み重ねることによって、社会のさまざまな側面で遭遇する現実的な課題に対し、自らの置かれた立場を見失うことなく対処する能力
4. 言語の有用的側面の先に存在する、学問という知的営為がもたらす豊かさの重要性を実感する能力
5. 日英両語における高水準の言語能力および英語圏の言語、文学、歴史、文化に関する系統的な専門知識を修得し、それを実社会での生活や仕事に活用する能力

### **[カリキュラム・ポリシー]**

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語の社会的側面と言語芸術としての側面の両者に重点を置くことで、リテラシー獲得のための相乗効果が得られるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 4年間の学修過程のなかで、3つに大別された専門領域コースのいずれかを選択し、それぞれの領域に必要な専門的知識を順を追って体系的に学ぶことにより、系統的な知識の獲得、理解、応用の実現を可能にする。
2. 知識の享受、個々人での読解、学生相互間での議論、他者に向けてのプレゼンテーション、教員との双向方向的な意見交換といった多様な知的訓練を織り交ぜることで、理論と実践両面における汎用的な言語表現能力を体得させる。
3. 4年間にわたり、自習も含めた自立的、主体的な学修に裏打ちされたスキル・クラスを通して英語の高度なリテラシーを獲得すると同時に、その学修過程を、日本語という第一言語についての知識と運用能力を意識的に捉え直す契機とする。
4. 英語という他者の言語で書かれた他者の体験についてのテクストを精読することで、言語の意味作用の多義性に意識的になるようにする。
5. 系統的に修得された英語圏の言語、文化、歴史に関する知識の活用として、英語教員や翻訳家などの専門職養成科目を配置する。
6. 修得した専門分野の知識力、言語力、思考力の集大成として、日本語ないし英語で独創的かつ論理的な卒業論文を作成させる。

### **[アドミッション・ポリシー]**

本学科では、言葉というもの全般に興味があり、特定の言語のもつ社会的な意味作用や、言語表現としてのテクストの読解、分析に関心がある学生を受け入れます。

1. 英語の修得が必要である理由を、国際共通語であるからという点のみに求めてしまうのではなく、国際共通語としての英語をとりまく負の要素も視野に入れたのち、それでもなお英語を学ぶ意味はどこにあるのかを考えることができる。
2. 言語こそが人間の営為の根幹を形作っていることを理解し、その人間の言語活動の重要な一角を成している文学に、一定以上の関心がある。
3. 他者を知るということは自己を知ることと連動しており、そのための媒介となるのが言葉であり、また言語表現としてのテクストであることを認識したうえで、そのテクストを読み解くための一定以上の英語運用能力を有している。

### **ドイツ文学科**

#### **[教育研究上の目的]**

総合的なドイツ語運用能力を習得し、古典から現代にいたるドイツ語圏の文学、思想、美術、音楽などを

歴史的・文化的文脈のなかで考察する能力を養うこと

#### [人材養成の目的]

ドイツ語圏の文学・文化を広い視野において考察することを通じて、複眼的な視点、柔軟な判断力、高度な言語表現能力をもつ人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、ドイツ語の学修とドイツ語圏を中心とする欧米の文学・文化の研究によって、以下の資質を備えた人材の養成を目的としており、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たした学生には、学位を授与します。

1. 総合的なドイツ語技能（読む・聞く・話す・書く）を修得することで、ドイツ語話者との共感に基づく高度なコミュニケーションを、日常会話から学問的議論まで様々なレベルにおいて実現する能力
2. 文学及び美術や音楽等、諸芸術の研究・享受により育まれた豊かな想像力と論理的創造的思考力をもって、古今の多種多様なテキストの意味内容を的確に把握する能力
3. 様々な時代や地域、文化現象における問題点、研究テーマを自ら発見し、分析的に考察する能力。またそれによって得た知識や見解をドイツ語ないし日本語で明晰に表現する能力
4. ドイツ語と英語の学修によって獲得された「複言語主義」的視点において、世界の多様さと豊穣さを認識し、多角的な視座から人間の來し方行く末を洞察する能力
5. 自国とは異種の思想・文化を歴史的社会的背景もろとも理解することで、他者に向かって開かれた精神性を身につけ、ドイツ語圏文化に関する広範かつ深い理解に基づいて、自国と欧米諸国との相互理解、文化交流に貢献する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、異文化間交流に寄与する資質と能力を開発・促進するため、ドイツ語の学修及びドイツ語圏文化の研究を軸に、次のようにカリキュラムを編成しています。

- 1・2 年次では、総合的実践的なドイツ語能力（会話・読解・作文）を短期間で確実に体得できるよう、日本人とネイティブ教員が連携して実施する小人数の語学授業に能動的に参与させる。
2. 初年次においては、ドイツ語圏の言語・歴史・芸術に関する概括的な知識、文化研究の方法論を修得し、さらに人文科学研究における問題意識を培うための科目群を配置する。
3. 3・4 年次では、ドイツ語圏の文学、諸芸術を主題とする多様な講義・演習、上級レベルのドイツ語科目を通じて学識を深化させると共に、批判的分析能力、総合的判断能力、実践的コミュニケーション力を養う。
4. 4 年次には、在学中に修得した文化研究の手法及び知識の集大成として、また優れて学問的な論理構成力を身につけられるよう、教員の個別指導の下、日本語ないしドイツ語での卒業論文を作成させる。
5. 日独比較文化研究、文学部横断プログラム、他学部他学科開講科目の履修、またドイツ語圏大学への留学を通じて、自他の歴史や社会、文化に対する俯瞰的な視野の獲得と、より深い相互的理解の実現を図る。

### [アドミッション・ポリシー]

本学科は、上智大学の建学の精神についての十全な理解に加えて、以下のような資質を持った学生を受け入れます。

1. ドイツ語圏の文学、芸術、思想、歴史等々に大きな関心を持ち、それらの学修に不可欠のドイツ語能力を確実に体得するため、日々の地道な努力を厭わず、自発的・持続的に勉学に取り組むことができる。
2. 異文化に関する新しい知識や体験を求めようとする知的好奇心が旺盛で、自由で柔軟な精神を有し、加えて高度に学問的な内容の文章を読み書きするのに必要な論理的思考能力と豊かな言語表現力を持っている。
3. 現代世界のありようを多角的に捉えることのできる視点、そして自己とは異質な文化を育んできた「他者」に対する想像力と寛容の精神、畏敬の念をもって、自国とドイツ語文化圏の相互的理解と協力関係の深化に貢献しようという強い意欲を有する。

### フランス文学科

#### [教育研究上の目的]

読む・書く・聞く・話すという4つのフランス語運用能力を総合的に習得させるとともに、文学を中心に、フランス文化に関する深い教養を身につけさせること

#### [人材養成の目的]

高度なフランス語運用能力とフランス文化に関する教養を備え、複眼的思考と異質なものへの寛容さを身につけた、国際的な場でも活躍できる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、フランス語の修得、及びフランス語圏の文学を中心に、様々な文化・社会事象の学習を通じて、複眼的思考や批判的精神や創造性を備えた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 文学や芸術・文化に対する関心と理解力
2. 仕事や研究や社会貢献に役立つフランス語運用能力
3. 情報や知識を能動的に獲得し、それを客観的かつ多角的に分析する思考力
4. 自分の意見や研究の成果を、口頭や文書での確に構成する力と、わかりやすく伝える表現力
5. 自発的に課題を見出だし、解決してゆくための総合的な力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、入学から卒業まで、専任教員が継続的に学生の知的成長に寄り添い、ひとりひとりの個性を尊重しながらその能力を伸ばしてゆくことができるよう、次の趣旨を

盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1・2 年次のフランス語教育においては、小人数のクラス編成により、読む・聞く・書く・話す能力をバランスよく養成する。また人文学研究に必要な知識や方法論と、口頭発表や論文作成に必要な技術やアカデミック・リテラシーを身につける。
2. 3・4 年次には、文学テキストの精読や文学研究に加え、高度な実践的フランス語運用能力を修得するための科目や、美術、舞台芸術、映画、思想、社会など、様々な領域に関わる科目を開講し、個々の学生が自らの関心に応じて、文化・社会事象を探求できる力を養成する。
3. 卒業論文を必修科目として、4年間に修得したあらゆる知識や分析力を総合的に活用させる。
4. 4年間の学習における教育目標の一貫性、および教育プログラムの継続性と発展性を重視する。またいずれの段階においても、一方的な知識伝達に終始することなく、学生の資料収集能力や読解力、表現力、協調性をのばすための実践的な教育を重視する。
5. 高度なフランス語力とフランス及びフランス語圏の文化や社会に関する知識を身に着け、英語・日本語以外の言語による情報の収集と発信、及び異文化社会間の相互理解や協力関係の深まりに寄与する人材を育成する。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

ひとりひとりがフランス語の修得と、フランス語圏の文学をはじめとする文化事象の学習を通して人間に対する理解を深め、他者との平和的共存をはかりつつ自己の個性を高めてゆくことを期待する本学科は、以下のような学生を受け入れます。

1. フランス語やフランス語圏の文学・文化を学び、柔軟かつ論理的な思考力を養い、自己とは異質なもの理解することに関心や意欲がある。
2. 人文学に関する講義を聞いたり、芸術作品を鑑賞したり、書物や論文を読んでその要点をまとめたり、自分の考察を口頭や文書で発表するために必要な常識と、言語能力とを備えている。
3. 自発的、主体的に考え、学ぶことができると同時に、他者との対話や共同作業を通じて学びあうことの意義を認識している。

#### 新聞学科 (SPSF は別添参照)

#### 〔教育研究上の目的〕

ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション全般を対象に、その社会的役割や機能、影響過程など、報道やメディアに関わる諸問題を幅広く考察すること

#### 〔人材養成の目的〕

社会人に必要なコミュニケーションに関する教養を備え、高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につけた人材を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報といった諸領域を対象としたこれまでの学問的蓄積と、それらを踏まえた実践的な調査能力、分析力、批判力、構成力、表現能力
2. 「理論と実践」の両面からバランスよく学び、ジャーナリズムの現場やメディア・コミュニケーション、情報などを扱う分野で活躍するための能力
3. 情報化が進む現代社会を、よりよく生きるために高度なコミュニケーション能力とメディアリテラシー

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報に関する諸領域を、理論的アプローチ、メディア別のアプローチ、国際的なアプローチ、現実的な諸問題の分析アプローチから学ばせる。
2. 上記カリキュラムと並行して、その表現力、検証力、批判力などの能力の向上に向けた実践的アプローチもバランスよく扱うことで、「理論に偏せず、実践にも偏らない幅広い教育」を実現する。
3. 全ての学生が、専任教員が担当する個別の演習を履修し、小人数教育のなかで、批判的な見方や研究・分析の能力、倫理を醸成する。
4. 4年間で修得した知識、分析力、技能の集大成として、専任教員の個別指導の下で卒業論文を課す。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科では、以下のような学生を受け入れます。

1. 情報化が進む現代社会において、ジャーナリズムやメディア・コミュニケーションの諸領域に積極的な関心を持ち、それを深く学び、考える意欲がある。
2. 現代社会に対する問題関心を突き詰める姿勢と、それらの問題について批判的に検証する論理的な思考力、判断力がある。
3. 自らの問題関心に基づいた調査研究の成果を表現する能力、説明する対話力がある。

### 3. 総合人間科学部

#### [教育研究上の目的]

ヒューマン・サイエンス、ポリシー・マネジメント、ヒューマン・ケアの三つの知を柱とする科学的思考を養うとともに理論・実践・臨床に関する学際的教育・研究を行うこと

#### [人材養成の目的]

人間の尊厳を重視する精神を育み、人間支援の実践・臨床、運営に関するデザイン・政策形成に貢献し、全人的教養教育に根ざした人間の尊厳実現に貢献できる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人間の尊厳を重視する態度と人間や社会に関する幅広い教養を有し、国際的な観点から総合的かつ多角的に人間や社会が直面する諸問題を理解する能力
2. それらの問題を適切な科学的方法を用いて分析し、他の専門領域の人々とも積極的に協働しながら、解決に向けて取り組む能力
3. 変化し続ける社会の中で、常に問題意識を持ち、自己研鑽に励み、人格的成长を目指す力。

### [カリキュラム・ポリシー]

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じて次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1・2年次では、基礎科目群や他学科の専門科目の履修を通して、人間の尊厳とは何か、それを実現するためにはどんな知識や能力が必要かを幅広く学ばせる。
2. 3年次になると演習や学内外の実習を中心として少人数教育が提供され、学生は思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけさせるとともに、問題解決に必要な方法論（理論や研究法など）を実践を通して学ばせる。
3. 4年次では、自らが問題を設定し、解決のためのデータを収集し、そのデータに基づいて分析し、そしてその成果を発表する場を提供する。

### [アドミッション・ポリシー]

人間の尊厳とは何かを理解しその実現に向けて、教育、医療、福祉、さらには日々の生活の中で実践できる人材の養成を目指している総合人間科学部では、以下のような学生を受け入れています。

1. 個人や社会、さらには諸外国で起きている人間の尊厳に関わるさまざまな事象に対して強い関心を持っている。
2. それらの事象を論理的かつ客観的に分析し表現するために必要な基礎的な知識と能力を持っている。
3. コミュニケーション能力を高め、他の専門領域の人々とも積極的に協働することができる。
4. 困難な状況にある個人や地域社会を支援し、国際社会の発展に貢献したいという意欲に満ちている。

### 教育学科 (SPSF は別添参照)

### [教育研究上の目的]

人間と教育をめぐる諸問題を教育学的観点から総合的・多角的に考究し、人間尊重の教育を実現する力を養うこと

### [人材養成の目的]

人間の尊厳を基底に置く、人間性と専門性に優れた教員や研究者を養成するとともに、国際社会でも活躍できる自立性と教育学的教養を備えた人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 教育学と関連する諸学に関する幅広い知識を身につけ、国内外の人間と教育を巡る諸問題を教育学的に考察するとはどういうことが理解できると共に、人間尊重の教育に関する豊かな実践的イメージを持つ能力
2. 国内外の学校・社会・家庭・企業などで行われている教育的営みと、そこで生じる現象や問題について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの知識と方法を用いて教育学的に読み解くと共に、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現する能力
3. 人間の尊厳を基底に置き、国際的な視野を携えて、教育に関わる問題解決や人間尊重の教育の実現に向け、多様な他者と主体的・友好的に協働し、絶えざる自己省察を繰り返しながら粘り強く取り組む能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 総合人間科学部の他学科と同様に「全学共通科目」、「語学科目」、「学科科目」（学部共通科目、学科専門科目）で構成され、広い教養と深い専門性の調和的実現を目指す。
2. 広範な教育学の諸領域を構造的に把握し、その独自な学問性を体系的に身につけられるよう、「基礎的領域」（教育哲学、日本教育史、外国教育史、教育社会学、教育行政学など）、「実践的領域」（学校教育学、学校臨床社会学、教育方法学、社会教育計画論など）、「国際的領域」（国際教育学、比較教育学、国際教育開発学など）の3領域で編成する。なお、「国際的領域」では英語による科目も開講する。
3. 1年次前期に、教育学基礎演習を必修科目として履修し、大学での学びを進める上で求められる基本的な事項やスキルを習得させる。1・2年次では各概論を必修及び選択必修として履修し、基礎的な事項や視点、方法論を学ばせる。3年次前期には、1・2年次の学びを基盤にゼミ（演習）を選択し、各専門の立場から人間と教育を巡る問題へのアプローチと、そのために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけさせる。3年次後期には、ゼミを中心的な場としてさらに専門性を深めると共に、一人ひとりが独自に探究する課題を定め、取り組むことで、事象を教育学的に読み解き問題解決の筋道を模索する能力、人間の尊厳を希求する態度、国際的な視野などを育む。4年次には、卒業論文の作成に取り組むことを通して、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現できるようになると共に、絶えざる自己省察を繰り返しながら問題解決に粘り強く取り組む資質・能力を身につけさせる。
4. 3領域で構成された立体的な学びを通して教育学を体系的に身につけると共に、各自の問題关心や将来展望に即して、他学部・他学科科目を含めた関連する多様な科目群からの履修が可能となっている。また、その際、国際的な視野を身につける基礎的能力の涵養に配慮し、英語による開講科目を数多くリストアップしている。

5. より主体的・対話的な深い学びを実現すべく、学習方法にも工夫を施している。講義ではリアクションペーパーへの記入を求め、次時に教員がコメントしたり、整理された多様な意見について、さらに学生同士で議論したりする。ゼミでは個人やグループでの発表と討議が基本となるが、さらに国内外の他大学のゼミとの交流活動や、海外も含めたフィールドワークを行うこともある。卒業論文の最終審査は公開での発表会としており、多くの聴衆を前に効果的なプレゼンテーションを工夫する場としている。
6. 一人ひとりの学習の成果や状況について、より多面的できめの細かな評価を実現すべく、学期末試験に加えて、授業中のリアクションペーパーやワークシート、議論やグループワークへの参加・貢献状況の見とり、学期の途中でのレポート提出や試験の実施など、様々な評価指標・評価方法を組み合わせた評価を行っている。
7. 人間尊重の教育に関する実践的イメージを持つ能力や、国際的視野を携えて多様な他者と協働し、粘り強く取り組む能力の滋養を図るために、インターナーシップ科目を選択科目として充当する。

#### [アドミッション・ポリシー]

人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、国際社会や異文化に対して広い関心を有する探究心の旺盛な学生を求めていきます。

1. 人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を抱く学生を求めています。その際、国際社会や異文化に対して広く関心を有する探究心の旺盛な学生を特に歓迎します。
2. 学習の基礎力として、どの入試種別においても、日本語を用いて論理的に思考し、表現する能力と、英語による基礎的なコミュニケーション能力を要求しています。その上で、自らの考えを率直に表現できると共に、広く寛容な姿勢で他者の考えを受け入れ、柔軟に発想し、複眼的に思考することのできる学生を求めています。
3. さまざまな個性や多様な文化的背景を有する学生を歓迎します。  
また、特別入試では、新聞等で報道される時事的問題の水準において、教育に関わる諸問題への関心や理解、それらに対して自分なりの考え方を形成し表現する基礎的能力を備えた学生を受け入れます。

#### 心理学科

#### [教育研究上の目的]

人間の「心」に関する科学的アプローチを通じて、人間がよりよく生きるために必要な、自らの心を的確に把握し、他者の心の動きを冷静にしかし暖かなまなざしをもって見つめる視点を養うこと

#### [人材養成の目的]

時代が求める「心」を探求する力を涵養し、人の「心」をとらえるための総合的視野を持つ人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 心理学の考え方や理論を理解し、自分の言葉で説明する能力
2. 心理学のさまざまな研究法、技法について、実践を通して理解する能力
3. 協働的な学びを通して、コミュニケーション・スキルを修得し、心理学についての理解を深める能力
4. 卒業研究を通して、自らテーマを設定し、ふさわしい方法で研究を進め、分析し、結果をまとめて考察を書く能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の知識を幅広く身につけさせるために、心理学の基礎から、心理学の専門領域ごとの講義科目、特殊講義科目を配置する。
2. 心理学のさまざまな研究法、技法を修得させるために、1年次に基本を学び、学年が上がるごとに徐々に高度な研究法についての科目を配置する。
3. 協働的な学びを通して、コミュニケーション・スキルを修得させ、心理学についての理解を深めていくために、演習を中心とした科目を1年次から継続的に配置する。
4. 卒業研究に関する科目を履修して、卒業論文をまとめる。

### [アドミッション・ポリシー]

他者に対する温かな関心と人間の尊厳を尊重する姿勢を持ち、次のような素養を持つ学生を求めていきます。

1. 身の回りで起きていることに対して好奇心を持ち、自ら調べ、学んでいこうとする意欲のある学生、さらに、物事を多角的な視点から柔軟に眺めようとする意欲のある学生。
2. 先行する多くの文献を臆することなく読み進めることのできる学生、さらに、さまざまな領域の人々と協働的に学ぶことのできる学生。
3. 物事を論理的かつ客観的に分析し、文章にまとめたり口頭で発表したりすることのできる学生。

### 社会学科（SPSFは別添参照）

### [教育研究上の目的]

社会に関する問題関心を養い、社会現象に社会学的視点からアプローチし、実証的な方法を用いて分析し、そのメカニズムを理解する能力を養うこと

### [人材養成の目的]

社会学的な思考法と方法論を習得し、実践的な場面で、国際的な視野と人道的な立場から問題解決について提言できる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、次のような能力をもつ人材を養成することを目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会について様々な問題関心をもち、社会現象の理解に社会学的視点をもってアプローチできる能力
2. 基礎的な理論と実証的な方法を用い、社会現象のメカニズムについて理解と分析をする能力
3. 現代社会の諸領域の特徴を社会構造と社会変動との関連の中で把握する能力
4. 多様な他者を理解し、他者と共に存する社会の形成に向けて、社会学的な視点を活かした問題解決が提言できる能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 基本的な社会学的視点と、問題関心を社会学的に設定する方法について、少人数の演習によって修得させる。
2. 社会学の基幹となる「理論と方法」について、社会学理論によって論理的思考法、問題意識の概念化・モデル化を理解し、社会調査法による質的調査および量的調査の技術を修得させ、社会現象の分析能力を養う。
3. 身につけた理論と方法を現代社会の特定領域に応用して、その構造と変容の理解を深める。
4. 各自の問題意識にもとづいて研究課題を設定し、人間の尊厳を重視したグローバルな視野から、高度な社会学的な分析と考察ができる力を養成する。

### [アドミッション・ポリシー]

本学科は、学位授与に向けた人材養成の目的を達成するため、以下のような意欲や関心を持つ学生の受け入れを希望します。

1. 社会や文化と個人との多様な関係を深く理解するため、政治・経済・歴史など社会の広い領域への関心を持つこと。
2. 論理的な思考力とコミュニケーションへの積極的な姿勢を持ち、さらにそれを鍛えて、他者や社会に対する豊かな想像力を育みたいという強い意欲を持つこと。
3. 社会のメンバーが相互に理解しあい、その誰もが尊重される公正な社会の実現に向けて、自分なりの方法で貢献していきたいという将来構想を持つこと。

## 社会福祉学科

### [教育研究上の目的]

人間の尊厳が実現される社会を構築するための、新しい福祉社会を構想し、それを実現するための政策・

運営管理を行う能力を養うこと

**[人材養成の目的]**

新しい福祉のあり方を福祉の実践現場、地域社会、行政で実現するために、その指導的役割を担うことができる人材を養成すること

**[ディプロマ・ポリシー]**

本学科では、福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会福祉学の基本的概念と価値観を学んで得た人間の尊厳を重視する精神・態度
2. 幅広い視点をもち、他者や社会の理解を深め、社会福祉のさまざまな分野についての構想を持つ能力
3. 社会福祉の政策・運営管理についての知識と技能を取得し、駆使する能力
4. 社会福祉の臨床についての知識と技能を取得し、駆使する能力
5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルと、専門的知識および実践能力を身につけ、社会福祉の現場などで活用する能力

**[カリキュラム・ポリシー]**

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目により、社会福祉の基本的概念と価値観を修得させる。
2. 社会福祉分野に関する科目により、幅広い視点から、他者や社会の理解を深める。
3. 福祉政策運営管理に関する科目により、社会福祉の政策・運営管理について学び、関連した知識と技能を修得させる。
4. 福祉臨床に関する科目により、社会福祉の臨床について学ばせ、関連した知識と技能を修得させる。
5. 演習・実習に関する科目では、少人数のディスカッションやグループ学習により、コミュニケーション・スキルや、専門的知識・実践能力を身につけさせる。

**[アドミッション・ポリシー]**

本学科では、以下のような学生を受け入れたいと考えています。

1. 人間の尊厳に深い関心を持ち、社会の発展や世界・地域に貢献するために主体的かつ自発的に学ぶ意欲がある学生を求めています。
2. 社会や福祉についての基本的な知識、新しい福祉社会について自由に考えることができる柔軟性と、他者とコミュニケーションを取りながら問題解決を図ることができる技能を求めています。
3. 卒業後は、社会福祉の実践現場はもとより行政機関や産業界を含む、さまざまな場面で活躍し、新しい福祉社会を政策的・運営的にデザインし創造していくためにリーダーシップを発揮していくことを期待しています。

## 看護学科

### 〔教育研究上の目的〕

総合的教養教育と専門職業教育の融合（プラクティカル・リベラルアート）という視点にたって、基本的看護実践力、自己学習推進力、ヒューマンケアリングの実践と人格と叡智の涵養に資する研究、教育を行うこと

### 〔人材養成の目的〕

多様な分野で貢献できる人材の養成を目指し、ヒューマンケアに関する理論・実践・研究を発展させ、他領域の知見・学術を学び、政策・サービスマネジメントなどを含めて広い視点に立脚した、リーダーシップを内外で発揮しうる看護人材を養成すること

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、総合的教養教育と職業専門教育を融合した新たな看護教育（プラクティカル・リベラル）をおこなうことによって、基本的看護実践力、自己学習推進力、ヒューマンケアリングの実践とともに人格と叡智の涵養に努め、広く社会への視点を有し、人間の尊厳を基底にした、深い教養と研究・実践力を備えた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 幅広い教養を身につけることによって、看護学を俯瞰的に捉え、社会に期待される新たな責務と役割を考える能力
2. 人間の尊厳について深い視座をもち、どのような状況にあっても相手の価値観を尊重し、共感的理解をもって接する能力
3. 看護専門職としての必要な知識と技術を修得し、自らの手を通してヒューマンケアリングを実践する能力
4. クリティカルシンキング力を備え、変化する社会と人々の健康問題を的確に捉え、対象にとって最善のケアの方向性を考える能力
5. 進歩する医療のただなかで、常に目的意識と目標を持ち、それにむけて専門職業人としての能力的、人格的成长をめざし自己学習を推進する能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、キャリア形成に資する科目を履修し、ヒューマンケアに関する理論・実践・研究を発展させ、他領域の知見を学び、政策・サービスマネジメントなどを含めて看護をめぐる諸問題に対応しうる研究・実践力を備え、国際社会でも活躍できる資質を形成するよう、次のカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目では、キリスト教人間学、外国語科目と、すべての学問領域を横断的に俯瞰できるような教養科目を履修させ、本学学生としての基本的姿勢を身につけさせ、看護を大局的に考えていくまでの基礎を形成する。

2. 学部共通科目では、総合人間科学入門の他、総合人間科学部の他の4学科の専門科目を履修させ、人間の尊厳についてのさまざまなアプローチを学ばせ、人間理解を深める。
3. 1, 2年次には、看護基礎科目を配置し、クリティカルシンキング力を育成しながら、健康と環境への看護的視点を養い、看護の基本となる知識、技術を育成する。
4. 3年次では、看護専門科目のうち「人間の発達と看護」、「人間の健康と看護」に関する専門的知識群および実習を配置し、専門職としての能力と技術を修得させる。あわせてケアリング、看護倫理等の科目を配置し、ヒューマンケアリングの実践に向けた基礎力・実践力を培う。
5. 4年次では、看護専門科目のうち「場に応じた看護」に関する科目と看護管理に関する科目を配置し、より深く看護の専門性を深めると同時に、自立的な学習姿勢を養う。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科の設置の目的を理解し、人間と社会をめぐる諸問題に关心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、幅広く深い学術への关心を持ち、科学の知、臨床の知、政策・運営の知を積極的に学ぶ姿勢を有し、ひとびとの健康と福祉に多様な形で貢献し、従来の職業看護教育を超えた看護の発展に寄与しようとする探究心の旺盛な学生を求めています。

1. 幅広く深い学術への关心を持ち、科学の知、臨床の知、政策・運営の知を積極的に学ぶ姿勢を有している学生を受け入れます。
2. 健康に関する諸問題に关心を持ち、それらの問題をさまざまな視点から考えることのできる学生を受けれます。
3. 人々の健康と福祉に多様な形で貢献する明確な意志を持った学生を受け入れます。
4. 看護学の発展に寄与しようとする探究心の旺盛な学生を受け入れます。

#### 4. 法学部

#### [教育研究上の目的]

法律学及びその関連科目を広く学ぶことを通じて、社会に生起するさまざまな問題について法的に考える力を養うこと

#### [人材養成の目的]

現代社会に対応できるような法的思考能力や問題分析能力を有し、かつ国内だけでなく国際社会でも活躍できる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学部では、法的な基本知識や思考枠組とともに、広い視野と柔軟な思考をもって、主体的に問題の分析や解決にあたれるような能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を各学科で定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与

します。

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 法的な基本知識や思考枠組を修得し、広い視野と柔軟な思考をもって問題の分析や解決にあたることができるように、法律基本科目を基礎に置きながら、その発展的・先端的な法律科目を配置するとともに、政治学・経済学・国際関係論といった隣接科目を揃え、学科横断的に学ぶ。
2. 問題意識と学問的な関心をもって、より主体的に、かつ、掘り下げた議論ができるよう、少人数制のゼミナール形式の演習を設ける。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学部では、大学入学前までに身に付けておくべき学力を有することを前提として、国内外を問わず、現代社会に生起する問題や紛争、地球規模の環境問題などに関心を抱き、それを法学・政治学的な観点に照らしつつ、客観的かつ柔軟に考察し、みずから意見を主張するとともに、相手の意見に耳を傾けられるような学生を求めています。

### 法律学科

#### [教育研究上の目的]

法的判断枠組みの基本構造、実社会と法制度の関わりを重点的に学び、法律学の基礎的素養である問題解決能力を養うこと

#### [人材養成の目的]

法律学に特有の利益調整方法や問題の発見方法を習得し、これを活用しうるような法的思考能力を備えた人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、法の支配と公正な社会の更なる実現に向けて、次のような能力を修得した人材の養成を目的に、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会におけるさまざまな問題を法的観点から総合的・多角的に検討する能力
2. 社会におけるさまざまな問題の法的な解決に資する提言をする能力
3. 法的な思考枠組を現実のさまざまな問題に応用する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 法的な思考枠組を体得し、社会の問題を当該枠組を用いて検討する力を養うために、法律学の基本をなす憲法・民法・刑法をはじめとする実定法（法律基本科目）の講義を必修科目として配置する。
2. 問題の法的解決に資する力を養い高めるために、法律基本科目のみならず広くその他の実定法科目・基礎法学科目・隣接科目の講義を、選択必修科目または選択科目として配置する。
3. 法的な思考枠組を社会に生起する様々な問題に応用する力を養うために、少人数の演習を4年次の必修科目として（意欲ある学生のためには3年次以上での選択科目としても）配置する。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、社会に現実として存在する紛争や問題の法的な解決に資する思考力・構想力（いわゆるリーガル・マインド）を養成します。そのため以下の学生を受け入れます。

1. 社会と人間への高い関心を有する学生
2. 社会科学一般への柔軟かつ広い興味や国際問題への関心を有する学生
3. 高校までの学習により、上記関心を持つのみならず柔軟な思考のできる学生

#### 国際関係法学科

#### 〔教育研究上の目的〕

法学・政治学を基礎とした国際関係の分析力とともに、国際舞台で不可欠な語学力や幅広い教養を身につけさせること

#### 〔人材養成の目的〕

国連職員や外交官、その他一般企業において国際性ある職域をめざす者、国際的、涉外的な法律実務を考える者、さらに活発化する国際学術交流に貢献する研究者を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、人権の普遍性及び各國主権の平等並びに地域多様性を尊重する国際社会の構築に向けて、次のような能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 国際社会の諸問題に対して幅広い関心をもち、それらを考察するうえで必要な知識を自力で探査・獲得する能力
2. 国際社会の諸問題について法的及び政治学的思考力を基礎とした分析する能力
3. 世界における各地域の特殊性を理解し、異なる法文化及び政治文化を背景とした諸々の規範に適応する能力
4. 国際的な舞台で、最先端の法的及び政治学的知識を活用しながらみずから思考を的確に伝達する能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 法学及び政治学のリテラシーを身につけ、与えられた問題を法的及び政治学的に設定し考察するための基礎的な方法論を修得させる。
2. 国際社会の諸問題を考察するうえで足がかりとなる国内法及び国内政治の理論並びに国際関係法及び国際政治学の理論を体系的に学習させ、理解を深める。
3. 少人数の演習形式の授業の中で、身についた理論と方法を国際社会の具体的な問題に応用し、その解決に向けた提言を模索する。
4. 各自の問題意識に基づいて設定した課題に係る研究の成果を、国際的な舞台で発信できる力を養成する。

### [アドミッション・ポリシー]

本学科では、教員と学生が一緒になって、法学および政治学を基礎とした国際関係の分析を行い、解決に向けた提言を模索していきます。そのために、次のような特質を持つ学生を求めていきます。

1. 国際社会に生起する外交、安全保障、紛争、難民、商取引、婚姻などの諸問題について関心を持つ学生
2. 世界のさまざまな地域における社会のあり方を、偏見を抱くことなく観察し、分析することができる学生
3. 国際舞台で活躍する人材に成長するための基礎になるような一定の語学力を持つ学生

## 地球環境法学科

### [教育研究上の目的]

環境問題にかかわる世界と日本の法システムに関する素養を身につけ、環境問題を法的観点から総合的・多角的に検討する能力を養うこと

### [人材養成の目的]

環境法研究者、企業活動に係る環境法のエキスパート、環境法の知見を有する実務家や環境N G Oで活躍しうる人材、環境法の専門家として母国で活躍できる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けて、次のような資質・能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 法的な観点から環境問題を検討するため、日本の法制度に関する基本的な素養と問題解決のための思考枠組を修得し、現実の環境問題にそれを応用する能力
2. 個別の環境問題について発展しつつある日本の法制度の特徴を理解し、それぞれの問題領域の特殊性

- もふまえながら、適切な問題解決のあり方について考える能力
3. 環境問題に関する外国や国際社会の法制度を学び、よりグローバルな視野から問題を考える能力
  4. 法学に限定されない学際的な視野から、環境問題の解決に資する今後の政策のあり方を考える能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 日本法に対する素養や思考枠組を養うため、憲法、民法といった法律基本科目について、特に基本的な講義を必修科目として提供するとともに、学生のニーズに応じて選択可能な講義を幅広く配置する。
2. 法学の知見や思考枠組を様々な環境問題に応用して考える力を養うため、日本の環境法に関わる基本的な講義を必修科目として提供するとともに、個別の環境法制度に関わる講義等を選択必修科目・選択科目として配置する。
3. 國際的な視野から発展的に問題を考える力を養うため、外国や国際社会における環境法等に関わる講義を選択必修科目・選択科目として配置する。
4. 適切な環境法政策のあり方をさらに学際的に考えるための視点を養うため、政治学、社会学等の隣接科目に関わる講義を、選択必修科目・選択科目として配置する。
5. 関連科目の理解を深めると同時に、討論・論述等の能力の向上を図り、現実の問題解決に資する思考力と発信力を養うため、1年次の導入的な科目として、また4年次の必修科目（3年次も履修可）として、少人数の演習を配置する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科では、主に法学と政治学の観点から、日本や世界が直面している環境問題への取り組みに資する能力を養成します。そのため以下の特質を有する学生を求めています。

1. 環境問題に関わる人間や社会のあり方に対して、高い関心を有する学生
2. 海外事情・国際情勢に対する幅広い関心と一定の語学力を備え、グローバル化する環境問題にも対応しうる学生
3. 社会科学一般を中心に柔軟かつ広範な関心を有する学生

## 5. 経済学部

#### [教育研究上の目的]

経済学と経営学及びその関連科目の幅広い学習を通じて、現代社会における経済的活動と社会的問題について論理的に考える力を養うこと

#### [人材養成の目的]

グローバル社会に即した感覚と社会的責任や倫理を備え、経済学と経営学の幅広い基礎的知識と専門的知識を基盤とする高度な問題解決能力を有し、国内外で活躍できる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

キリスト教ヒューマニズムの精神を基盤とし、「広い視野と先見性をもち、国際的なリーダーとなる人材を育成する」という学部教育理念のもと、21世紀の高度な知識基盤型の社会においてリーダーとして活躍し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的として、本学部は学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済学と経営学の基礎および専門知識
2. 情報処理能力、コミュニケーション・スキル、問題解決能力
3. 早期卒業においては、高い問題意識と自己管理能力をもち、早期に社会において活躍する力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「叡智が世界をつなぐ」という大学ミッションと学部教育理念のもと、クラスを単位とした導入教育、専門科目の基礎と関連づけた少人数教育、専門性を養う講義、および教員と学生が相互に顔の見える関係での演習を核とする基幹教育や外部機関と連携した多彩な実践的教育によって、理論と現実をバランスよく学ぶ目的で、次の趣旨を盛り込んだ科目からなるカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目・概論による導入教育を通じて、経済学と経営学の基礎的知識を修得させる。
2. 基礎セミナーーやアクティブ・ラーニング・セミナーなどの少人数教育を通じて、経済学と経営学の理論的な知識を深く掘り下げて修得させる。
3. 専門科目と演習の基幹教育を通じて、学生の知的な関心に沿って専門性の到達度を向上させ、理論と現実のバランスのとれた知識と問題解決能力を高める。
4. 外部との連携講座を通じて、現実に即した多用な実践的知識を修得させる。
5. 英語特修プログラムを通じて、国際的な視野で議論できるようする。

### [アドミッション・ポリシー]

本学部は、キリスト教ヒューマニズムの精神を基盤とし、現代社会の諸問題に対して、経済学と経営学を基礎とした複眼的な視点から判断して適切に対応できる能力を養い、グローバルな社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. グローバル化する社会において、多様な諸問題に関心を持ち、その解決のために高い意欲をもって主体的に行動する学生を求めています。
2. 経済学と経営学の専門分野の特性を考慮し、外国語の能力とともに、経済学科では論理的思考力（数学）、経営学科では歴史などの社会科系の素養に秀でた学生を求めています。
3. 経済学と経営学の知識をもとにし、営利・非営利組織を問わず、多方面で社会に貢献しようとする意志と、潜在的な可能性を持つ意欲ある学生を求めています。

## 経済学科（SPSFは別添参照）

### 〔教育研究上の目的〕

演習・英語による講義などの少人数教育及びミクロ・マクロ経済学などの基礎教育において、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら習得し、現代社会の経済課題について論理的・実証的に分析すること

### 〔人材養成の目的〕

日々の社会問題・現象を経済学的な視点から分析し、自前の概念装置により社会を評価する能力を国際的な場で活かせる人材を養成すること

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済学的な視点の根幹を成すミクロ経済学・マクロ経済学の考え方や概念について理解し、自分の言葉で説明する能力
2. 経済学の知識を土台として、概念装置としての「モデル」を自ら構築し、現代社会における現実的課題を理解し、課題解決の方法を考える能力
3. 多様な社会経済現象について、情報処理の知識と技能を駆使して、データに基づく統計的分析を遂行する能力
4. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮して課題解決に貢献する能力
5. 学生一人一人の個性（知識、能力、興味など）に応じて、現代社会で活躍できる高い専門性を修得する能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のとおりカリキュラムを編成しています。

1. 複数の専任教員が担当する必修科目（A群科目：Introduction to Economics, ミクロ経済学A, マクロ経済学A・B）を通して、経済理論の基礎的知識を深く掘り下げながら修得させる。
2. モデル構築の基礎となる数理分析の知識を学ぶための経済数学科目「経済数学解析I・II」、ミクロ経済学あるいはマクロ経済学の応用科目である選択必修科目において社会経済現象を「モデル」として記述して分析する方法を学び、論理的思考能力を修得させる。
3. 情報処理に関する科目（統計学I・II、計量経済学I・II、データ分析演習など）を通して、データに基づく統計的分析能力を修得させる。
4. アクティブ・ラーニング・セミナーと演習（ゼミ）では少人数のディスカッションやグループ学習を行い、他者と協力して課題を解決するためのコミュニケーション・スキルを修得させる。
5. 学生が国際的な場で活躍できる英語でのコミュニケーション・スキルを身につけられるように、英語で提供される専門科目（ECOE : Economics Courses Offered in English）を選択必修科目に設置し、また一定の条件を満たした学生にプログラム認定を行う経済学部・経済学英語特修プログラム

(Faculty of Economics, Economics in English Program) を設ける。

6. ディプロマ・ポリシーで目標としている共通の基礎的な知識と能力を基盤として、さらにそれぞれの学生が自らの特性や興味にあった専門性を獲得することを支援するために、より専門性の高い経済学の科目に加え、経営学や他学部他学科科目を含む多様な専門科目を選択できるようにする。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科の基本的な教育目標は、現代社会を取り巻く現実的課題を解決するための論理的思考能力の涵養です。経済学的視点にもとづき構築したモデルを駆使する学問的特性から、経済学の論理には「数学的思考」が不可欠です。このため、本学科では、入試科目として、論理的思考の基礎となる国語・外国語（英語等）に加えて数学を必須科目とし、高い意欲をもつ優秀な学生を受け入れます。

1. 現代社会の諸問題に対して高い関心を持ち、社会に貢献できるようになりたいという高い意欲を持つ学生を求めています。
2. 論理的思考の基礎となる言語能力（自らの考えを整理して言葉で表現する力や他者の考えを理解する力）、および数学的な思考能力を備えた学生を求めています。
3. 学生が経済学科において、自ら主体的に行動し、対話を通じて他者を理解し、他者と協働できるようになることを期待します。

#### 経営学科 (SPSF は別添参照)

#### [教育研究上の目的]

高度な専門知識及び幅広い教養を身につけ、社会とのかかわりにおいて多様な視角から経営を理解し、実践していく能力を養うこと

#### [人材養成の目的]

ローカル及びグローバルな社会との関連で経営を理解し、専門知識に基づいた合理的な意思決定を行うことによって、企業経営だけでなく、地域社会・国際社会などに貢献できる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、学生が卒業時に身に付けていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. グローバル化・複雑化が進展していく経営環境を的確に分析するための知識や技能
2. 経営学の考え方や概念および専門的知識を理解し説明する能力
3. 現実社会における問題解決をリードするために、複雑で多様な情報を効率的に収集、処理し、問題解決へとリードする能力
4. 厳しい制約条件のもとで適切な意思決定をおこなうために、異質性や多様性を尊重する態度を持ち、オープンでフェアな議論、および情報発信する能力
5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮する能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1年次においては必修科目「経営学概論Ⅰ」および「経営学概論Ⅱ」において、専門的な学修を進めていく上で身に付けておかなければならぬ学修スキル、専門基礎知識、コミュニケーション能力、論理的な考え方、社会的な倫理観を修得させる。
2. 専門科目、および演習（ゼミ）において専門的知識を深め、現代社会の問題を解決するための能力を修得させる。
3. 1年次の「経営学概論Ⅰ」、2年次の「経営基礎研究セミナー」、3・4年次の演習と、4年間を通じた小人数科目で、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、コミュニケーション・スキルの向上を目指す。
4. 実務経験者や実務家による現実的な実務感覚を養う科目、および実際のビジネスの現場を学ぶ科目を開講する。
5. 國際的な場で活躍できるように、ネイティブによる英語科目、「経営英語」「Special Topics in Management」を通じ、ビジネスコミュニケーション・スキルを修得させる。
6. 専門的な知識を英語で理解する科目を選択必修科目に設置する。
7. 一定の条件を満たした学生にプログラム認定を行う経済学部・経営学英語特修プログラム（Faculty of Economics, Management in English Program）を設ける。

### [アドミッション・ポリシー]

本学科は企業の経営活動に関する高度な専門知識を体系的に学習すると同時に、グローバルな社会との関わりの中で経営活動を理解し、経営に関する合理的な意思決定により社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. 多様な現実社会の問題に対し関心を持ち、主体的に関わりあう意欲を持つ学生を求めています。
2. 多面的な視点から社会現象を論理的に分析して理解するために必要とされる日本語および外国語の能力、歴史などの社会科の素養、論理的能力に秀でた高い意欲を持つ学生を求めています。
3. 将来、営利組織、非営利組織を問わず、国内外の組織やプロジェクトにおいて活躍する意欲のある学生を求めています。

## 6. 外国語学部

### [教育研究上の目的]

外国語の高度な運用能力を養い、それをもとに、9つの研究コースにおいて、各専攻語が使用されている地域に関する地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究を行うこと

### [人材養成の目的]

各専攻語の運用能力、専門研究を通じて獲得した知識と複眼的な視点を基盤として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究の

専門家を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与する。

1. 人間に固有に備わる言語について多面的に考察する力
2. 日本語を含む諸言語の普遍性と多様性を理解し、さまざま言語事象について探求していく力
3. 社会、文化、教育など人間の生活における言語の幅広い役割を認識し、獲得した知識を積極的に活用できる力
4. 特定の国・社会・地域を、歴史・政治・経済・社会・文化など分野横断的に研究する力
5. 特定の国・社会・地域の事象や問題に関心をもち、専門的知識を駆使して深く分析する力
6. 日本を含む複数の国・社会・地域を比較することで、それぞれについて相対的に考察する力
7. 国際政治および市民社会・国際協力に関心をもち、専門的知識を駆使して深く分析する力
8. 日本語、英語を含む複数の言語で書かれた資料を読み、議論する力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、いずれも学生の能動的・積極的な参加を前提とする第一主専攻科目および研究コース科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・専攻語科目】1・2年次においては専攻外国語の基本的な運用能力を体系的・実践的に修得させる。それを土台に、3・4年次においては、より実践的、かつ専門研究に取り組む上で十分な運用能力を身につけさせる。オールラウンドな語学の基礎力が身につくように、口頭・筆記による練習を中心授業を進める。
2. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、専攻語が使用される地域における歴史・政治・経済・社会・文化・言語に関わる基礎的な知識を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
3. 【研究コース・導入科目】2年次秋学期に学生は各自の興味関心や志向にしたがい研究コースを選択するが、その準備段階として1・2年次生において、研究に必要な基礎的知識と方法論を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
4. 【研究コース・コア科目】主に2年次以降、研究コースでの学びの中核として、それぞれの専門分野について知識と問題意識を深め、多角的に学ぶ。講義系科目では、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。語学系科目では、高度な言語運用能力を身につけさせるための練習も取り入れる。
5. 【研究コース・演習科目、卒業論文】3・4年次においては、それぞれの専門分野について自ら研究課題を設定し掘り下げることで、主体的な研究能力を養う。さらに、卒業論文・卒業研究を作成することにより、構想力・論理的思考力・表現力を身につけることができる。論文の書き方を修得させるとともに、プレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。

### [アドミッション・ポリシー]

日本語の運用能力を基盤に、外国語運用能力の獲得に真摯に取り組むことのできる学生を求めてています。また、単に言語運用能力にとどまらず、自らの住む地域から世界全体に至るまで起こっていることに積極的に関心を持ち、それを自分の問題として考え、解決策を見出していくこうと努力を重ねていけることを期待します。

### 英語学科

#### [教育研究上の目的]

卓越した英語運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（言語学、人文・社会科学、英語圏に関する基礎知識）を修得すること

#### [人材養成の目的]

英語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠 (CEFR) における C1 相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同 C2 相当（C1 を超えるレベル）に到達することを目指します。

1. 英語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動 (receptive activities) に関する能力
2. 英語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動 (productive activities) に関する能力
3. 英語の会話や交渉に代表される相互行為活動 (interactive activities) に関する能力
4. 英語の通訳・翻訳などに代表される仲介活動 (mediating activities) に関する能力
5. 英語圏の歴史・政治・経済・社会・文化について、世界での位置づけおよび日本との比較を通して理解する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修英語科目】1・2 年次において集中的に学ぶこれらのクラス群では、様々なアクティビティや論文作成を通じて、英語「で」考え、発信し、議論できる 4 技能におけるアカデミックな英語運用能力の向上を目指す。また、英語が公用語とされている地域の文化・社会についての知識も身につけさせる。授業は、講義、グループワーク、ペアワークなど様々な授業形態を通して多角的に展開されるが、特にプレゼンテーションを重視する科目が多く、内容豊かな事柄をいかに効果的に英

語で理解、発信していくかを追求する。

2. 【第一主専攻・英語圏基礎科目】主に2年次において、英語圏に関する歴史や文化、社会、また言語そのものに関するクラスで学ぶことを通して、英語圏に関しての基礎知識を身につけさせる。授業は、講義、グループワーク、ペアワーク、またプレゼンテーションなどを織り交ぜて多角的に展開される。
3. 【第一主専攻・英語・英語圏研究科目】1年次から4年次にかけて、学生はそれぞれの興味や関心に応じて選択して取れる科目を通じて、英語運用能力をさらに伸ばすとともに、英語や英語圏に関する知識を深化させることができる。授業は、講義、グループワーク、ペアワーク、またプレゼンテーションなどを通して多角的に展開され、参加型で思考しながら学ぶことが強調される。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

1. 英語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関わる諸問題に关心を持ち、英語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. これまでにしっかりと英語の学習経験のある学生で、高度な内容について英語で学習するための基本的な知識と技能を備え、真摯に勉学に取り組む姿勢を持つ学生を受け入れます。
3. 英語とその他の外国語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げるなどを期待します。

### ドイツ語学科

#### 〔教育研究上の目的〕

ドイツ語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ドイツ語圏に関する基礎知識）を修得すること

#### 〔人材養成の目的〕

ドイツ語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身に附けているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身に附いたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠(CEFAR)におけるB2相当(海外の大学で学べるレベル)に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同C1相当(海外の大学院で学べるレベル)に到達することを目指します。

1. ドイツ語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ドイツ語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. ドイツ語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ドイツ語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力

5. ドイツ語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ）】1・2年次では、文法・読解を中心とする講義・演習形式の授業と、複数のネイティブスピーカーの教員と日本人教員が連携して「聞く、話す、読む、書く」の4技能をペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを含む実践的練習によって伸ばす授業を通して、ドイツ語の基礎的運用能力の修得を目指す。コミュニケーションの授業においては、教員の授業における使用言語も主にドイツ語である。いずれの授業においても、能動的な授業参画が前提であり、授業中および授業外における主体的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目（ドイツ語Ⅲ・専門読解準備コース）】1・2年次で修得したドイツ語の基礎学力を用いて、3・4年次では、実践的に語学力を運用する高度なスキルを学ぶ。口頭表現と聴解演習からなるドイツ語Ⅲでは、授業は主にドイツ語で進められ、ペアやグループでのコミュニケーションやプレゼンテーション、聴解能力を高める聞き取りや書き取りなど、多様な形式で学ばせる。また専門読解準備コースでは、言語、思想・文化、政治・社会の3領域について、より高度な内容の文献講読を通して、専門的な内容の読解をする力を身につけさせる。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目（ドイツ語圏研究）】1・2年次において、ドイツ語圏における歴史・政治・経済・社会・文化・言語など、ドイツ語を基盤として今後ドイツ語圏について学んでいくための基礎的知識を身につけることを目指す。また、文献検索やレポート作成などの基礎的な学術能力を身につけさせる。主に在外履修をはじめ留学に行く学生向けに、ドイツ語圏での生活や大学での学びのための準備も行う。授業では講義の他、グループワークやプレゼンテーションなども実施される。
4. 【在外履修に伴う履修科目】基礎ドイツ語Ⅱとドイツ語圏研究の一部およびドイツ語Ⅲは、2年次秋学期におけるドイツ語圏の協定校での在外履修によって、修得することができる。また在外履修や交換留学から帰国した学生は、学部の研究コース科目のうち、学科が「日独比較研究」科目として指定する科目（通訳・翻訳を含む）を履修し、ドイツ語圏からの留学生と共に学ぶことで、異文化間コミュニケーション能力を高めるとともに、各分野の比較研究を深める。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

1. ドイツ語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、ドイツ語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めてます。
2. 基本的に、本学科においてドイツ語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でドイツ語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. ドイツ語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げる期待します。

## フランス語学科

### 〔教育研究上の目的〕

フランス語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、フランス語圏に関する基礎知識）を修得すること

### 〔人材養成の目的〕

フランス語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠 (CEFAR) における B2 相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同 C1 相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目標とする。

1. フランス語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. フランス語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. フランス語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. フランス語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. フランス語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎フランス語 I・II）】1・2 年次を通して、「聞く、話す、読む、書く」の 4 技能にわたって、フランス語の基礎的運用能力の修得を目指す。授業では、複数の教員(日本人およびネイティブ)でチーム・ティーチングを行い、講義、グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーションなど授業の目的に合わせて展開されるが、学生の授業への積極的な参画とともに、毎日の予習・復習を含む計画的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目（総合フランス語）】1・2 年次で修得したフランス語の基礎学力を用いて、3 年次対象の聴解・表現・講読演習では実践的に語学力を運用する高度なスキルを学ぶこと、4 年次対象の総合演習では総合的なフランス語運用能力を応用的に身につけさせることを目指す。授業はグループワークやプレゼンテーションなどを中心に多角的に展開される。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】1・2 年次において、フランス語圏の国々や地域における歴史・政治・経済・社会・文化・言語など、フランス語を基盤として今後フランス語圏について学んでいくための基礎的教養を身につけることを目指す。また、レポートやプレゼンテーションなどの大学での学びに

において不可欠なアカデミック・スキルズの基礎を修得させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

1. フランス語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、フランス語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めてます。
2. 基本的に、本学科においてフランス語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でフランス語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. フランス語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げる期待します。

#### イスパニア語学科

#### [教育研究上の目的]

イスパニア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、イスパニア語圏に関する基礎知識）を修得すること

#### [人材養成の目的]

イスパニア語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるB2相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同C1相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目指します。

1. イスパニア語の「聞く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. イスパニア語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. イスパニア語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. イスパニア語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. イスパニア語圏の歴史・政治・経済・社会・文化・文学・言語について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成し

ています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎イスパニア語Ⅰ、Ⅱ）】1年次、2年次を通してイスパニア語の4技能「聞く、読む、話す、書く」の基礎を学ぶ。「読む」「書く」能力の養成を中心とした、文法、講読、作文の講義・演習形式の授業と、「聞く」「話す」力を身につけさせることに主眼を置いた口頭での実践的練習に重きを置いた授業を通して、イスパニア語の運用能力の土台を作る。ネイティブスピーカーの教員と日本人教員とが協働してあたるため、初修言語修得に効率的な学習が可能である。学生はいずれの授業においても、能動的な授業参画が前提であり、授業中および授業外における主体的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目（総合イスパニア語）】3・4年次では、「話す・聞く」「読む」「読む・話す」「書く」「読む・書く」といったスキル別に各自が強化したい分野を選択して履修し、イスパニア語の運用能力をさらに高める。1・2年次で修得したイスパニア語の基礎的能力を用いて、さらに実践的かつ応用的なイスパニア語の運用能力を身につけさせる。授業は実践的な教材を用いた講義形式の読解や、視聴覚教室を活用した聴解能力を高める聞き取りや書き取り、グループでのコミュニケーションやプレゼンテーション、ディベートなど、多様な形式で行われる。ネイティブスピーカーの教員の授業における使用言語はイスパニア語が中心であり、学術的内容をイスパニア語で学習させる。日本人教員の授業では、より高度な内容の文献講読などを通じて、上級文法への目配りや語彙力の強化にも重きが置かれる。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、イスパニア語が使用される国や地域（＝イスパニア語圏）における歴史・政治・経済・社会・文化・文学・言語に関わる基礎的な知識の修得をめざす。授業形式は講義が中心であるが、グループワークやプレゼンテーションなども実施される。また本科目群に含まれる「イスパニア語圏研究入門」では、文献検索やレポート作成などの基礎的リテラシーを身につけさせる。

#### [アドミッション・ポリシー]

1. イスパニア語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに关心を持ち、イスパニア語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めてます。
2. 基本的に、本学科においてイスパニア語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でイスパニア語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. イスパニア語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げる期待します。

#### ロシア語学科

#### [教育研究上の目的]

ロシア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ロシア・ユーラシア地域に関する基礎知識）を修得すること

### [人材養成の目的]

ロシア語の高度な運用能力を基礎として、国際社会に貢献しうる人材、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）における B2 相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同 C1 相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目指とします。

1. ロシア語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ロシア語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. ロシア語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ロシア語の通訳・翻訳などに代表される仲介活動(mediating activities)に関する能力
5. ロシア語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ロシア語 I・II）】1,2 年次を通して、ロシア語の基礎的運用能力の修得を目指す。1 年生では、「文法」「会話」「総合（文法と会話を総合したクラス）」のクラスに分かれ、複数の教員が授業を受け持つ。すべてのクラスでほぼ毎回宿題が課され、年間を通じて 25 回ほどの試験が実施される。2 年生では、「ドリル（文法）」「会話」「講読」のクラスに分かれる。「ドリル」「会話」のクラスでは、ほぼ毎回宿題が課され、年間を通じて 20 回ほどの試験が実施される。1,2 年次を通して、口頭形式の練習と筆記、作文形式の練習が繰り返され、「会話」の授業では、ロールプレイやプレゼンテーションも取り入れる。学生には、積極的な授業参加と日々の予習、復習が求められる。
2. 【第一主専攻・選択科目】1,2 年次で修得したロシア語の基礎能力を用いて、読解、聴解、会話、作文などの能力の向上を目指す。将来通訳者を目指す学生のために、通訳法のクラスも準備されている。それぞれのクラスが「上級」「中級」に分かれるが、上級者が中級クラスを受講すること、中級者が上級クラスを受講することも認められている。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】ロシア・ユーラシア地域の文化や歴史、社会や経済などについての基礎的な知識を提供するための科目が、1,2 年生向けの必修科目として開講されている。

### [アドミッション・ポリシー]

1. ロシア語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに关心を持ち、ロシア語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。

2. 基本的に、本学科においてロシア語の学習を開始したい学生を求めていきます。
3. ロシア語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げる期待します。

## ポルトガル語学科

### 〔教育研究上の目的〕

ポルトガル語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ポルトガル語圏に関する基礎知識）を修得すること

### 〔人材養成の目的〕

ポルトガル語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるB2相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えできるだけ多くの者が同C1相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目指します。

1. ポルトガル語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ポルトガル語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. ポルトガル語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ポルトガル語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. ポルトガル語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ポルトガル語I,II）】1年次、2年次を通してポルトガル語の基礎を学ぶ。会話・作文、文法、読解(講読と速読)などを通して、ポルトガル語における4技能「聴く、読む、話す、書く」の運用能力の向上を目指す。授業は、講義、口頭での反復練習、グループワーク、プレゼンテーションなど、それぞれの授業目的に合わせて様々な形で展開されるが、いずれの授業においても学生の主体的な学びが重要となる。
2. 【第一主専攻・必修科目（総合ポルトガル語）】1年次、2年次で修得したポルトガル語の基礎学力を用いて、さらに実践的かつ応用的なポルトガル語の運用能力を身につけさせる。授業は主にコミュニケーション

ケーションやプレゼンテーション、ディベート形式で行われる。担当する教員はネイティブスピーカーが多く、したがって使用言語もポルトガル語が中心となる。一方、日本人教員のクラスでは、より高度な内容の文献講読や上級文法に関する講義なども行われる。

3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、ポルトガル語が使用される国や地域(=ポルトガル語圏)における歴史・政治・経済・社会・文化・言語に関わる基礎的な知識を学ぶ。授業形式は講義が中心であるが、授業内でグループワークやプレゼンテーションなども実施される。また本科目群の一つの科目「ポルトガル語圏研究入門」では、地域研究の手法を用いた6000字程度のレポートの執筆に取り組むことで、大学での学びにおいて不可欠であるレポート・論文の書き方を修得する。

#### [アドミッション・ポリシー]

1. ポルトガル語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに关心を持ち、ポルトガル語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求める。
2. 基本的に、本学科においてポルトガル語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でポルトガル語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. ポルトガル語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げる期待します。

## 7. 総合グローバル学部

### 総合グローバル学科 (SPSFは別添参照)

#### [教育研究上の目的]

国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1) グローバリティの理解、2) ローカリティの理解、3) 複言語（英語、地域言語）の運用能力、4) 倫理観に裏付けられた交渉能力 を習得させる

#### [人材養成の目的]

グローバル化の正負の側面に対処して、世界の人々が共に歩む共生社会の構築に貢献しようとする国際的公共知識人を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学部は、グローバル化の進行する現代にあって、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向け、国際的公共知識人たることを目指す学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 安全保障、紛争、貧困、開発、移民、難民、地球環境などに关心を持ち、それらがなぜグローバルに解決を要する問題であるか説明する能力

2. グローバル・スタディーズを支える国際関係論と地域研究の考え方や理論の全体像を理解し、双方の視点を組み合わせて考える能力
3. グローバル化の正負の側面について、具体的な事例に即し、基礎的な理論と実証的な方法を用いて分析を行い、問題解決の方法を構想する能力
4. 国際政治論と市民社会・国際協力論のうち1領域、アジア研究と中東・アフリカ研究（ないしその他の地域の研究）のうち1領域を専門として選択し、2領域を組み合わせた主題を設定し、調べる能力
5. 世界の諸地域に生活する多様な他者と対話し、共存する社会の形成に向けて、協力して問題解決に当たる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル・スタディーズと、これを支える国際関係論および地域研究の基礎について講義を通じて学び、基幹となる理論と方法を修得させると共に、研究の基礎的な技能と姿勢を身に着けさせる。【100番台科目】
2. 国際政治や経済の動態を把握し、国際協力や市民社会のメカニズムについて講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
3. アジア、中東、アフリカ等について、歴史、文化、政治、経済他の諸側面から講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
4. 国際政治論、市民社会・国際協力論から1領域、アジア研究、中東・アフリカ研究等から1領域を専門とし、講義等を通じてグローバルな問題の解決策を構想し、実践する力を養う。【300、400番台講義科目】
5. グローバル化の諸問題について、個別の課題を主体的に設定し、その研究成果を論文等の明確な形にして示す。【200番台自主研究、400番台演習、400番台卒業論文・研究等】
6. 少人数の演習を通して、議論によって相互の理解を深め、各自の課題研究を支えあう姿勢を身に着けさせる。【100番台基礎演習、400番台演習】
7. 英語で講義される科目的受講などを通じて、国際共通語である英語の力を高めると共に、英語以外の外国語修得を心がけて複言語能力を獲得させる。【200番台以降の講義科目】

#### [アドミッション・ポリシー]

知的な関心と意欲を主体的努力によって伸ばし、グローバルな共生社会の形成に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

1. グローバル化する世界が呈する正負の諸側面に対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の現代社会に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
2. 世界を構成するさまざまな地域や人々の多様性がもたらす人類の社会と文化の豊かさに対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の地理、世界史に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
3. 物事に対して根拠に基づいた論理的な思考ができ、かつ主体的に取り組むことができるよう努力を重ねてきた者。

4. グローバル化する世界の動きを理解するのに必要な基本的な文献を読解することのできる英語能力を有している者。

## 8. 国際教養学部

### 国際教養学科

#### 〔教育研究上の目的〕

英語で行われる教養教育を通じ、比較文化・社会科学・国際経営経済の各専門分野の科目を隣接領域と有機的に関連させつつ学ぶことで、高度な語学力、多文化対応発信能力、及び柔軟な思考力を養うこと。また、学際的な研究を通じてグローバル社会の理解と問題解決に寄与すること。

#### 〔人材養成の目的〕

十分な国際感覚、言語運用能力、及び柔軟な思考力を養い、グローバル化に対応し多様な文化間の架け橋として活躍できる人材を養成すること。

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 包括的かつ学際的な教養と、英語により思考しコミュニケーションを行なうことのできる高度な英語力
2. 高度に専門的な視点と一般的な幅広い視点の両方をもって特定の問題にアプローチする知的能力
3. 多文化的環境に自らとけこみ、多様かつ重要な社会文化的問題のより良き理解に貢献する共同的活動に従事する能力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. コア・プログラムでは、英語を用いて文献を解読し、批判的に思考し、さらに発表・議論ができる基礎的な能力を修得させる。
2. 学部独自のディストリビューション科目群は、領域横断的な入門的教養科目群であり、「社会と文化」「文化的伝統」「政治と経済」という三つのカテゴリーに分けられています。学生は、その三分野から広く受講することで、世界の多様な社会の仕組みや文化的価値・歴史に触れ、視野を広げるとともに、専攻分野に進むための基盤を形づくる。
3. 比較文化、国際経営・経済、社会科学という三つの専攻分野では、基礎的なものから専門性の高い科目まで体系的にカリキュラムが構成され、学生個々の関心にしたがってそれぞれの分野の知識を深く追求できます。また、同時に隣接領域の科目も履修することで、ほぼ広く柔軟な視点を身につけるこ

とができる。

#### [アドミッション・ポリシー]

The Faculty of Liberal Arts of Sophia University welcomes students who are:

1. Motivated to become active and responsible members of the global community and to participate in the creation of social, economic, and humanistic values essential for its sustenance and betterment.
2. Intellectually curious and eager to improve their communication and analytical skills to constructively interact with others from diverse socio-cultural backgrounds.
3. Prepared to expand further their knowledge so that they become able to identify and approach with competence global issues.

本学部は以下のような学生を求めます。

1. 能動的にかつ責任を持って、グローバル化する社会の一員となる意欲を持ち、その維持と改善に欠かせない社会的・経済的・人文的な価値の創出にすすんで参画する。
2. 多様な社会文化的背景をもつ他者と建設的に交流するために欠かせない知的好奇心の旺盛さ、自らのコミュニケーション能力・分析力を改善する強い意欲を持つ。
3. グローバルな問題を見極めアプローチしてゆくことができるよう、自らの知識を増やしてゆく覚悟がある。

## 9. 理工学部

#### [教育研究上の目的]

基盤となる専門分野の知識を習得するとともに、多様化した現代社会が抱える諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見ることのできる幅広い教養、すなわち「複合知」を身につけること

#### [人材養成の目的]

専門分野とともに「複合知」を習得し、多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成すること

#### [ディプロマ・ポリシー]

本学部は、キリスト教ヒューマニズム精神を理解した上で、多様化する現代社会の抱える科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する能力を備えるとともに、高い想像性ならびに創造性に根差した独創的な研究を推進し、科学・技術のさらなる発展へ貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を各学科で定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

### **[カリキュラム・ポリシー]**

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 学生が共通に履修すべき講義中心の理工学部共通科目Ⅰ群、Ⅱ群により、科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する基礎的な能力を修得させる。
2. その上で、演習や実験科目を多く取り入れた学科コア科目により専門的な能力を身につけさせ、さらに専門性の高い講義科目から編成されている専門科目により独創的な研究を推進できる能力を修得させる。

### **[アドミッション・ポリシー]**

本学部は、国際的に多様化する現代社会が抱える科学・技術に興味や関心を持つ学生を求めていきます。

1. 科学・技術に関する専門科目を学ぶにあたり、数学、理科、英語についての知識・教養を身に付けている者。
2. 科学・技術に関する諸問題について、論理的な思考力、幅広い視野およびコミュニケーション能力を持つ者。
3. 科学・技術に関して、探究心が旺盛で自然現象の解明や新たな技術革新に意欲を持つ者。

The Faculty of Science and Technology is seeking students who are interested in science and technology in today's internationally diversified society.

1. Those who have acquired knowledge and basic abilities in mathematics, natural science, and English, which are required for learning specialized courses in science and engineering
2. Those who are logical thinkers, possess a broad perspective, and have strong communication skills to deal with various problems in science and technology
3. Those who have an inquiring mind and are eager to unravel the mysteries surrounding natural phenomena and/or create technological innovations in science and technology

## **物質生命理工学科**

### **[教育研究上の目的]**

物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養うこと

### **[人材養成の目的]**

新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を養成すること

### **[ディプロマ・ポリシー]**

本学科では、自然と融合した物質観と生命観および広い視野に基づく複合知を身につけた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満

たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自然科学分野の基礎を理解し、科学技術に対する安全・倫理観
2. 物理学、化学、生物学の基礎を土台として、物理、化学、生命現象を理解する能力
3. 物質・生命の基礎を体系的にとらえ、原子・分子から高分子、生体分子にわたる物質の創成と技術開発に貢献する能力
4. 学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得し、物質とナノテクノロジー、環境と生命の調和、高機能材料の創製に結びつく理工学における課題解決に貢献する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 理工共通科目Ⅰ群科目を通して、自然科学分野の基礎を理解し、科学技術に対する安全・倫理観を修得させる。
2. 理工共通科目Ⅱ群科目を通して、物理学、化学、生物学、情報学、数学など自然科学全般の基礎を学修させる。同時に、科学技術英語を通して、英語で理解・表現する能力を修得させる。
3. 物質・生命に関する学科コア科目（物理学・化学・生物学分野の講義と実験科目）を通して、原子・分子から高分子、生体分子にわたる物質の創成と技術開発に貢献できる能力を修得させる。
4. 物質とナノテクノロジー、環境と生命の調和、高機能材料の創製に関する高度な学問的内容（学科専門科目）を学修させ、応用・展開する分野、学際的な分野、および実社会に繋がる課題解決方法を修得させる。
5. 少人数教育体制のもと、卒業研究およびゼミナールを通して先端分野を理解するとともに、成果発表を行い、研究者としての素養を修得し、学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科は、自然科学における諸現象の解明や新たな物質の創成と技術開発への貢献を可能にする学生を求めていきます。科学・技術と地球環境の融和に関心を持ち、自然と調和した物質観・生命観を構築することに意欲を持つ学生を求めていきます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 自然科学に強い興味をもち、諸現象の解明、新たな物質の創成や技術開発への貢献に意欲を持つ者。

#### 【英語コース】

The Green Science Course seeks students who have a strong desire to tackle environmental issues by elucidating various phenomena in natural science and creating new materials. They also should be interested in the harmony of science and technology with the global environment.

1. Those who well understand high school level mathematics, science, and English.
2. Those who have logical thinking ability, a broad perspective, and communication skills.
3. Those who show keen interest in natural science and the global environment as well as eagerness toward the elucidation of various phenomena, the creation of new materials, technological

development, and grappling with environmental issues.

本学科は、自然科学における諸現象の解明や新たな物質の創成と技術開発に基づいて環境問題への取組に意欲を持つ学生を求めていきます。科学・技術と地球環境の融和に関心を持つ学生を求めていきます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 自然科学と地球環境に強い興味を持ち、諸現象の解明、新たな物質の創成や技術開発と環境問題への取組に意欲を持つ者。

## 機能創造理工学科

### [教育研究上の目的]

物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養うこと

### [人材養成の目的]

科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、科学・技術に関する確固たる基礎知識を持ち、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に繋がる独創的技術の開発に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自然科学分野などの理工学の基礎を学ぶことにより、科学・技術の諸問題に対応する幅広い能力
2. 物理学、機械工学、電気・電子工学を体系的に学ぶことにより、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に貢献する能力
3. 「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」の切り口で物理学、機械工学、電気・電子工学を学ぶことにより、独創的技術の開発に貢献する能力
4. 学修した内容を理論・技術的に応用展開することにより、科学・技術の諸問題を解決する力を身につけ、独創的な研究を推進し、科学・技術のさらなる発展へ貢献する能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、物理学や数学への深い理解を基礎に、「機械工学」、「電気・電子工学」、「物理学」の学問体系と「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」というキーテーマを融合した知識（複合知）を身につけ、社会に貢献する能力の養成を目指しています。これにもとづいたディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目と語学科目を通して、幅広い教養やグローバルな視野を広げる科目、英語科目、キリスト

- ト教的ヒューマニズムを理解する科目を学修し、国際化の進展に対応できる素養を修得させる。
2. 理工共通科目Ⅰ群を通して、科学・技術の諸問題に対応する幅広い能力を養成するため、物理学、化学、生物学など自然科学全般、および数学、情報学など理工学の基礎を修得させる。
  3. 物理学、機械工学、電気・電子工学などに関する理工学の基礎を幅広く学び、さらに学科コア科目および学科専門科目などの講義および実験・演習科目を通して、物理学、機械工学、電気・電子工学分野の中から希望の分野を選択し、それぞれの分野をより体系的に修得することで、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に貢献できる能力を養成する。同時に、英語で理工学の基礎を理解するために、科学技術英語を修得させる。
  4. 学科コア科目および学科専門科目などの講義・実験・演習科目を通して、「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」の切り口で講義と実験・演習科目を選択することも可能とし、実社会において物理学、機械工学、電気・電子工学を駆使して応用・展開する学際的な力を修得させる。
  5. 卒業研究を通して、先端分野を理解するとともに、成果発表を行い、研究者としての素養を修得し、学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得させる。

#### 【アドミッション・ポリシー】

本学科は、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを融合し、科学・技術上の諸問題の解決への貢献を可能にする学生を受け入れます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 本学科が担う物理学、機械工学、電気・電子工学を自ら幅広くかつ深く学ぼうとする積極性と、修得した学問・技術によって卒業後に社会へ貢献しようとする強い意志を持つ者。

#### 【英語コース】

The Green Engineering Course is seeking students who have received extensive education, possess solid expertise in relevant fields, and are able to contribute to solving various problems in science and engineering by flexibly making the most of their educational backgrounds.

1. Those who have a good grasp of high school level mathematics, science, and English
2. Those who are logical thinkers, possess a broad perspective, and have good communication skills.
3. Those who show enthusiasm in widely and deeply learning physics, mechanical engineering, and electrical and electronic engineering, which constitute the basis of the Green Engineering Course, and who have a strong desire to contribute to society after graduation, using acquired academic knowledge and technology.

グリーンエンジニアリングコースは、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを融合し、科学・技術上の諸問題の解決への貢献を可能にする学生を受け入れます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力をもつ者。
3. 本コースが担う物理学、機械工学、電気・電子工学を自ら幅広くかつ深く学ぼうとする積極的性と、修得した学問・技術を卒業後に社会貢献しようとする強い意志を持つ者。

## 情報理工学科

### [教育研究上の目的]

情報科学、電子情報学、数学、生物学を基礎とし、人間・通信・社会・数理の情報分野を学び、文理の学際的視点も併せもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養うこと

### [人材養成の目的]

人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用でより発展させることのできる人材を養成すること

### [ディプロマ・ポリシー]

本学科では、「情報」を基盤として人間と社会を複合的により深く理解する人材、人間や社会が有する知識・知恵・経験を蓄積し、目に見える情報として整理することができる人材、さらに人間情報・情報通信・社会情報・数理情報の少なくとも 1 つのテーマについて専門的な知識を有し、それらを有機的に組み合わせ、人間や社会に還元する能力を有する人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 現代社会の広い意味での「情報」に関して、その意味づけや原理・理論さらには社会のさまざまな分野での日常的な応用を理解する能力
2. 脳や神経、身体、感覚・認知・言語など、人間そのものに関わる情報処理、および、人間支援・教育支援など、人間の活動に関わる情報処理を理解し、人間に関わるあらゆる側面に対応できる能力
3. 情報通信に関する基礎技術を理解し、情報通信技術の発展にかかわる諸課題を主体的に解決できる能力
4. IoT、人工知能、データベース、ソフトウェア工学等の情報の生成・活用・蓄積・流通に関わる基礎技術を理解し、最先端情報技術を利活用・創出できる能力
5. 情報科学を含むすべての現代科学の理解に不可欠な数学の知識を学び、現代社会の情報技術におけるさまざまな問題を主体的に解決できる能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、情報科学・通信工学・数学・生物学を基礎とし、人間・通信・社会・数理の情報分野を複合的に学習し、また文理融合的視点もあわせもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養成することを目指しています。これにもとづいたディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目、語学科目、キリスト教的ヒューマニズム等を理解する科目を履修させ、国際化の進展に対応できる基礎的能力を修得させる。また、現代科学を理解するために共通に必要な基礎学力を講義、演習、実験を中心とした共通科目を通じて、主に 1,2 年次の間に修得させる。
2. 人間における脳や神経活動、感覚情報など、人間を理解するための科目から、人間の体や活動の計測、福祉や教育への応用も視野に入れた科目を通じて、科学的側面と工学的側面の両方を学び、学際・融

- 合的な知識を修得させる。
3. 情報通信技術に関するソフトウェアおよびハードウェアについて、システムの構成要素からそれらの統合に至る幅広い技術分野を網羅する複数の基礎的科目を通じて、通信システム全体を把握した上で専門的な技術を学び、情報通信技術者に必要な基礎を修得させる。
  4. 社会に存在する情報をコンテンツとして生成・活用・蓄積・流通させることに関連する諸技術を体系的に理解するため、工学的基礎的科目から社会学的視点も取り入れた応用科目を通じて、最先端情報技術の利活用と創出を担う人材育成に必要な能力を修得させる。
  5. 全ての情報分野における基礎的理論を理解するため、数学の基礎科目を通じて、最低限の知識を学生全員に身に付けさせる。また大学院において数学を研究することをめざす学生が専門的な現代数学科目を通じてその知識を修得させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科では、幅広い教養とさまざまな分野で活用されている情報に関する専門知識を修得し、それらを融合・応用・発展させることのできる人材を求めていきます。科学技術とそれを支える基礎学問、人間・社会に関する「複合知」の構築を背景に独創性を持って、未来の社会を構築することに意欲をもつ人材を求めていきます。

1. 情報科学・通信工学・数学・生物学を学修する前提となる確かな基礎学力を持つ者。
2. 学問に関する問題発見および課題解決に必要な論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 人間・通信・社会・数理の情報分野を複合的に学習し、現象を理解する原理の解明、新たなシステムの構築や技術開発への貢献に意欲を持つ者。

#### 10. ディプロマ・ポリシーに係る共通事項（2021 年次生以前へ適用）

各学部学科のディプロマ・ポリシーに加え、共通項目として、以下を定める。

全学共通科目、語学科目を通して得られる「他者のために、他者とともに生きる人間」としての幅広い視野と外国語を運用する能力

#### 11. 全学共通科目のカリキュラム・ポリシー

全学共通科目は、全体をコア科目群と展開知科目群に分けます。コア科目群として「人間理解」と「思考の基盤」を柱とする「キリスト教人間学」「身体知」「思考と表現」「データサイエンス」の4つのカテゴリーを設け、「展開知」科目群として「課題認識」「社会課題と展望」「視座」「実践・経験」の4つのカテゴリーを設けます。それぞれ導入、展開、探究・統合のレベル順に高学年向け科目まで配置します。

(CP1)

「キリスト教人間学」では、1年次必修科目を通じて、人間性の諸次元をふまえ、他者とのかかわりのなかで、全人類の連帯を追求する現代の「キリスト教ヒューマニズム」の基本を学ぶ。2年次で

は、選択必修科目が扱う個別トピックを通して、人間存在の理解をさらに深める。高学年向け科目では、人間存在に関するより高度な課題について考える機会を提供する。

(CP2)

「身体知」では、1年次必修科目で、自らの身体への気づきを通して、身体を持つ存在としての人間理解を深めることを目指す。これに続く選択科目では、ウェルネス、身体と文化・社会といった個別テーマや動きを伴う体験など、広い視座から考え身体をめぐる学びを深める。さらに高学年向け科目では、様々な知識を統合しつつ「身体の知」という視点から、より高度な課題について深く考える機会を提供する。

(CP3)

「思考と表現」では、1年次必修科目で、クリティカルシンキングとライティングの基礎を修得し、これに続く選択科目では、テーマ別科目の履修を通じて、読む・聞く・考える・書く・話す力を高める。さらに高学年においては、学部・学科の専門科目を通して表現力や思考力をより高度なレベルで応用する実践を奨励するとともに、それを補う高学年向け科目を提供する。

(CP4)

「データサイエンス」では、1年次必修科目で、社会におけるデータ活用の状況、データの読み解き、データを扱う上で求められる法や倫理について学ぶ。これに続くトピック別選択科目の履修を通じて、具体的なデータ活用事例や理論を理解する。さらに高学年向け科目では、より高度なデータ活用事例や理論に係る理解を深めるとともに、統計解析ツールを用いた実践的スキルを身に付ける機会を提供する。

(CP5)

「展開知」では、1年次必修の課題認識科目の履修を通じて、社会の課題に気づき、それらに取り組むためには多様な視点や自分の立場を理解する必要があることを意識する。これに続く選択科目および高学年向け科目では、現代的諸課題についての理解を深め（「社会課題と展望」）、さまざまな学問的アプローチについて幅広く学び（視座）、海外留学、国内外のサービス・ラーニングやスタディツア等への参加を通じて、実践的な経験をする（「実践・経験」）機会を提供する。

## 12. 語学科目のカリキュラム・ポリシー

語学科目は、個人が複数の言語を活用する複言語主義の立場を取りながら、グローバル社会で通用する知識・技能を育み、異なる文化や価値観などの多様性を理解することを目指すものです。大学のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿って英語、初習言語及び日本語のカテゴリーごとにカリキュラムを編成します。

教育内容・方法については、次のとおりです。

### 【英語】

CP1. 内容言語統合型学習（CLIL）の手法を取り入れ、英語で学び考えるための運用能力（EAP = English for Academic Purposes）を高め、学術的な内容を英語で学ぶことで批判的思考力や協働力を伸ばすことを目的とする。

CP 2. 「英語を学ぶ」ことに加え「英語で学ぶ」ことを通じて、学術的な英語力を伸ばすための必修科目を配置する。また、機能的英語運用能力を身につけさせるため、各自の専門性や必要性、習熟度、興味関心に応じて自由に履修できる選択科目を提供する。

#### 【初習言語】

CP 1. 「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけるとともに、言語の背景にある文化の多様性への理解を深め、各言語の特性に応じた運用能力を高めることを目的とする。

CP 2. 習熟度に合わせた段階的な履修が可能な教育体系を編成し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の効果的な育成を目指した統合的な教室活動を実践する。また、個別の目的に特化した教育実践を行う科目も提供する。

#### 【日本語】

CP 1. 多様な学習背景やニーズを考慮した幅広い科目編成を行い、学生が各自のニーズに合った科目を履修し、段階的に日本語の運用能力を高めることを目的とする。

CP 2. 習熟度に合わせた段階的な履修が可能な教育体系を編成する。「聞く・話す・読む・書く」の4技能の効果的な育成を目指したコミュニケーションで統合的な教室活動を実践する。専門的な日本語科目や日本語母語話者向け科目では、個別の目的に特化した教育実践を行う。

以上

## SPSF 対象学科の教育研究上の目的、人材養成の目的及び3つのポリシー

### 新聞学科

#### 【教育研究上の目的】

ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション全般を対象に、その社会的役割や機能、影響過程など、報道やメディアに関わる諸問題を幅広く考察すること

#### 【人材養成の目的】

社会人に必要なコミュニケーションに関する教養を備え、高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につけた人材を養成すること

#### 【ディプロマ・ポリシー】

本学科では、学生が卒業時に身に付けているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報といった諸領域を対象としたこれまでの学問的蓄積と、それらを踏まえた実践的な調査能力、分析力、批判力、構成力、表現能力
2. 「理論と実践」の両面からバランスよく学び、ジャーナリズムの現場やメディア・コミュニケーション、情報などを扱う分野で活躍するための能力
3. 情報化が進む現代社会を、よりよく生きるために高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシー

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身に付けているべき能力や知識を次のように定めています。

4. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
5. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

#### 【カリキュラム・ポリシー】

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報に関する諸領域を、理論的アプローチ、国際的なアプローチ、現実的な諸問題の分析アプローチから学ばせる。
2. 上記カリキュラムと並行して、その表現力、検証力、批判力などの能力の向上に向けた実践的アプ

ローチもバランスよく扱うことで、「理論に偏せず、実践にも偏らない幅広い教育」を実現する。

3. 全ての学生が、専任教員が担当する個別の演習を履修し、小人数教育のなかで、批判的な見方や研究・分析の能力、倫理を醸成する。
4. 4年間で修得した知識、分析力、技能の集大成として、専任教員の個別指導の下で卒業論文を課す。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

5. 1年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
6. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、以下のような学生を受け入れます。

1. 情報化が進む現代社会において、ジャーナリズムやメディア・コミュニケーションの諸領域に積極的な関心を持ち、それを深く学び、考える意欲がある。
2. 現代社会に対する問題関心を突き詰める姿勢と、それらの問題について批判的に検証する論理的な思考力、判断力がある。
3. 自らの問題関心に基づいた調査研究の成果を表現する能力、説明する対話力がある。

#### 【教育学科】

##### 〔教育研究上の目的〕

人間と教育をめぐる諸問題を教育学的観点から総合的・多角的に考究し、人間尊重の教育を実現する力を養うこと

##### 〔人材養成の目的〕

人間の尊厳を基底に置く、人間性と専門性に優れた教員や研究者を養成するとともに、国際社会でも活躍できる自立性と教育学的教養を備えた人材を養成すること

##### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 教育学と関連する諸学に関する幅広い知識を身につけ、人間と教育を巡る諸問題を教育学的に考察するとはどういうことが理解できると共に、人間尊重の教育に関する豊かな実践的イメージを持つ能力
2. 学校・社会・家庭・企業などで行われている教育的営みと、そこで生じる現象や問題について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの知識と方法を用いて教育学的に読み解くと共に、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現する能力
3. 人間の尊厳を基底に置き、国際的な視野を携えて、教育に関わる問題解決や人間尊重の教育の実現に向け、多様な他者と主体的・友好的に協働し、絶えざる自己省察を繰り返しながら粘り強く取り組む能力

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身に付けていくべき能力や知識を次のように定めています。

4. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
5. 自らの専門分野に加え、6 学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 総合人間科学部の他学科と同様に「全学共通科目」、「語学科目」、「学科科目」で構成され、広い教養と深い専門性の調和的実現を目指す。
2. 教育学を国際的な観点から把握し、その独自な学問性を体系的に身につけられるよう、比較教育学、国際教育学、国際教育開発学などの国際的領域科目を中心に、教育哲学、教育社会学、教育方法学等を配置する。
3. 1・2年次では、学問・研究の基礎となる批判的思考や発信力の強化を目指すとともに、国際的領域科目および教育学の基礎的な諸領域科目を必修及び選択必修として履修し、基礎的な事項や視点、方法論を学ぶ。

3年次には、1・2年次の学びを基盤にゼミ(演習)を選択し、人間と教育を巡る問題へのアプローチと、そのために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につける。

また、一人ひとりが独自に探究する課題を定め、取り組むことで、事象を教育学的に読み解き問題解決の筋道を模索する能力、人間の尊厳を希求する態度、国際的な視野などを育む。

4年次には、卒業研究と論文の作成もしくはプロジェクト課題に取り組むことを通して、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現できるようになると共に、絶えざる自己省察を繰り返しながら問題解決に粘り強く取り組む資質・能力を身につけさせる。

4. 國際的領域科目と他教育学諸領域科目で構成された立体的な学びを通して教育学を体系的に身につけると共に、他学科の SPSF 科目履修を通じて「持続可能な社会」について教育学のみならず多様な観点から考え、課題探求のための一般的な社会科学的研究手法を身につけさせる。また、各自の問題关心や将来展望に即して、SPSF 内外の他学部・他学科科目、および留学やインターン

シップやスタディツアーやといった実践型プログラムを含めた多様な科目群からの履修を可能にすることで、グローバル社会に生きるための素養を育む。なお、一定の日本語能力を有する学生は、上限単位等の一定の制約の中で、教育学科内外の選択科目を履修することが可能であり、幅広い学びの選択肢を提供している。

5. より主体的・対話的な深い学びを実現すべく、学習方法にも工夫を施している。講義ではリアクションペーパーへの記入を求め、次の授業時に教員がコメントしたり、整理された多様な意見について、さらに学生同士で議論したりする。ゼミでは個人やグループでの発表と討議が基本となるが、さらに国内外の他大学のゼミとの交流活動や、海外も含めたフィールドワークを行うこともある。卒業論文やプロジェクト成果の最終審査は公開での発表会としており、多くの聴衆を前に効果的なプレゼンテーションを工夫する場としている。
6. 一人ひとりの学習の成果や状況について、より多面的で細かな評価を実現すべく、学期末試験に加えて、授業中のリアクションペーパーやワークシート、議論やグループワークへの参加・貢献状況の見とり、学期の途中でのレポート提出や試験の実施など、様々な評価指標・評価方法を組み合わせた評価を行っている。

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

7. 1 年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3 年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
8. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### 【アドミッション・ポリシー】

人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、国際社会や異文化に対して広い関心を有する探究心の旺盛な学生を求めています。

1. 人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を抱く学生を求めています。その際、国際社会や異文化に対して広く関心を有する探究心の旺盛な学生を特に歓迎します。
2. 学習の基礎力として、どの入試種別においても、英語を用いて論理的に思考し、表現する能力と、基礎的なコミュニケーション能力を要求しています。その上で、自らの考えを率直に表現できると共に、広く寛容な姿勢で他者の考えを受け入れ、柔軟に発想し、複眼的に思考することのできる学生を求めています。

## **社会学科**

### **[教育研究上の目的]**

社会に関する問題関心を養い、社会現象に社会学的視点からアプローチし、実証的な方法を用いて分析し、そのメカニズムを理解する能力を養うこと

### **[人材養成の目的]**

社会学的な思考法と方法論を習得し、実践的な場面で、国際的な視野と人道的な立場から問題解決について提言できる人材を養成すること

### **[ディプロマ・ポリシー]**

本学科では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、次のような能力をもつ人材を養成することを目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会について様々な問題関心をもち、社会現象の理解に社会学的視点をもってアプローチできる能力
2. 基礎的な理論と実証的な方法を用い、社会現象のメカニズムについて理解と分析をする能力
3. 現代社会の諸領域の特徴を社会構造と社会変動との関連の中で把握する能力
4. 多様な他者を理解し、他者と共に存する社会の形成に向けて、社会学的な視点を活かした問題解決が提言できる能力

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

5. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
6. 自らの専門分野に加え、6 学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

### **[カリキュラム・ポリシー]**

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 基本的な社会学的視点と、問題関心を社会学的に設定する方法について、少人数の演習によって修得させる。
2. 社会学の基幹となる「理論と方法」について、社会学理論によって論理的思考法、問題意識の概念化・モデル化を理解し、社会調査法による質的調査および量的調査の技術を修得させ、社会現象の分析能力を養う。
3. 身につけた理論と方法を現代社会の特定領域に応用して、その構造と変容の理解を深める。
4. 各自の問題意識にもとづいて研究課題を設定し、人間の尊厳を重視したグローバルな視野から、高

度な社会学的な分析と考察ができる力を養成する。

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

5. 1 年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3 年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
6. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### 【アドミッション・ポリシー】

本学科は、学位授与に向けた人材養成の目的を達成するため、以下のような意欲や関心を持つ学生の受け入れを希望します。

1. 社会や文化と個人との多様な関係を深く理解するため、政治・経済・歴史など社会の広い領域への関心を持つこと。
2. 論理的な思考力とコミュニケーションへの積極的な姿勢を持ち、さらにそれを鍛えて、他者や社会に対する豊かな想像力を育みたいという強い意欲を持つこと。
3. 社会のメンバーが相互に理解しあい、その誰もが尊重される公正な社会の実現に向けて、自分なりの方法で貢献していきたいという将来構想を持つこと。

### 経済学科

#### 【教育研究上の目的】

演習・英語による講義などの少人数教育及びミクロ・マクロ経済学などの基礎教育において、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら習得し、現代社会の経済課題について論理的・実証的に分析すること

#### 【人材養成の目的】

日々の社会問題・現象を経済学的な視点から分析し、自前の概念装置により社会を評価する能力を国際的な場で活かせる人材を養成すること

#### 【ディプロマ・ポリシー】

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済学的な視点の根幹を成すミクロ経済学・マクロ経済学の考え方や概念について理解し、自分の

言葉で説明する能力

2. 経済学の知識を土台として、概念装置としての「モデル」を自ら構築し、現代社会における現実的課題を理解し、課題解決の方法を考える能力
3. 多様な社会経済現象について、情報処理の知識と技能を駆使して、データに基づく統計的分析を遂行する能力
4. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮して課題解決に貢献する能力
5. 学生一人一人の個性(知識、能力、興味など)に応じて、現代社会で活躍できる高い専門性を修得する能力

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

### 【カリキュラム・ポリシー】

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のとおりカリキュラムを編成しています。

1. 複数の専任教員が担当する必修科目 (Introduction to Macroeconomics, Introduction to Microeconomics) を通して、経済理論の基礎的知識を修得させる。
2. ミクロ経済学あるいはマクロ経済学の応用科目 (である選択必修科目)において、社会経済現象を「モデル」として記述して分析する方法を学び、論理的思考能力を修得させる。
3. 情報処理に関する科目 (Introduction to Statistics, Introduction to Data Analysis) を通して、データに基づく統計的分析能力を修得させる。
4. アクティブ・ラーニング・セミナーと演習(ゼミ)では少人数のディスカッションやグループ学習を行い、他者と協力して課題を解決するためのコミュニケーション・スキルを修得させる。
5. 国際的な視点から、多様な専門科目 (International Economics and Business, Environmental and Natural Resource Economics, Global Health Policies, Health Economics, International Finance, etc.) を選択必修科目として英語で開講し (ECOE: Economics Courses Offered in English)、経済理論の現代社会への応用について理解を深める。
6. ディプロマ・ポリシーで目標としている共通の基礎的な知識と能力を基盤として、さらにそれぞれの学生が自らの特性や興味にあった専門性を獲得することを支援するために、より専門性の高い経済学の科目に加え、経営学や他学部他学科科目を含む多様な専門科目を選択できるようにする。

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

7. 1 年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関

連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3 年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。

8. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本学科の基本的な教育目標は、現代社会を取り巻く現実的課題を解決するための論理的思考能力の涵養です。経済学的視点にもとづき構築したモデルを駆使する学問的特性から、経済学の論理には「数学的思考」が不可欠です。このため、本学科では、入試科目として、論理的思考の基礎となる国語・外国語(英語等)に加えて数学を必須科目とし、高い意欲をもつ優秀な学生を受け入れます。

1. 現代社会の諸問題に対して高い関心を持ち、社会に貢献できるようになりたいという高い意欲を持つ学生を求めています。
2. 論理的思考の基礎となる言語能力(自らの考えを整理して言葉で表現する力や他者の考えを理解する力)、および数学的な思考能力を備えた学生を求めています。
3. 学生が経済学科において、自ら主体的に行動し、対話を通じて他者を理解し、他者と協働できるようになることを期待します。

### 経営学科

#### 〔教育研究上の目的〕

高度な専門知識及び幅広い教養を身につけ、社会とのかかわりにおいて多様な視角から経営を理解し、実践していく能力を養うこと

#### 〔人材養成の目的〕

ローカル及びグローバルな社会との関連で経営を理解し、専門知識に基づいた合理的な意思決定を行うことによって、企業経営だけでなく、地域社会・国際社会などに貢献できる人材を養成すること

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身に付けていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. グローバル化・複雑化が進展していく経営環境を的確に分析するための知識や技能
2. 経営学の考え方や概念および専門的知識を理解し説明する能力
3. 現実社会における問題解決をリードするために、複雑で多様な情報を効率的に収集、処理し、問題解決へリードする能力

4. 厳しい制約条件のもとで適切な意思決定をおこなうために、異質性や多様性を尊重する態度を持ち、オープンでフェアな議論、および情報発信する能力
5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを發揮する能力

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

#### [カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1 年次においては Major core 科目「Introduction to Management 1」「Introduction to Management 2」において、専門的な学修を進めていく上で身に付けておかなければならない学修スキル、専門基礎知識、コミュニケーション能力、論理的な考え方、社会的な倫理観を修得させる。
2. 専門科目、および演習(ゼミ)において専門的知識を深め、現代社会の問題を解決するための能力を修得させる。
3. 4 年間を通じた小人数科目で、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、コミュニケーション・スキルの向上を目指す。
4. 実務経験者や実務家による現実的な実務感覚を養う科目、および実際のビジネスの現場を学ぶ科目を開講する。
5. 英語科目の履修により、国際共通語である英語の力を集中的に高めると同時に、英語以外の外国語修得も目指して外国語科目を設置する。

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

6. 1 年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3 年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
7. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### [アドミッション・ポリシー]

本学科は企業の経営活動に関する高度な専門知識を体系的に学習すると同時に、グローバルな社会と

の関わりの中で経営活動を理解し、経営に関する合理的な意思決定により社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. 多様な現実社会の問題に対し関心を持ち、主体的に関わりあう意欲を持つ学生を求めています。
2. 多面的な視点から社会現象を論理的に分析して理解するために必要とされる日本語および外国語の能力、歴史などの社会科の素養、論理的能力に秀でた高い意欲を持つ学生を求めています。
3. 将来、営利組織、非営利組織を問わず、国内外の組織やプロジェクトにおいて活躍する意欲のある学生を求めています。

## **総合グローバル学科**

### **〔教育研究上の目的〕**

国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1)グローバリティの理解、2)ローカリティの理解、3)複言語(英語、地域言語)の運用能力、4)倫理観に裏付けられた交渉能力を習得させる

### **〔人材養成の目的〕**

グローバル化の正負の側面に対処して、世界の人々が共に歩む共生社会の構築に貢献しようとする人材(国際的公共知識人)を養成すること

### **〔ディプロマ・ポリシー〕**

本学部は、グローバル化の進行する現代にあって、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向け、国際的公共知識人たることを目指す学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 安全保障、紛争、貧困、開発、移民、難民、地球環境などに关心を持ち、それらがなぜグローバルに解決を要する問題であるか説明する能力
2. グローバル・スタディーズを支える国際関係論と地域研究の考え方や理論の全体像を理解し、双方の視点を組み合わせて考える能力
3. グローバル化の正負の側面について、具体的な事例に即し、基礎的な理論と実証的な方法を用いて分析を行い、問題解決の方法を構想する能力
4. 国際関係論と地域研究の2領域を専門として選択し、2領域を組み合わせた主題を設定し、調べる能力
5. 世界の諸地域に生活する多様な他者と対話し、共存する社会の形成に向けて、協力して問題解決に当たる能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科(新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科)共通要件として、学生が卒業時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futures についての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の 5 学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

### 【カリキュラム・ポリシー】

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル・スタディーズと、これを支える国際関係論および地域研究の基礎について講義を通じて学び、基幹となる理論と方法を修得させると共に、研究の基礎的な技能と姿勢を身に着けさせる。

#### 【100 番台科目】

2. 国際政治や経済の動態を把握し、国際協力や市民社会のメカニズムについて講義を通じて学び、専門の選択に備える。

#### 【200 番台科目】

3. アジア、中東、アフリカ等について、歴史、文化、政治、経済他の諸側面から講義を通じて学び、専門の選択に備える。

#### 【200 番台科目】

4. 国際関係論と地域研究の 2 領域を専門とし、講義等を通じてグローバルな問題の解決策を構想し、実践する力を養う。

#### 【300、400 番台講義科目】

5. グローバル化の諸問題について、個別の課題を主体的に設定し、その研究成果を論文等の明確な形にして示す。

#### 【200 番台自主研究、400 番台演習、400 番台卒業論文・研究等】

6. 少人数の演習を通して、議論によって相互の理解を深め、各自の課題研究を支えあう姿勢を身に着けさせる。

#### 【100 番台グローバル・スタディーズ基礎演習、400 番台演習】

7. 國際共通語である英語の力を高めると共に、英語以外の外国語修得を心がけて複言語能力を獲得させる。

#### 【200 番台以降の講義科目】

なお、上記に加え、SPSF では 6 学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

8. 1 年次には SPSF 共通科目で Sustainable Futures の基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futures を巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3 年次には SPSF 共通科目で学んだ知識を

統合し、Sustainable Futures を巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。

9. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

知的な関心と意欲を主体的努力によって伸ばし、グローバルな共生社会の形成に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

1. グローバル化する世界が呈する正負の諸側面に対する大きな関心を抱き、中等教育において現代社会に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
2. 世界を構成するさまざまな地域や人々の多様性がもたらす人類の社会と文化の豊かさに対する大きな関心を抱き、中等教育において地理、世界史に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
3. 物事に対して根拠に基づいた論理的な思考ができ、かつ主体的に取り組むことができるよう努力を重ねてきた者。
4. グローバル化する世界の動きを理解するのに必要な文献を読解することのできる英語能力を有している者。

以上

# 上智大学大学院

(2022 年度)

教育研究上の目的及び人材養成の目的

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

## 目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 神学研究科 .....         | 4  |
| 神学専攻（博士前期課程） .....     | 4  |
| 組織神学専攻（博士後期課程） .....   | 5  |
| 2. 哲学研究科 .....         | 6  |
| 哲学専攻（博士後期課程） .....     | 6  |
| 3. 文学研究科 .....         | 6  |
| 哲学専攻（博士前期課程） .....     | 6  |
| 哲学専攻（博士後期課程） .....     | 8  |
| 史学専攻（博士前期課程） .....     | 9  |
| 史学専攻（博士後期課程） .....     | 10 |
| 国文学専攻（博士前期課程） .....    | 11 |
| 国文学専攻（博士後期課程） .....    | 11 |
| 英米文学専攻（博士前期課程） .....   | 12 |
| 英米文学専攻（博士後期課程） .....   | 14 |
| ドイツ文学専攻（博士前期課程） .....  | 14 |
| ドイツ文学専攻（博士後期課程） .....  | 16 |
| フランス文学専攻（博士前期課程） ..... | 17 |
| フランス文学専攻（博士後期課程） ..... | 18 |
| 新聞学専攻（博士前期課程） .....    | 18 |
| 新聞学専攻（博士後期課程） .....    | 19 |
| 文化交渉学専攻（博士前期課程） .....  | 20 |
| 文化交渉学専攻（博士後期課程） .....  | 21 |
| 4. 実践宗教学研究科 .....      | 22 |
| 死生学（博士前期課程） .....      | 22 |
| 死生学（博士後期課程） .....      | 23 |
| 5. 総合人間科学研究科 .....     | 24 |
| 教育学専攻（博士前期課程） .....    | 24 |
| 教育学専攻（博士後期課程） .....    | 25 |
| 心理学専攻（博士前期課程） .....    | 26 |
| 心理学専攻（博士後期課程） .....    | 27 |
| 社会学専攻（博士前期課程） .....    | 28 |
| 社会学専攻（博士後期課程） .....    | 29 |

|                        |    |
|------------------------|----|
| 社会福祉学専攻（博士前期課程）        | 30 |
| 社会福祉学専攻（博士後期課程）        | 31 |
| 看護学専攻（修士課程）            | 32 |
| <br>6. 法学研究科           | 33 |
| 法律学専攻（博士前期課程）          | 33 |
| 法律学専攻（博士後期課程）          | 34 |
| 法曹養成専攻（法科大学院）          | 35 |
| <br>7. 経済学研究科          | 36 |
| 経済学専攻（博士前期課程）          | 36 |
| 経済学専攻（博士後期課程）          | 37 |
| 経営学専攻（博士前期課程）          | 38 |
| 経営学専攻（博士後期課程）          | 39 |
| <br>8. 言語科学研究科         | 40 |
| 言語学専攻（博士前期課程）          | 40 |
| 言語学専攻（博士後期課程）          | 41 |
| <br>9. グローバル・スタディーズ研究科 | 42 |
| 国際関係論専攻（博士前期課程）        | 42 |
| 国際関係論専攻（博士後期課程）        | 43 |
| 地域研究専攻（博士前期課程）         | 44 |
| 地域研究専攻（博士後期課程）         | 45 |
| グローバル社会専攻（博士前期課程）      | 46 |
| グローバル社会専攻（博士後期課程）      | 47 |
| 国際協力学専攻（博士前期課程）        | 48 |
| <br>10. 理工学研究科         | 49 |
| 理工学専攻（博士前期課程）          | 50 |
| 理工学専攻（博士後期課程）          | 51 |
| 機械工学領域（博士前期課程）         | 52 |
| 機械工学領域（博士後期課程）         | 52 |
| 電気・電子工学領域（博士前期課程）      | 53 |
| 電気・電子工学領域（博士後期課程）      | 54 |
| 応用化学領域（博士前期課程）         | 55 |
| 応用化学領域（博士後期課程）         | 56 |
| 化学領域（博士前期課程）           | 57 |

|                              |        |
|------------------------------|--------|
| 化学領域（博士後期課程）                 | 58     |
| 数学領域（博士前期課程）                 | 58     |
| 数学領域（博士後期課程）                 | 59     |
| 物理学領域（博士前期課程）                | 60     |
| 物理学領域（博士後期課程）                | 61     |
| 生物科学領域（博士前期課程）               | 62     |
| 生物科学領域（博士後期課程）               | 63     |
| 情報学領域（博士前期課程）                | 64     |
| 情報学領域（博士後期課程）                | 64     |
| グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士前期課程） | 65     |
| グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士後期課程） | 66     |
| <br>1.1. 地球環境学研究科            | <br>67 |
| 地球環境学専攻（博士前期課程）              | 67     |
| 地球環境学専攻（博士後期課程）              | 69     |

## 1. 神学研究科

### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

前期課程には、修士に加えてカトリック教会の教授資格（STL）を与える組織神学コース、聖書研究の方法論を身につける聖書神学コース（M.Bib を授与）及び宣教や司牧の実践について学ぶキリスト教教育コース（M.Div を授与）及び教会での奉仕の現場にたずさわる人々を養成する宣教実務者コースを設けるが、いずれも神学全般についての知識と理解を重視する。また研究者養成を主目的とする後期課程（条件を満たせばカトリック教会の学位 STD を授与）においては、研究のみでなく教育訓練を課程に組み込む。カトリック司祭・修道者とカトリック学校での宗教科教員の養成、及び自己のキリスト教信仰を客観的・批判的に省察することにより教会に貢献できる人材養成を主目的とする。

### 神学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 神学を基礎的・中心的研究対象とし、世界的視野の下で、他の思想・文化・宗教との対話の重要性にも注意することができる力

各コースごとに次のような力を身につけたものとする

- a. 組織神学コースでは、カトリック教会における司祭の養成をはじめ、体系的なカトリック神学を研究する能力
  - b. 聖書神学コースでは、聖書研究の方法論を研究する能力
  - c. キリスト教教育コースでは、基礎的な神学理論を踏まえながら、実践的な司牧のあり方について研究する能力
  - d. 宣教実務者コースでは、教会における奉仕の現場に携わる人材としての能力
2. 修士論文および課題研究報告書の作成において、論文構成が的確であり、論理展開に整合性・一貫性があり、説得力のある学術論文を作成する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. カトリック神学の伝統に基づいて、キリスト教に関する専門科目を、包括的・展開的に開設する。
2. 教義神学、教会史、キリスト教教育、キリスト教文学、聖書神学、聖書釈義、倫理神学、教会法、典礼神学、靈性神学、ギリシア語・ヒブル語などの古典文献学の科目を開設する。
3. 基礎的学習の専門性を深めるために、組織神学コース、聖書神学コース、キリスト教教育コース、宣教実務者コースの4コースを設置する。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. カトリック神学の基礎を修得し、論理的思考・論述力がある学生
2. 英語をはじめ専門分野に関する語学力があり、異文化・国際性に開かれている学生
3. 人間の尊厳・基本的人権を適切に認識するとともに、社会正義の理解・実践に積極的である学生

### 組織神学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。なお、必要要件を満たしている場合には、教皇庁立学位 STD (Sacrae Theologiae Doctor) の学位も授与することができます。

1. カトリック神学の基礎を踏まえながら、自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に提示することができる力
2. 西洋において発展したカトリック神学の研究とともに、日本の思想・文化との対話を通して、独自の神学の樹立を目指すことができる力
3. 博士論文の作成において、論文構成が的確であり、論理展開に整合性・一貫性があり、先行研究を十分に踏まえて、独自性のある高度な学術論文を作成する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 研究指導と教育訓練からなる。研究指導では、指導教員の下で博士論文の作成、および学会等での研究発表を指導する。教育訓練は、指導教員、あるいは研究科委員長が適切だと認めた研究科教員の講義・演習科目における、講義実習や演習指導実習によって行う。
2. 組織神学、聖書学、実践神学、キリスト教文化の各分野の科目を開設する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に構築し、それを国際的にも提示できる学生
2. 基礎的な哲学的素養を修得しているとともに、英語をはじめ専門領域に関する高度な語学力がある学生
3. 自らの研究を通して、キリスト教的価値観・意義を、カトリック世界に止まらず、広く一般社会にも提示・貢献できる学生

## 2. 哲学研究科

### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

古代から中世を経て現代へ至る西洋哲学の伝統を研究する。また芸術・文化・宗教のあり方を根本から考え、現代社会が直面する多様な倫理的問題に対して、原理的な仕方で掘り下げる。

前期課程では、原典テクストの読解を中心に思想史研究の基本を学ぶ。後期課程は主として専門研究者の育成を目標とする。

#### 哲学専攻（博士後期課程）

##### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、以下の要件を満たしたうえで、博士論文が正式に受理され、審査に合格した学生に博士（哲学）の学位を授与します。

1. 本課程において、研究指導教員に1年間以上にわたり研究指導を受けたのちに研究企画書を研究科委員会に提出し、博士論文提出に関してあらかじめ研究科委員会の承認を得ていること。
2. 研究発表：上智大学哲学会での研究発表・全国規模の専門学会での複数の研究発表。
3. 刊行論文：3点以上の刊行論文。

##### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、高度な専門的研究者の養成、すなわち、大学や短大などでの哲学教育の担当者のみならず、国際的な場においても活躍できるような哲学研究者の養成をめざします。

## 3. 文学研究科

### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

幅広い教養と柔軟な思考力を持ち、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、文化的総体の探究、現代社会との連結、語学能力の重視に重点を置いた実践教育を行い、社会、文化の発展に貢献しうる人材を養成する。前期課程では、研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識によって職業的能力を向上させる。後期課程では、国際的な水準で広く活躍し、将来、各々の分野で研究・教育に携わる人材の育成を期する。

#### 哲学専攻（博士前期課程）

##### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけていくべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満

たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 西洋哲学史全般に関する基礎知識をもとに、各自の研究テーマを掘り下げて、じっくり考える力と、時流に流されない深い学識
2. 現代社会のグローバルな危機に対して、対症療法に終わらない深い次元から解決の方向を見出す洞察力と賢慮
3. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
4. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
5. 専門分野の研究実践能力を獲得し、修士論文をまとめる力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、哲学専修コースおよび現代思想コースの 2 つのコースを設置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学専修コースでは、古代から中世を経て近・現代へ至る西洋哲学の歴史をふまえて、科学、芸術、文化、宗教のあり方を根本から考えるとともに、哲学の文献研究の基礎を学ばせる。
2. 古代から近代まで哲学の古典的著作を原典（英・独・仏・ラテン・ギリシア）で精読する文献研究を開設する。
3. 現代思想コースでは、現代的な視座から哲学の根本問題を考察し、環境、生命、医療など現代社会が直面する多様な倫理的問題をとりあげる。文献研究以外に現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などの科目を開設する。
4. 両コースに共通の必修科目「哲学総合演習 A、B」によって、各自が自分の研究を発表し、討論する機会を設ける。関心の枠を広げ、質疑応答や意見交換によって哲学的思索を深め、共同研究のやり方を幅広く学ぶ。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。
5. 入学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、最終的には修士論文へと結実させる。
6. 後期課程進学を希望する者は、大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表や『哲学論集』への投稿、などを通じて、学会発表を経験させる。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 前期課程は哲学専修コースと現代思想コースの 2 つのコースがあり、カリキュラム上では必修・選択科目に関して相違点がある。どちらのコースも、本学の哲学科の卒業予定者・既卒者のみならず、他大学他学部の卒業予定者、既卒者、も同じ条件で受験可能。
2. 哲学専修コースの志望者には、①明確な研究テーマと問題意識、②哲学の古典的著作を原典で読むために必要な語学力、③西洋哲学史に関する基本的な知識、④ある程度の長さの論文を作成した経験、がある学生
3. 現代思想コースの志望者には、①明確な研究テーマと問題意識、②広汎な社会的・現代的諸問題に対する関心と予備知識、③研究遂行のために必要な語学力、④ある程度の長さの論文を作成した経験、があ

る学生

### 哲学専攻（博士後期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 論文の個人指導や国内外の研究者との交流を通して得た知識により、学会での発表ができる能力と、それらを踏まえ博士論文としてその成果をまとめる能力
2. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
3. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
4. 専門研究者として、大学等の高等教育機関において教育・指導にあたる能力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門的哲学研究者（大学・短大・高専の教員）の養成を主眼とし、また国際的な舞台で活躍できる人材を育成するようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学の歴史研究においては文献講読を中心とし、古代から現代までを扱う「哲学特殊研究」を複数開設する。
2. 文献研究以外に、現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などを開設する。
3. 各自分が自分の研究を発表し討論する 必修科目「哲学特殊研究 A、B」を開設する。
4. 後期課程進学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、口頭発表や論文投稿など学会活動を通じて研究成果を発表しつつ、最終的には博士論文へと結実させる。
5. 大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表、『哲学論集』への投稿などを通じて、学会発表を経験させる。
6. 本学の恵まれた条件を活かして海外留学を推奨する。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 後期課程では専門の哲学研究者の養成に主眼を置くので、①修士論文の一定以上の成績、②文献を読解する語学力、③明確な研究計画と将来設計、をもつことが要求される。
2. 高校教員や出版社など狭義の研究者以外の職業を目指す者も歓迎する。志望動機とそれを裏付ける勉学の実践、将来像が入学判定の成否となる。

## 史学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、歴史研究の知識向上に寄与できる力
2. 先行研究を十分に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づいた実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、歴史学の幅広くかつ深い知識を極め、鋭い分析・批判能力を培うよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地域的（日本史・東洋史・西洋史）、時代的（古代史・中世史・近世史・近現代史）に細分化された領域に配置された教員が、テーマに最も近い学生を「研究指導」する。
2. 学生が、上記の特定領域の史料読解力を磨き、研究史を学ぶ「演習」を開設する。
3. 地域・時代を超えた学生が集まり、歴史学の比較研究や幅広い論を行い、自分の専門領域をより客観的に見る姿勢を養う「特研」を開設する。
4. 学生が、修士論文完成まで数度経過報告を行い、論文のまとめ方を修得する「修士論文演習」を開設する。
5. 学生の専門領域を深めるために、指導教員の承認を得たうえで、他専攻の科目や、他研究科の科目、ならびに協定を結んだ他大学大学院の科目を、一定の条件の下で履修させることがある。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 歴史学の成果を研究・教育・社会啓蒙の分野で生かし、社会の発展に貢献しようという意欲のある学生
2. 研究対象を理解するのに必要な、歴史的基礎知識や能力（語学力・調査能力・批判力など）を持つ学生
3. 研究対象を、長い時間軸の中でとらえる視点と、他の事例と比較する視点をもち、問題発見能力を持っている学生

## 史学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで、博士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示ができる力
2. 先行研究を網羅的に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づく実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力
6. 独創的かつ先端的な研究を行い、自立的研究者として研究を遂行できる力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自分のテーマに最も近い教員を指導教員として学生が選ぶ「研究指導」を開設する。
2. 自分のテーマでの史料講読や研究史を教員の指導下で学びつつ、論文執筆の途中経過を報告して論文作成を進める「博士論文演習」を開設する。
3. 本専攻課程の授業以外に、学生は、指導教員の承認を得たうえで、海外留学や学会・研究会報告を行い、研究者としての研鑽を積む。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 歴史学研究の成果を研究・教育・社会啓蒙の分野で生かし、社会の発展に貢献しようとする意欲のある学生
2. 歴史全般にわたる正確で十分な基礎知識をもち、研究対象を調べるために必要な能力（語学力・調査能力・批判力など）を持つ学生
3. 新たな史実の発見や、歴史事象に関する新解釈を構築する力があり、それを社会に対する高い見識と結びつけることができる学生

## 国文学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
2. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育者としての能力を養成することができる能力
3. 高度な知識と緻密な分析に依拠し、的確に構成された修士論文を書く能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊講義・演習の科目、及び世界から見た日本文学の科目を学生が履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊講義・演習の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊講義・演習の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊講義・演習の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊講義・演習の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた修士論文を執筆するために、研究指導をする。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 上智大学文学部国文学科において、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を有機的に連関させて総合的に追究し、「国文学」を学問として修得してきた者で、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生
2. 他大学、他学科において同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生
3. 社会人として上記と同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生

#### 国文学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国

- 文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育ができる能力
2. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
  3. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づき、国文学の伝統を継承し、発展させる意欲を持ち、自立した研究活動を開拓する、研究者として自立できる能力
  4. 自立した研究者として、学会での口頭発表・学術論文の執筆を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめられる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊研究の科目、及び世界から見た日本文学の科目を履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊研究の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊研究の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊研究の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊研究の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた学位論文を執筆するために、研究指導をする。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を有機的に連関させて総合的に追究する、「国文学」を学問として修得する者は、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生
2. 他大学大学院において同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生

#### 英米文学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。キリスト教的ヒューマニズムに基づき、英米文学を西欧文明という大きな全体の一環をなす試みとして理解し研究した学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め学位を授与します。

1. 人文学的な教養を基礎とし、英米文学、英語学・英語教育を歴史、宗教、思想、文化の諸領域との広

- 範なつながりを射程に入れて理解することができる力
2. 研究や教育を遂行するための高度な英語能力と基礎からの研究能力
  3. 英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての体系的かつ専門的な知識
  4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
  5. 専門研究者として大学等の高等教育研究機関において教育や研究に当たるにふさわしい能力（A コース）
  6. 英米文学や英語学の高度な知見をもって英語教育を行なう中高教員、その他の職業に従事するための ability (B コース)

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、高度な英語能力と英米文学・思想・文化、英語学・英語教育についての知識が獲得できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 特別講義・演習をバランス良く受講し、体系的かつ専門的な知識を身につけるように指導する。1年次はアドバイザーによる研究指導を受け、2年次は専門分野の指導教員（メンター）のもとで研究を進める。
2. 修士1年で「文学研究法I」（日本語）と「文学研究法II」（英語）を必修として開設し、リサーチ、研究発表、論文執筆を英語と日本語で行えるようになることを目指して基礎力を養う。
3. 大学教員、中高教員、あるいは英語英文学における知識や技能を生かした進路に進むための訓練をする。
4. A コース（後期課程進学コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語）を作成し、後期課程に進み専門研究者となることを目指す。
5. B コース（前期課程完結コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語・日本語）あるいはリサーチ・ペーパーを作成し、研究の基礎を学ぶ。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 研究分野に対する積極的な関心と、学業への誠実な意志を持っている学生
2. 研究を遂行する為に必要な優れた語学力と英米文学、英語学・英語教育分野における基礎的知識を有している学生
3. 大学、中高において、専門技能を生かした研究や教育にたずさわるか、あるいは高度な英語力と専門知識を生かす職業に従事する目的を持っている学生

## 英米文学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、英米文学・英語学・文化研究の専門研究者として学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人文学としての文学研究という視点から、専門的知識と共に広い分野における知識
2. 指導教授（メンター）による研究指導を受け、英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての専門研究にたずさわることができる力
3. 独自の研究テーマを探求する技能
4. 大学、その他の研究機関における教育研究職に従事するための英語力と技能
5. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門研究者となるための研究方法を修得し、専門テーマに関する研究を行うことができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. リーディング・コースを毎年履修し、専門的知識を獲得すると共に、幅広い視野を身につけるように指導する。
2. リサーチを進め、学内外で研究発表を行い、研究論文を公表するように指導する。
3. 博士予備論文作成を指導する。
4. 英語運用能力の向上を図り、英語圏の大学や研究機関に長期あるいは短期留学できるよう指導する。
5. 博士論文のテーマを定め、博士予備論文を執筆し、博士号取得に向けた研究を進めるように指導する。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 研究分野への真摯な関心と、学問に対する誠実な意志を持っている学生
2. 研究を遂行するために優れた語学力と、英米文学、英語学・英語教育分野における専門知識を有している学生
3. 大学において、専門技能を生かした研究や教育にたずさわる目的を持っている学生

## ドイツ文学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する専門的な知見と研究に必要な能力を修得の上、研究成果として学位論文を提出し、その審査

に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究を行うのに十分なドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏のさまざまな地域や時代の文化現象に対する知識と理解を深め、それを多様な視点から考察し、研究するに値するテーマを自分で設定することができる力
3. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
4. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と深い知見に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視座を獲得し、他国との相互理解、文化交流に貢献できる力
5. 自国とは異なる文化や思想をその歴史的背景とともに理解することによって、世界の多様さと豊かさを認識し、他者に対する想像力と開かれた精神をもって、現代世界のさまざまな問題と向き合うことができる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、自分で研究テーマを見つけ、その成果を学術論文にまとめることができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要なドイツ語運用能力を身につけることを目指し、ドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、その多様性と豊かさに触れるために、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して、問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、修士論文中間発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、他者の見解を理解し、そこから新たな視点を獲得する能力を養成する。
5. 教員の個別指導の下、研究テーマを決定し、日本語（要ドイツ語レジュメ）ないしはドイツ語で修士論文を書くことを課す。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. ドイツ語圏の文学・文化について専門的に研究するために必要なドイツ語運用能力をもつ学生
2. ドイツ語圏の文学・文化・歴史を専門的に研究したいという強い意欲と、それに必要な基礎的な知識をもつ学生
3. 問題意識をもって学び、研究するに値するテーマを決定し、それを学問的な論文にまとめあげることのできる、柔軟な発想、緻密な分析能力、論理的思考力、豊かな言語表現力をもつ学生

## ドイツ文学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する高度の研究能力を修得し、その分野における研究者として活躍できるようになることを目指して学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究に必要な高度のドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、専門領域への洞察を深めると同時に、広い視野と複眼的な視点によって研究対象、研究方法を見定めることができる力
3. 自己の研究が、研究史においてどのように位置づけられるかを把握し、新たな知見をもたらすテーマを自分で設定することができる力
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と専門的な知識に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視野を獲得し、諸外国との文化交流に貢献できる力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化についての専門的な理解と考察を深め、専門領域において新たな知見をもたらす博士論文を提出できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要な高度なドイツ語運用能力を向上させることを目指しドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、多角的な視点と問題意識をもてるよう、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、論文発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うとともに、学問的な議論を行う能力を養成する。
5. 学生は、指導教員の個別指導の下、まずは院生の雑誌に学術論文を執筆し、論文の書き方を具体的に徹底して身につけ、それをさらに発展させて、博士論文を執筆する。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. ドイツ語圏の文学・文化について専門的に研究したいという強い意欲をもち、それを行うのに必要な高度のドイツ語運用能力を備えた学生
2. ドイツ語圏の文学・文化・歴史に関する専門的知識をもち、専門領域に新たな知見をもたらす研究テーマを設定できる広い視野と柔軟な発想を有する学生

3. 大部の学術論文をまとめあげるために必要な緻密な分析能力、論理的思考力、豊かな言語表現力をもつ学生

### フランス文学専攻（博士前期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。複眼的視点と問題意識をもって専門的な知識と深い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高水準の専門的研究をすることができる能力
2. 専門的な研究を遂行しうる高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術に関する深い教養
4. 専門的な知識に基づいた的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力
5. さまざまな分野で職業人として活躍しうる能力・適性

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、方法論を深化させ、多様な興味・関心を抱くことのできるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、研究方法の修得・深化に役立つ専門的教育を行う。
2. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、多様な興味・関心を喚起しうる専門的教育を行う。
3. 高度なフランス語運用能力を養成するための実践的な語学的訓練を行う。
4. 修士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導をする。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力をもつ学生
2. 情報の収集、分析、総合を的確におこない、かつ研究成果を正確に伝達する能力をもつ学生
3. 専門の枠にとらわれず広く芸術・文化の諸問題に関心をもつ学生

## フランス文学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。各人の専門において先端的な知識と高度な幅広い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、国際的な水準で通用しうる高度な専門的研究をすることができる能力
2. 国際的な学的交流を可能にする高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術についての極めて深い見識
4. 専門的な知識、先行研究の精査に基づく的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力
5. 専門的な知識やフランス語運用能力を教育の現場に生かすことのできる能力・適性

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、国際的なレベルでのテーマと方法論の基準と選択について意識を高めるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する「特殊研究」を複数開設する。
2. 博士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導を行う。
3. 給費留学や研究集会での発表など、研究者としての国際的な活動に道を開くための手助けをする。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 国際的な水準で高度な専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力をもつ学生
2. 情報の収集、分析、総合を的確におこない、それを独創的な研究成果としてまとめる能力をもつ学生
3. 専門の枠にとらわれない学際的視野をもって学問研究に励むことのできる学生

## 新聞学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。幅広くマス・コミュニケーションとジャーナリズムを学習して所定の単位を修得し、学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. カリキュラム・ポリシーが示す3分野の基礎知識を修得し、及びそれらを現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題の解決に応用できるだけの力
2. 幅広い関心領域を有し、情報化社会において今後新たに次々と生起する諸問題にその都度関心を払い、

- それらに対して独自の洗練された問題意識を持って臨むことができる力
3. 問題意識と方法論をもって、修士論文を完成させ、一定程度以上の評価を得ることができる力
  4. 学外の情報にも広くアンテナを張って、情報収集を行い、自己の研究に有益な情報を修得すべく自ら努力できる力
  5. 一定の様式を備えたレポートや口頭発表によって、自己の研究成果や思想を効果的に伝達する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、効率的な学習によって、ディプロマ・ポリシーに示す目標を達成できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム論、メディア分析の3分野を基本に据えたカリキュラムを構成し、その上で演習を配置し院生が主体的に学問に取り組める体制とする。
2. メディア・ジャーナリズムをとりまく今日の諸問題を扱う科目をその都度設置して、院生の関心に応じて時代の潮流に沿った柔軟な研究が可能となる体制とする。
3. 修士論文を完成させるため、指導教員の指導のもと、各自の研究を推進させる体制を整えている。中間発表会を設置することで、修士論文の進捗状況をすべての教員が把握できる仕組みをとする。
4. 大学院の社会学分野単位相互互換制度により、他大学大学院の開設科目の履修を認める。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. カリキュラム・ポリシーで示した3分野に関して、修士課程の授業に耐えられるだけの基礎知識を有することが不可欠で、基本的には学部においてメディアやジャーナリズムの専門教育を受けている学生
2. 外国語の文献を読む機会も多いことから、英語を中心とした語学力を有することが必要となる。外国人の場合には、日本語能力試験N1と同等あるいはそれ以上の日本語能力が必要となる。
3. メディアやジャーナリズムの実務の現場で経験を積んだ学生が、その経験に基づく問題意識をもって研究する場として、社会人にも門戸を広げている。

#### 新聞学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位取得および学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究領域における学問的方法論および高度な専門知識を有し、ジャーナリズム論、メディア論、情報社会論などを中心に自己のテーマ領域を確立する力
2. 自己のテーマ領域に関して、過去の諸研究を広くレビューしており、他者に対して適宜要点を伝える能力を有する力
3. 国際的な視野に立った討論や分析を行う能力を持ち、国内外の学会等で最先端の研究成果を発表できる力

- 独自の研究テーマを持ち、今後、研究者として自立して研究を遂行していくための計画を立てる力
- 自己の研究テーマの研鑽を通じて培った高度な専門知識や倫理感を以て、国際社会に広く貢献できる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、研究者として自己のテーマ領域を打ち立てるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

- 在学期間内に博士論文を完成することを目指し、指導教員のもと入学後3か年内に12単位の演習および在学中研究指導を受けさせる。
- 学位申請論文については、入学後1年を経て論文提出資格を得る試験に合格した者に対して執筆を許可する。
- 論文執筆前に、自己の研究テーマに関して、日本マス・コミュニケーション学会他、国内外の関連学会において積極的に発表を行うことを推奨し、指導をする。
- 論文執筆の途中段階において随時、指導教員および当該テーマを専門とする教員による助言と評価を仰ぐことができる体制とする。
- 論文審査は学外の審査委員（副査）を含む審査委員会によって行われ、公開試験後の審査委員会において合格判定を得られた場合に、学位を授与する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

- マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディアの領域における独自の関心テーマを有し、各領域における最先端の研究を志向する学生
- 豊富な専門知識を背景に、自己のテーマに対し様々な方法論を駆使してアプローチする能力を有する学生
- 常に研究領域を拡大し、新たな視野から国際社会の理解に資することを目指す学生

#### 文化交渉学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

- 修士論文の作成にあたって、先行研究を十分にふまえ、既存の学問領域の枠にとらわれずに、適切なテーマを設定する力
- テーマ設定に基づき、その解決のために必要な資料を読解し分析する能力
- 緻密な分析、論旨の整備等がそなわった明快な論文を作成する力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、多元文化相互の接触や交渉に、幅広い観点から目を向けるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 異文化をどのように捉えるのかをテーマに、さまざまな文化の特質、文化形成の歴史的経緯などを研究する。
2. 文化交渉の手段の一つであり、新しい文化創造の契機にもなる翻訳について、文学と芸術の関わりを含めて研究する。
3. 諸文化が出会うときに生じる軋轢や、受けとめる様相などを見つめ、新しい文化創造に向かう過程に着目して研究する。
4. 研究、論文作成の基本に習熟するために、「論文作成法」を履修し、修士論文作成にそなえさせる。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. さまざまな文化に強い好奇心をもち、さらに、各文化間の交渉の様相や、交渉の結果生じる変容等に興味をもつ学生
2. 哲学、文学、史学等、文科系の既存の学問領域を越え、或いは、科学技術といった理科系の分野まで含めた幅広い文化のありように関心をもつ学生
3. 英語または日本語で、修士論文を作成しなければならないため、論理的思考能力と、当該語学の基礎的な作文能力を有する学生

## 文化交渉学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士論文において、先行研究を十分にふまえ、緻密な分析にもとづき、独自に新しい学説を打ち出す力
2. 博士論文の核になる論文を、学会における発表や、雑誌論文への投稿によって、積極的に世に問う力
3. 修了後も、研究者としての自覚をもって、必要に応じて海外で活動するなど、研究を深化させる力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本専攻の特色を生かした博士論文作成に向けて、資料の読み解き、テーマの深化、論文作成の要諦などを教授するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究をさせる。
2. 開講科目的履修と個別指導を通じ、研究者としての自覚をもたせ、文化創造の基盤となる資料の取り扱いに、さらにみがきをかける。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 修士論文の成果を発展させ、さらに高度な研究を行なって、博士の学位取得をめざす意欲のある学生
2. 研究を深めるとともに、常に研究領域の拡大を考えて、新たな視野から国際的な文化理解に資するよう努力する学生
3. 自己の研究成果を、学会における発表や、雑誌論文への投稿を通じて、積極的に公にする姿勢をもつ学生

### 4. 実践宗教学研究科

#### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

現代社会の宗教的思想的基盤を研究するとともに、新たな取り組みが求められる現代の死生学的課題について、価値多元化社会における宗教の社会的役割、死生観及び生命倫理、臨床スピリチュアルケアの三視点から研究・教育を行う。また、スピリチュアリティを基盤にしたケアの実践的対応能力の修得を目指す。これらを通じて実践力のある研究者、臨床家、コミュニティケア人材、ケア指導者等を養成する。

#### 死生学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」のいずれかの学問分野における研究課題を理解することができ、基礎的研究に主体的に取り組む力
2. 現場における研究の実践的な意味や役割を理解する力
3. 論理的かつ学術的に構成された修士論文をとおして、実践的課題探求並び学術に貢献する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目「死生学研究法Ⅰ」「死生学研究法Ⅱ」を通して研究の基礎となる方法論や研究倫理を修得する。「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3学群から、演習科目3科目（6単位）を選択必修科目として履修し、研究学問分野について研鑽を深める。さらに、選択科目を通して関連領域の学際的知識を深める。
2. 宗教・伝統・歴史・思想にかかわる人文社会科学の高度な学際的・専門的知識を深めると同時に、インターンシップ科目や実習科目の履修で死生学的課題の現場に直接参与する経験を通して、死生学的課題

について実践的な問題理解力を修得させる。

- 入学直後に指定される指導教員による、毎学期の「研究指導」科目における密接な研究指導のもと、適切な課題理解と研究方法に基づく修士論文を作成させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

- 人文学・社会科学・心理・福祉・医療等の分野において学士の学位を取得しているもしくは取得予定で、現代社会で生じるさまざまな問題に対して宗教文化や倫理思想的伝統を踏まえて対応する知の領域、もしくは人文社会科学とスピリチュアルケアの実習を土台に医療やケアの諸問題また地域社会の実践的・臨床的な問題に対応する実践的領域に関心のある学生
- 日本スピリチュアルケア学会認定教育プログラム等において、グリーフケア、スピリチュアルケア提供者としての訓練を積み、さらに高度なケア人材としての研鑽を望む学生
- その他、上記と同等の学力・適性を有する学生

#### 死生学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

- 宗教学を核とする人文学の高度な専門知識もしくは学際的知識を基礎に、実践宗教学における独立した研究者として学術に貢献できる力
- 研究対象となる実践現場の思想的宗教的基盤および社会背景に深い理解を持ち、実践的課題探求や後進の育成に教育者・実践者として貢献できる力
- 高度な実践的課題探求並びに学術に貢献できる高い水準と独創性を備えた博士論文の完成

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

- 「実践宗教学コロキウムⅠ」「実践宗教学コロキウムⅡ」を必修科目として配置し、学術研究に不可欠な建設的批判を行う能力と研究倫理を身につけ、研究基礎力を養う。
- 学生の多様な目的意識と学問的関心に対応するため、複数の領域から自己選択できる特殊研究科目群を配置し、その履修を通じて研究分野について研鑽を深め、高度な死生学的課題に係る知識を身につける。ケア実践力強化を必要とする学生は、現場実習を含む科目の履修を通じて、臨床実践力・指導力を養う。
- 個別の課題に応じた研究指導により研究応用力ならびに表現力を身に付け、研究計画審査を経て、研究者として求められる高度な専門性と独創性のある研究力ならびに教育者として求められる確かな教育能力を身につける。

4. 科目履修および研究指導をふまえ、予備論文の審査を経て、実践的視野を備えた独創的で主体的な研究計画のもと、博士論文の執筆をさせる。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 本研究科博士前期課程もしくはこれに相当する課程において修士の学位を取得した者、同等の知識ならびに研究の潜在力を有する者、専門領域において深い実践活動を積んだ者
2. 現代社会で生じるさまざまな問題に対して、宗教・文化・倫理・思想的伝統を踏まえて対応する知見および感性を有する者
3. 人文学とスピリチュアルケアの実践を土台として、医療やケアの諸現場もしくは地域社会の実践的・臨床的な問題に関わる関心を持つ者

### 5. 総合人間科学研究科

#### 〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

人間の尊厳を基盤とし、科学の知、臨床の知、政策・運営の知にかかわる学際的教育・研究を行い、理論と実践・臨床を両輪として社会に貢献しうる人材を育成する。前期課程では、実践・臨床の場で活躍できる高度専門職業人及びこれらの場を視野にいれた研究者の養成を目指し、後期課程では、実践・臨床的知見を踏まえ学問的に貢献しうる人材育成を目指す。

#### 教育学専攻（博士前期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、教育学の領域における幅広い学識と基礎的研究スキルを身につけ、人間の尊厳を守りつつ、教育を通じて現代社会の課題解決に取り組むことができる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会の様々な事象についての情報収集力
2. 柔軟で多角的な思考力・分析力
3. 他者への共感と多様な集団との協働によって生み出す創造力
4. 問題解決のための実行力
5. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文としてまとめる力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 博士前期課程では、講義・演習・研究指導を組み合わせたカリキュラムを作成している。「講義」では、教育学の当該領域（教育哲学、教育史、教育社会学、国際教育学など）における主要テーマについて理解する。「演習」では、特定トピックについての議論による理解の深化や、調査研究スキルの獲得を目指す。また、自研究科内の他専攻開設科目や、8単位まで他研究科開設の科目を履修することも出来る。これらの科目を受講することにより、社会の様々な事象に関する情報収集力、そして幅広い学識と柔軟かつ多角的な思考力・分析力を身につける。
2. 本課程では、英語による科目を開設し、他研究科とのクロス・リスティング、国連大学の委託聴講制度等を活用することで、学びの場における多様性を確保する。さらに、国内外でフィールド体験・研修を実施する。留学で卒業のための単位を一定数取得することもできる。これらにより、他者への共感力と創造性、そして問題解決のための実行力を磨く。
3. 課程履修期間中は、指導教員および必要に応じて複数の教員から個別に指導を受けることで、研究能力を向上させる。学生は、2年次の春学期に研究概要を提出し、中間発表会において口頭で説明する。教育学専攻の所属教員および他の大学院生から研究内容についてのフィードバックを得ることで、研究論文の質を高める。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を尊重する姿勢をもち、人の成長や学びを支える教育、ならびにそれをとりまく社会との関係性に対して、強い関心を持つ学生
2. 研究を遂行していく上で必要な基礎学力を有し、学ぶことへの意欲が高い学生。「基礎学力」には、情報を幅広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く伝えるための外国語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、学部での専攻は問わない。
3. また、社会人入試を実施して、現職教員や社会経験を有する人への教育・研究支援を行うほか、留学生の受け入れも積極的に行うなど、多様な人材が各人の経験を生かして共に学びあう研究環境の中で、他者との協調や連携を図ることのできる学生

#### 教育学専攻（博士後期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、研究者として教育学の領域における幅広い学識と高度な研究スキルを身につけ、人間の尊厳を守りつつ、教育を通じて現代社会の課題解決にリーダーシップを発揮して取り組むことができる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会の様々な事象についての情報収集力
2. 柔軟で多角的な思考力・分析力
3. 他者への共感と多様な集団との協働によって生み出す創造力
4. 問題解決にリーダーシップを発揮して取り組む実行力

5. 自立的に研究を遂行し、新たな知見を学術と政策・実践にもたらす力
6. 研究成果を適切にまとめ広く社会に発信する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 本博士後期課程では、関連領域の講義・演習科目を開設する。これらの科目では、領域における基礎的事項を確認すると同時に、特定のトピックについて少人数クラスで議論を行い、その理解を深める。また、これらの科目履修により、研究実践スキルの向上、および自身の研究計画の精緻化を図る。
2. これらの科目に加えて、学生は、博士論文作成のための論文演習・研究指導科目を履修させる。課程履修期間を通じて、指導教員から博士論文執筆や研究成果の発信（学術誌への投稿、学会での口頭発表など）についての個別指導を受けさせる。
3. さらに、専任教員3名からなる指導委員会が設置され、修学期間中の研究指導を受けることが出来る。指導委員会のメンバーは、学生の研究課題や調査研究手法を考慮して構成される。この体制により、学生は、多様な角度から指導を受けながら、研究と博士論文の執筆を進めることができます。講義・演習科目の履修と研究指導を有機的に結び付けたこれらの学びにより、専門分野における情報収集・分析能力、および研究能力を獲得し、自立した研究者としての能力を身につけさせる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を尊重する姿勢をもち、人の成長や学びを支える教育ならびにそれをとりまく社会との関係性に対して、強い関心を持つ学生
2. 博士課程での研究を遂行していく上で必要な基礎的能力を有し、学ぶことへの意欲が高い学生
3. 「基礎的能力」には、情報を幅広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く社会に伝えるための外国語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、本専攻博士前期課程を修了した者に限らず、国内の他大学院ならびに留学生を含めた海外の大学院博士前期課程（修士課程）の修了者を受け入れる。

### 心理学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間の尊厳を守る社会を実現するために、心理学の知識の理解、研究方法の修得や実践を通して、学修の成果を研究活動として結実させ、心理学の専門家・専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身についたものと認め、学位を授与します。

1. 基礎心理学コース、臨床心理学コースの両コース共に、心の働きの実証的理...  
心と行動の普遍性お

およびその多様性と可塑性の理解、心理学の社会的役割の理解

2. 心を生み出す仕組み（機構）と心理学の諸理論の正確な理解を踏まえて、人間についてより深く理解する力
3. 専門職業人として、本学の建学の理念である「隣人性」「国際性」を達成するために、基礎分野および臨床分野（医療、教育、福祉等）で活かすことのできる知識や技術、それを的確に伝える力
4. 多様な他分野、多職種との連携が可能となる広い知見
5. 自身の専門領域を深め、学会などでの発表を踏まえ、修士論文としてその成果をまとめるとともに、広く発信する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、心と行動の仕組みとその働きを理解し、心理学の専門的知識と技能を用いて、広く社会に貢献できる人を育てるために、臨床心理学コース、基礎心理学コースの2つのコースを設け、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の専門家としての基盤を作るために、1年次、2年次に、研究法に関する科目、各心理学の専門領域に関する科目を開設する。
2. 学修の成果を研究活動として結実させるために、1年次、2年次の2年間を通して、論文演習を開設する。
3. 臨床心理学コースにおいては、臨床心理士として必要とされるさまざまな知識や技能を具体的な臨床事例に即して得、実習や実践を通してより一層深められるよう必修科目を開設する。
4. 学部生の指導やチューターをする中で、自分自身の学びを深めることができる実習科目を開設する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 心理学に関する基礎から応用分野での高度な専門的知識と、実証的データ収集、解析技能、臨床的な実践的知識や技能を身につけることを目的としている。このための心理学の専門家として、自律的に研究を遂行する意欲と能力を備えた学生
2. 人間の尊厳を尊重し、他者に対する暖かなまなざしをもつと同時に、事象を論理的かつ客観的に分析できるセンスをもつ学生
3. 将来、さまざまな実践の場で他分野の専門家と対等に議論するために、知識修得の意欲をもち、柔軟に考え、多様な専門家と協力できる学生

#### 心理学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間の尊厳を守る社会を実現するために、心理学の知識の理解、研究方法の修得や実践を通じ、学修の成果を研究活動として結実させ、論文の形で問うができるようになります。「心」を探求する専門的な知識と経験を、総合的視野に立って駆使し、研究者・教

育者として社会に貢献できる人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 心理学の多様な分野での知見を深め、臨床的視点をもつ研究者、研究者の視点をもつ実践家となる力
2. 科学的視点を基盤にし、様々な場で対人支援を実践できる専門家としての能力
3. 自身の専門領域を深め、学会誌、国際学会などでの発表を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめるとともに、広く発信する力
4. 多職種連携を必要とするがん医療の分野をはじめとする喫緊の課題解決に資する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「心」を探求する専門的な知識と経験を、総合的視野に立って駆使し、研究者・教育者・臨床家として社会に貢献できるよう、心理学の基礎から応用にわたる研究法、高度な先端的知識を身につけるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の研究者・教育者・臨床家として必要な先端的知識、専門的技能を修得し、それを様々な場で発信することができるよう、1年次から3年次にかけて、講義科目と演習形式による論文演習を開設する。
2. 博士論文の構想発表までに、査読論文2本を書く。このためには、学会などの様々な機会を通して、自らの研究を発表し、他の研究者との研鑽をしていく。
3. 学部生、博士前期課程の学生に対する心理学研究法などのチューターを通して、心理学の知識や技能をより深めるとともに、研究者・教育者・臨床家として、それを他者に伝えるための技能を得させる。
4. がん医療関連科目として4大学院連携（上智大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、星薬科大学）の連携授業を履修することを認める。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 心理学に関する基礎から応用分野での高度な専門的知識と、実証的データ収集、解析技能、臨床的な実践的知識や技能を身に付けている学生
2. 将来、心理学の研究者、教育者、実践家として活躍できるような、人間の尊厳を尊重し、他者に対する暖かなまなざしをもつと同時に、事象を論理的かつ客観的に分析できるセンスをもつ学生
3. 心理学の高度な専門的知識や自らの研究の成果を、論文などの形でまとめ、それを他者に的確に伝えることのできる学生

#### 社会学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随し

て生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備えた人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門分野における高度な理論的及び経験的知識を理解する力
2. 社会変動や社会問題について社会学的な研究課題を設定する力
3. 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法及び分析手法を提案する力
4. 自らの主張を論理的に整理して的確に伝え、修士論文としてまとめる力
5. 研究課題の達成を通じて現代世界における多様な価値の共生に資する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、社会現象のメカニズムを分析・理解する能力を獲得するために、社会学理論と社会調査法の基礎科目および現代社会の重要な諸側面を扱う幅広い専門科目を配置して、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 理論的及び経験的知識の修得のため必修科目である社会学理論及び専門科目を1年次春学期から配置する。
2. 社会学的研究課題を設定する能力の修得のため必修科目である社会学方法論及び関連専門科目を1年次春学期から配置する。
3. 社会調査法の知識と運用能力の修得のため必修科目である社会学方法論及び専門社会調査士科目を1年次秋学期から配置する。
4. 修士論文執筆と口頭報告の能力の修得のため2年次春学期から指導教員による論文演習及び合同研究報告会を配置する。
5. 研究を現実の社会問題に応用する能力を修得するため専門科目においてディスカッションや実習を実施するとともに、関連学会への参加を促進する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を学問的に深め、実践の場で発信しようとする目的意識を有する学生
2. 社会学の知識を幅広く修得しようとする強い意欲と、社会現象に多角的に接近する柔軟な思考力を備える学生
3. 前期課程における専門教育を受ける上で必要となる知識と学力ならびに論理的思考力と表現力を有する学生

#### 社会学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随し

て生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、研究者としての冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備え、また、高度な理論的知識や方法論的技術を駆使して研究論文をまとめる力量を備えた人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門分野における高度な理論的及び経験的知識を独自に整理し運用する力
2. 社会変動や社会問題について独創性を有する社会学的な研究課題を設定する力
3. 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法及び分析手法を提案し、高度な水準でそれを実施する力
4. 自らの主張を論理的に展開して国内外に広く発信し、博士論文としてまとめる力
5. 研究を通じて現代世界の福祉と創造的進歩に資するような結論の提示または政策を提言する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、社会現象のメカニズムを高度な水準で分析・理解し研究論文を執筆する能力を獲得するために、社会学理論と社会調査法の科目および現代社会の重要な諸側面を扱う幅広い専門科目を配置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 博士論文執筆に必要となる高度な理論的及び経験的知識の修得のため専門科目を配置する。
2. 専門的研究課題を設定する能力の修得のため専門科目を配置する。
3. 高度な社会調査を自ら実施する能力の修得のため専門社会調査士科目及び関連専門科目を配置する。
4. 博士論文執筆と内外の学会での口頭報告の能力の修得のため指導教員による研究指導及び合同研究報告会を配置するとともに、関連学会での報告や学会誌への投稿を促進する。
5. 研究を政策的提言に応用する能力を高めるため学際的研究と関連学会での研究発表を促進する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を高度な水準で学問的に深め、実践の場においても発信しようとする目的意識を有する学生
2. 社会学の知識を高度な水準で修得しようとする強い意欲と、社会現象に多角的に接近する柔軟な思考力を備える学生
3. 後期課程における専門教育を受ける上で必要となる社会学の知識ならびに論理的思考力と表現力を有する学生

#### 社会福祉学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会福祉における基本的理念、高度な専門知識と実践能力、研究能力

2. 福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域について幅広い知識を修得し、福祉社会を構築するうえでの実践能力
3. 理論と実践・臨床を統合することによって、現代社会における課題解決に向けた多角的な分析能力
4. 「研究者養成プログラム」では、福祉社会をデザインし作り出す実証研究能力を身につけ、学術雑誌や国際学会等で研究成果を発信し、学術論文としてまとめる力
5. 「高度福祉専門職養成プログラム」では、福祉臨床の知識・技術を身につけ、政策立案や臨床の現場で指導的役割を果たせる実践能力と、学術論文としてまとめる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、狭義の社会福祉を超えた新しい福祉社会の実現に貢献する人材育成のために、「研究者養成プログラム」と「高度福祉専門職養成プログラム」を用意し、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. コアカリキュラムの「社会福祉研究法基礎」、「福祉政策運営管理研究法基礎」、「福祉臨床研究法基礎」を通して、社会福祉学で求められる多角的な研究法を学ぶ。
2. 「福祉政策・運営管理系科目」と「福祉臨床系科目」を通して、社会福祉学で必要とされる幅広い領域を学ぶ。
3. 「社会福祉フィールドワーク」と「援助事例分析」「社会政策・経営事例分析」を通して、理論と実践の統合を行い、現状や課題を多角的に分析する力をつける。
4. 「研究者養成プログラム」では、コアカリキュラムにより研究法を深めるとともに、英語開設科目を通して英語による研究発信の方法・技術を学ぶ。
5. 「高度福祉専門職養成プログラム」では、おもに臨床や福祉各分野・課題に関する科目を通して福祉臨床の知識・技術を実践的に学ぶ。
6. 上記のカリキュラムおよび研究指導を通して修士論文をまとめ、その審査および最終試験に備える。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会福祉学のみならず保健医療、経済学、法学、社会学、心理学など他分野を学んできた学生
2. 「高度福祉専門職養成プログラム」では福祉や保健医療等の現場で高度な専門性を發揮し、リーダーとして活躍しようとする学生
3. 本学社会福祉学科や上智社会福祉専門学校において優秀な成績を収め、さらに社会福祉の勉学を深め研究法を身につけようとする学生

#### 社会福祉学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に、自立した研究者として貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要

件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. (博士前期課程で身につけた) 社会福祉における基本的理念、高度な専門知識と実践能力、研究能力をより高め、独創的な知見を生み出すことができる力
2. 福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域についての幅広い知識をさらに深め、福祉社会を構築するうえで必要となる高度な分析能力、実証研究能力
3. 学術雑誌への投稿、国際学会等での報告において研究成果を発信・議論し、博士論文としてまとめる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、新しい福祉社会の実現に向けて国際的にも貢献できる人材育成のために、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員による研究指導のもと、国内外の先行研究レビューや調査実施等により、研究のテーマ・方法を絞り込み研究を進めていく。
2. 福祉政策・運営管理系および福祉臨床系のコース・ワークを通して、社会福祉学の研究を進めるうえで求められる多角的な視点や研究方法を学ぶ。
3. 英語開設科目を通して英語による研究の発信や議論についての方法・技術を学ぶ。
4. 上記の研究指導およびカリキュラム、さらにコースワークの研究法特殊講義を通して博士学位申請論文をまとめ、その審査および最終試験に備える。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会福祉学のみならず保健医療、経済学、法学、社会学、心理学など他分野で博士前期課程を修了した学生
2. 本専攻博士前期課程において優秀な成績を収め、さらに研究を深め社会に貢献しようとする意欲的な学生

### 看護学専攻（修士課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、人間に対するケアリングをディシプリンとして捉えるとともに、実践に生かせる研究力ならびに指導力を兼ね備えた人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究のプロセスを適切に踏み、その成果を的確な構成、論理的な展開をもって論文としてまとめる力
2. 人々の発達・健康レベルに応じた最善の健康支援をめざした実践能力と研究能力
3. 臨床現場で指導的役割を果たすことのできる実践能力
4. 学際的、総合的な視野をもって国内外で活動する力

### **[カリキュラム・ポリシー]**

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、国内外の医療健康問題の動向における重要課題に鑑み、「共生支援」のキーワードにもとづいて、良質のケアリングにかかわる発展的かつ実践的な研究を行うために、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 看護研究に関する基礎力を充実させる科目を開設する。
2. ケアリングについて考究する科目を開設する。
3. 自己が研究を通して深めたい専門看護学に関する科目を開設する。
4. 自己が研究を通して深めたい専門看護学を支持する科目を開設する。
5. 修士論文執筆とプレゼンテーション能力の修得のため1年次春学期から指導教員による演習を行い、研究計画検討会、修士論文発表会を配置する。

### **[アドミッション・ポリシー]**

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 看護の様々な現場で実践を行い、高い実践能力と職業倫理性をもつ学生。
2. 実践に役立つ看護学の研究を通じて、看護学の発展ならびに国内外の医療健康問題の解決に寄与したいという意欲を有する学生
3. 医療・看護における現象を論理的かつ客観的に分析できる柔軟な思考性をもつ学生

## **6. 法学研究科**

### **法律学専攻**

#### **[教育研究上の目的及び人材養成の目的]**

本専攻は法学・政治学の研究者の養成、並びに、この素養を身につけた社会人を送り出すことを目的とする。現代社会では、研究者は自分の専門領域に特化しているだけで足りるものでなく、社会で生起するさまざまな問題を論理的に再構成し、より高度な問題を処理できる実務能力を身につけていなければならない。社会人を積極的に受け入れ、研究者養成とともに、法学・政治学の素養を身につけた人材の養成を目指す。

### **法律学専攻（博士前期課程）**

#### **[ディプロマ・ポリシー]**

本課程では、法学・政治学研究者の養成と高度の専門的能力を有する職業人および人間性豊かな法律家を養成し、社会に送り出すために、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専攻分野に関する高度な専門知識を修得し、使いこなす能力

2. 研究課題の問題状況を正確に理解した上で、関係資料を幅広く分析し、独創性・構成力等の点で、ある程度の研究能力を示す修士論文またはリサーチペーパーを作成する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、法律学の諸分野における実定法の研究教育や基礎法・国際法・政治学・比較法などや、グローバル化や環境問題についても研究教育をおこなうよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 学部で修得した法学・政治学全般の基礎知識の深化を図り、専攻科目の研究への移行を助け、高度な法的能力および政治の分析力の涵養を目指し、また、社会人については、社会で身についた知識・経験を専攻科目と関連づけて、専門的視点および分析力の深化を目指す専門科目を置く。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 学部での法学・政治学に関する基礎的能力を有することを前提して、より専門的な研究能力を身につけ、将来専門家としての職業に就くことを希望する意欲のある学生

### 法律学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、法学・政治学研究者の養成と高度の専門的能力を有する職業人および人間性豊かな法律家を養成し、社会に送り出すために、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専攻分野に関する深い学識と高度な分析力を備え、その学識と分析力を基盤として独創的な課題を設定し、自らそれを解決・展開する能力
2. 研究課題についての学界の到達点を踏まえて、独創的な視点に基づいて高度の分析力・構成力を発揮し、専門的研究として評価しうる博士論文を作成する能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、法律学の諸分野における実定法の研究教育や基礎法・国際法・政治学・比較法などや、グローバル化や環境問題についても研究教育をおこなうよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 研究者養成を主な目的としながら、既存の法秩序や政治の枠を超えて生起する現代の諸問題の処理能力を養うことを中心に重点を置き、また、社会で生起するさまざまな問題を論理的に再構成し、より高度な問題を処理できる実務能力を涵養する専門科目を置く。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 博士前期課程での法学・政治学に関する基礎的能力を有することを前提して、より専門的な研究能力を身につけ、将来専門家としての職業に就くことを希望する意欲のある学生

## 法曹養成専攻（法科大学院）

### 〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

将来法曹（裁判官・検察官・弁護士）の専門家として活躍する人材を養成する。キリスト教的ヒューマニズム基づく人間教育を、法曹倫理、隣接科学、基礎法学科目にも充実させることで、広い視野で社会に貢献する法律家を養成することを主眼とするが、国際問題や環境法政策に対して多角的なアプローチすることにより、21世紀に必要とされる法曹を養成することも本専攻の特長とする。

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の修了要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会で幅広く活躍できる法律家（裁判官、検察官、弁護士等）としての専門的知識、思考力および技能
2. グローバルな課題、とくに本専攻の特長である国際関係法・環境法に関する課題について理解し、問題解決の方法について専門的な議論をする力
3. キリスト教ヒューマニズムを基盤とした専門家としての責任・倫理等を身につけた法律家として、社会に貢献する力
4. 専門的知識に加え、幅広い知的好奇心とそれを生かすコミュニケーション能力を備えることにより、高い実務対応能力を有する法律家として活躍する力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 教育課程の前半に法律家としての倫理教育、実務基礎教育を行い、次に本格的な実務科目を置くことにより、段階的に理論と実務の架橋を実現する。
2. 1年次から3年次までの各段階において、法律基本科目、法律実務基礎科目、展開・先端科目を、バランスよく履修することによって、法律家としての実務に必要な専門的な法知識、思考力等を修得させる。
3. 法曹倫理等の実務科目によって法律家としての責任感、倫理観を身につけ、さらに、基礎法学を含む多様な科目の履修によって人間性豊かな法律家となる素養を修得させる。
4. 充実した国際関係法・環境法関連の科目を履修することにより、これらの分野の知識を幅広く修得させる。
5. 統一された評価基準による厳格かつ公正な評価方法によって成績を評価し、修了生の学力につき一定以上の質を維持・担保する。

### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 「法務博士」取得後に、法律家として、社会に貢献する明確なヴィジョンと意欲のある学生
2. 「他者のために、他者とともに」(Men and Women for Others with Others) という本学の教育理念を理解し、キリスト教ヒューマニズムを基礎に持った法律家として社会に貢献できる学生
3. 上智の校章、校歌にもある「Lux Veritatis (真理の光)」の理念、要請に応じられる、勢いにおもねない、物事の本質を見極めることができる智を備えた真の法律家になる意思と素養を持った学生

## 7. 経済学研究科

### 〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

経済学・経営学に関する深い学識を基礎に、実際的な応用能力を有する 職業専門家、深い洞察力を備えた高い水準の研究者を育成する。前期課程修了者には、専門知識を活かして、研究やコンサルティングに従事したり、企業実務の第一線で活躍する高度専門職業人となることが期待される。後期課程修了者には、学術・研究機関において教育・研究に従事することが期待される。

### 経済学専攻（博士前期課程）

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済を、理論的、実証的、歴史的に分析する力
2. 現代社会が直面する事象や問題について経済学の知識を活用し論理的に思考する力
3. データ処理・分析を通じてデータに潜む情報を表現する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、1年次のコースワークで経済学の理論や分析手法を修得し、2年次では指導・審査グループの助言のもとでテーマを設定し学位論文を作成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1年次コースワークでは、基礎科目である「ミクロ経済学特講 I」「マクロ経済学特講 I」「計量経済学特講 I」および、「論文演習 I（基礎）」を必修科目とし、選択科目では各自の研究関心に応じて応用経済学の科目を開設する。
2. 「ミクロ経済学特講 I」「マクロ経済学特講 I」では、経済学の理論や分析手法を学び、「計量経済学特講 I」では、数量的分析手法を修得する。また、「論文演習 I（基礎）」や「選択科目」では、最新の研

究動向を参考にしながら、現代社会が直面する事象や課題をどのような経済学的視点から分析できるのかを学ばせる。

3. 2年次では、論文テーマの設定や考察・分析枠組みの選択等について、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループにより学位論文作成を指導する。

4. 学位論文審査では、研究課題を経済学の適切な枠組みにより分析し、学術的な位置づけを明確にしながら論理的に記述できているかを問う。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会の事象や問題について、経済学の視点から考察・分析することに关心をもっている学生
2. ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学について学部卒業レベルの基本的な知識を修得している学生
3. 学部卒業レベルの基礎的な英語力を有している学生
4. 社会人としての経験を通じて経済の事象や問題への深い関心をもち、経済学の分析手法を修得してキャリア形成等に役立てる意欲を持つ学生

#### 経済学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自ら選んだ専攻分野で専門家としての能力を深め、高める能力
2. 学術性の高い研究課題を設定し、経済学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
3. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、コースワークで経済学の高度な理論や分析手法を修得し、「研究指導」により博士論文作成の指導を受け、学内セミナーでの研究報告により学位論文の完成度を高めるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 「研究指導」を必修科目とし、博士論文のテーマ設定や分析手法の選択等について指導を行う。
2. コースワークとして理論経済学、応用経済学、経済統計の分野の科目を選択必修科目として開講する。
3. 学内セミナーで研究報告し、指導教員をはじめ他の教員からも助言を受け、論文の完成度を高める。
4. 研究成果の一部が査読付き専門雑誌へ掲載されるように指導を行う。
5. 学位論文審査では、独自の学術的価値を有するか、自立した研究者として研究遂行能力があるか等を問う。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めてています。

1. 経済学の研究・教育や経済学を応用した調査・予測等の業務に従事する意欲を持つ学生
2. 博士前期課程レベルの経済学の学問知識を修得している学生

### 経営学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された少なくとも一つの専門分野を深く理解する力
2. 本学の精神に基づき、世界の人々の生活向上や世界の企業のさらなる繁栄に寄与する独創的、先進的研究を行う力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本学の精神を基礎として個々人の能力に沿い、個性を活かした成長を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の各分野における標準的科目を配置する。
2. 少人数クラスにおいて、履修している学生の研究テーマや理解度を勘案しながら講義する。
3. 基礎と応用のバランス講義内容は、理論構築の基礎となる調査研究方法論（統計や社会調査技法）から、基礎的理論、現実の経営現象への応用まで広範囲にわたり、基礎と応用のバランスを考慮する。
4. 伝統的・標準的な文献講読タイプだけでなく、現実の事例に基づくケース・ディスカッション、データ分析の実習など多様な講義形式を科目特性や講義内容に応じて開設する。
5. 論文テーマの設定、その分析枠組みの選択、分析・考察および論文作成の各段階において、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループが指導する。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つについて学部卒業レベルの基本的な知識を修得している学生
2. 学部卒業レベルの基礎的な英語力を有している学生
3. 社会人として企業での実務経験を有し、それを背景とした研究計画と勉学意欲を持つ学生

## 経営学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 学術性の高い研究課題を設定し、経営学、マーケティング論、会計学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
2. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された研究課題に対する知見の深まりとその分析能力の高度化を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員による研究指導を通じて、理論を基礎とする現象分析や理論の現実への応用を可能とする高度な研究能力を涵養する。
2. 会計学、マーケティング論、経営学の分野の科目を開設する。
3. 国内あるいは海外の学会での発表、国内外の学術雑誌への論文投稿を推奨する。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つについて博士前期課程レベルの知識を修得している学生
2. 研究課題を適切な枠組みを用いて分析し、学術的な位置づけを明確にしながら論理的に記述できる学生

## 8. 言語科学研究科

### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

一般言語学及び個別言語学に関して国際的視野で独創的研究を行える研究者を養成する。基礎理論と応用分野からなる。また言語聴覚障害学の研究者を育成し、希望者には言語聴覚士の国家試験受験資格を取得させる。また日本において外国語として英語を教える教師を、英語による授業によって育成する。

## 言語学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を探求することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 幅広い言語学の分野から自らの専門領域を確立させるため、初年度より各々の分野で所定の科目履修をすることにより得た、言語研究の現状理解と方法論
2. 解決すべき問題を研究課題という適切な形式で問う力
3. 問題解決のために最も適切なデータ収集、および分析を行い、意味のある解を見つけ出す力
4. 言語学の基礎概念と方法論を広い視野に立って身につけ、学究的な思考方法を学び、特定の専門領域を究明する力
5. 結果の意味づけができ、専門性を活かして社会に貢献する力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています

1. 専門の如何にかかわらず言語に関する基礎的な知識を修得する。そのために各コースにおいては以下の科目を必修科目と指定しており、できる限り1年目で履修させる。1) 言語学一般—音声学・音韻論基礎、統辞論基礎、2) 言語聴覚研究—言語聴覚障害学特論、言語聴覚障害研究法B（実験計画法）、言語聴覚障害研究法D（文献講読）、3) 英語教授法—Introduction to TEFL in Japan、Second Language Acquisition、Introduction to Linguistics、4) 日本語教育学—日本語教育文法I、第二言語習得I、言語・文化・社会、日本語教授法概論。
2. 英語、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、ロシア語、ポルトガル語の6学科に合致させた形で各言語に関する音声、音韻、統辞法、意味、文体、歴史に関する科目を開設する。
3. 上記の必修科目および他選択科目を履修することにより、各コースにおいて専門的なテーマを追求するために必須となる理論的知識、理論を応用する能力、問題解決能力、批判的思考能力、適切なデータを収集分析解釈する能力、個々のデータから一般化し理論を構築する能力を修得させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 言語に関する次のいずれかの分野に学術的な関心をもっている学生。理論言語学、個別言語学（英語、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、ロシア語、ポルトガル語、日本語）、応用言語学、言語聴覚障害学、英語教授法、日本語教育学。言語聴覚障害学専攻希望の場合には言語聴覚士の国家試験受験資格取得を目標としてもよい。
2. 当該専門分野における学識および教養を高める意思があり、独自の研究成果を挙げ、社会に還元する意思をもっている学生

3. 理論言語学、個別言語学、応用言語学、英語教授法を専攻する学生は修士論文を外国語（日本語教育学では外国人学生の場合、外国語としての日本語）で作成することが要請されるので、この要件で修士論文を完成するに足る外国語能力を有している学生

### 言語学専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を深くかつ広く探求することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程で身につけた専門領域での方法論と知識をもとに、オリジナリティのある研究を行い論文にまとめる力
2. 独力で高度の研究を遂行することができる学究的能力
3. 言語学および関連諸科学に関する高度に専門的な理論および方法論に熟達した自立した研究者として、国際的なレベルで認められるような学術論文を完成させる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 音声学・音韻論を含む理論言語学、言語聴覚障害学、応用言語学のうちから特定のテーマを選び、それについて特定の教授の個別面談に基づいた論文指導を受けさせる。
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行わせる。
3. 入学後2年次に資格試験を受け合格し、さらに2編の論文を査読付きの学術雑誌に掲載することを必須とする。
4. 主として指導教員から研究指導を受け、必要とされた言語学専攻で開設されている科目を履修させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 博士前期課程での研究にもとづき、博士論文として研究する方向性を明確に有している学生
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行う学生
3. 学会発表や学術雑誌に投稿し、自力で研究を遂行する実力を身につけ、在学期間に学位取得を志している学生。学会発表や学術雑誌に投稿し、言語運用能力も含め自力で研究を遂行する実力を身につけている学生

## 9. グローバル・スタディーズ研究科

### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

国際関係の諸問題を多角的に研究する国際関係論、アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ地域等の内在的な理解を重視する地域研究、グローバル・イシューに多面的にアプローチするグローバル社会専攻、「国際協力」に関して高度で包括的な理解を深める国際協力学専攻のそれぞれの方法論を活かし、グローバル化する現代世界を総合的に理解することのできる専門研究者および高度専門職業人を育成します。

### 国際関係論専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、世界平和と世界正義問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由な国際社会を築けるような問題関心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できるような研究者や専門家を養成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 安全保障・紛争、貧困・開発、移民・難民、国際協力の在り方など国際社会が直面する諸問題に関する問題意識が明確かつテーマ設定が適切で、国際関係論およびその関連領域の知識の向上に寄与する力
2. 国際関係論およびその関連領域の知識を理解し、現代の国際関係の事象またはグローバル・イシューを鋭利な問題意識と批判的精神で分析し、問題解決に向けて提言する力
3. 地球環境・国際社会について幅広い問題関心を持ち、国際関係の理解に、国際政治学、国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論といった学際的な視点と、国家や社会や地域に関する比較の視点からアプローチする力
4. 先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力のある学術論文を書く力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的とした二つの科目群により、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 本課程では、学際的視点と比較の視点を修得すべく、国際政治・比較政治系と国際社会・国際協力系の履修群を二本柱とし、各群から一定の単位を修得し、国際関係論を体系的かつ幅広く研究することを目指している。
2. 国際政治・比較政治系では、国際関係論、国際政治学、比較政治学、平和研究、安全保障など国民国家の安全保障に関する研究を行う。国際社会・国際協力系では国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論など国民国家の枠を超えて、人の安全保障に関する研究を行う。
3. 国際関係論の理論や先行研究理解を踏まえ、独自の問題関心にしたがい、国際社会が直面する諸問題に関する問題意識が明確かつテーマ設定が適切で、国際関係論およびその関連領域の知識の向上に寄与できるような修士論文の作成に取り組ませる。

4. 修士課程での研究の発展を促すために、1人の学生を主指導教員と副指導教員の複数指導体制によって研究指導を行う。複数の教員の指導によって幅広い知識と視野を得て、学生が独自の研究を円滑に進めることが出来る指導体制とする。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めてています。

1. 地球環境の保全と人々の安全を実現しようとする確固たる研究関心、ならびにグローバルな貢献への強い意志を持つ学生
2. 国際関係の諸問題を多角的に研究することを目標とし、そのための研究能力が十分にあると認められる学生
3. 明確な問題意識・テーマ設定を持ち、自主的に国際関係論およびその関連領域の研究を持続し発展させられる意見と能力を持つ学生

#### 国際関係論専攻（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、世界における平和と正義の問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由なグローバル社会を築けるような問題関心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できるような研究者や専門家を養成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 問題意識が明確で、テーマ設定が適切であり、対象分野に関する新しい知見の発見、ないしは既存の知見に対する新しい解釈が提示する力
2. 自ら選んだ専攻分野における独創的かつ先端的な研究であり、自立的研究者として研究を遂行することができる能力
3. 論文の主要部分が学術雑誌などに出版、あるいは提出されている能力
4. 専門領域での方法論と先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力とオリジナリティのある学術論文を書く力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、個別研究の独創性と学術的貢献についての認識を深め、学術上の研究成果をあげるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員と作成した独自のカリキュラムによって研究を進め、学会での発表や学術誌への投稿を行う。そのことで専門的な知識をえるだけでなく、高度な独創性をもった独自の研究を深めていく。
2. 本課程では、学際的な研究を遂行できるように複数の専門領域を学ぶことを学生に期待しており、博士論文の第一段階は、国際関係論で開設されている二科目を選択して受験する「博士論文資格試験」に合格することにより、この試験を経ることによって、複数の専門科目に関する幅広い知識と視野を得ること

とを目指す。

3. 博士論文の第二段階は、「博士論文計画書」を作成する。指導教員の指導によって独自に計画書の作成を進め学会での報告や学会誌への投稿を行うが、それらの研究成果に基づく具体的で体系的な博士論文の執筆計画を提出し審査される。「博士論文計画書」によって、博士論文作成は最終執筆の段階に至る。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会、グローバル政治、グローバル経済の諸問題の研究をとおして、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できると期待しうる研究能力と学識を持つ学生
2. 1をもとに優秀な博士論文を執筆し、博士号を取得することを志す学生
3. 学会などで研究発表を行い学術誌、学会誌に論文を投稿し、自らの研究だけでなくその領域においてリーダーシップが發揮できる学生

#### 地域研究専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、現場の視点を重視した地域立脚型のアプローチに基づき、歴史的文化的背景に配慮しながら、グローバル・イシューの原点解明と解決をめざすフィールド・ワーカー養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパの各地域の言語を用い、フィールド・ワークに基づいた方法論を確立する力
2. 国単位ではない地域社会からの発想、及び複数の学問による共同研究によって既存の学問ではとらえきれない問題へ挑み、分析・理解する力
3. グローバルな諸現象の解明に地域の視点とアプローチから学術的・社会的に貢献し、次世代地域研究者としてグローバルな市民社会とローカルな多様性を支える力
4. 明確な問題意識をもち、十分な先行研究を行った上で、的確な論文構成と整合性のある論旨展開を備えた修士論文を仕上げる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーの実現を目的として、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修の基礎科目により、地域研究の基礎と多様で総合的な方法と地域立脚型の視点を修得させる。
2. 地域間比較科目により、研究対象とする地域及び主として用いる方法論の相対化を促し、また比較の視野を培うことによって個別研究の学術的貢献について客観的に把握する力をつける。
3. 地域研究専門科目により、研究対象に適切な方法論及び専攻研究成果を踏まえた、整合性のある論理展開が出来るように訓練する。

### **[アドミッション・ポリシー]**

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパなど諸地域における個別的な諸現象・問題ならびにグローバルな諸問題を理解するために必要な基本的な文献を理解するための言語能力を有する学生
2. 社会的・学問的な探求心と向上心を持ち、特定の課題に対して論理的思考を重ねた論述ができ、かつ主体的に取り組む姿勢を有する学生
3. グローバルな市民社会と、ローカルな多様性を支えるために、実践的に社会に貢献できる専門家となることを志向する学生

### **地域研究専攻（博士後期課程）**

#### **[ディプロマ・ポリシー]**

本課程では、研究課題解明のための適切且つ独創的な地域へのアプローチと方法論に基づき、関連学問分野の発展に貢献する地域研究の高度な学術水準を満たすことを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 今日的課題解決のための適切なアプローチを、学問上の貢献と合わせて開発・確立し、さらに研究課題の解明に必要十分な言語能力を運用したうえで、フィールド・ワークを遂行し独自の資料入手と分析をする力
2. 将来の学際的な共同研究も視野に入れた、研究課題の設定及び学術的貢献の可能性を洞察する力
3. 博士前期課程で身に着けた方法論や知識をもとに、自らの専門領域を深めるべく研究を進め、独自性があり、学術的社会的貢献が期待できる博士論文を仕上げる力

#### **[カリキュラム・ポリシー]**

本課程では、ディプロマ・ポリシーの実現を目的として、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フィールド・ワークによる独創的な資料入手及びアプローチの開発を促すために、指導教員との個別論文指導を行う。
2. 指導教員及び専攻内で開設されている科目への積極的な参加を通じて、他分野、他地域の学生と幅広く議論する。
3. 博士論文提出資格試験により、言語能力、論理的思考も含めた学術水準の到達度を審査する。
4. 博士論文提出資格試験に合格したのち、博士論文計画書審査と博士論文計画セミナーの実施を経て博士論文完成へと導く

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めてています。

1. 論理的思考に基づいた研究課題に取り組んだ実績がある学生
2. 研究課題解明に必要十分な資料入手と分析に必要不可欠な言語能力を有する学生
3. 地域社会及び社会への貢献を、学問分野と実践の上から志向する学生

### グローバル社会専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的知識、世界に通用する文化的対応能力
2. 修士論文およびグラデュエーション・プロジェクトは、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、研究テーマの設定が明確に示され、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. グローバル社会研究領域では、グローバルな諸事象の研究のための基本的な概念や方法論
4. 国際経営開発領域では、特に日本とアジアに着目し、現代社会でのグローバルなビジネスおよび開発における多様な問題に対応するための分析をする力
5. 比較日本研究領域では、日本の歴史、文学、宗教、美術史、社会、文化について、総合的、学際的に理解する力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 多国籍・多文化な社会において、英語または他の言語により活躍できる人材を育成する。
2. グローバル社会研究領域では、国際的な組織、政府、NGO、マスメディア、教育機関その他の組織に十分に参画し、指導的な役割を果たす能力を身に付けさせる。
3. 国際経営開発学領域では、先進国・発展途上国の経済状況を深く理解し、国際的な組織・政府・ビジネスで必要な専門的な経営管理能力を身に付けさせる。
4. 比較日本研究領域では、教育機関その他の日本に関する専門的な知識を必要とする組織において、必要な日本語力と学術的知識を修得させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会研究領域では、卓越した英語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

2. 国際経営開発学領域では、卓越した英語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生
3. 比較日本研究領域では、卓越した英語力及び日本語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

## グローバル社会専攻（博士後期課程）

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 高度専門職にふさわしい専門知識
2. 博士論文は、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、独創性、独自性のある研究テーマの設定が明確に示され、深く、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. グローバル社会研究領域では、関連する基本的な概念に精通し、方法論を用いて達成された、グローバル社会研究領域における独創的な貢献をする力
4. 比較日本研究領域では、博士学位は、関連する基本的な概念に精通し、方法論を用いて達成された、比較日本研究領域における独創的な貢献をする力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 特定の領域で深い専門知識を修得し、かつ国際的なキャリアに必要な文化的対応能力を備える者を育成する。
2. グローバル社会研究領域では、高等教育機関における教育研究職や、グローバルな諸事象に対する専門的な理解と分析を必要とする組織での職務に就くに十分な、グローバル社会研究領域に対する理論と方法の専門的知識を身に付けさせる。
3. 比較日本研究領域では、日本研究領域の特定分野において高等教育機関における教育研究職に就くに十分な専門性を身につけ、また、自らの専門分野において高度・革新的なレベルの研究を続けてゆく能力を身に付けさせる。

### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会研究領域では、グローバル社会研究領域において、基本的な概念、方法論、重要な領域について既に高度な知識を修得している学生

2. 比較日本研究領域では、比較日本研究領域において、基本的な概念、方法論、重要な領域について既に高度な知識を修得している学生

## 国際協力学専攻（博士前期課程）

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本専攻では、一国の枠組みを超えた様々な「グローバルな課題」に対処し、国際社会の連帶を必要とする平和協力や平和構築、持続可能な経済や社会の開発、教育開発などの分野で、幅広い知見と実践力を兼ね備えた「グローバル人材」を育成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。この修了要件を満たし、論文ないし研究課題審査に合格すれば、これらを身につけたものとみなし、学位を授与します。

1. 国際社会が必要とする国際協力の分野に関し、国際協力の理念、概念、理論を整理、理解し、さらに国際協力の方法論や国際協力を推進する国際機関、政府機関、NGO、民間セクターなどの役割と機能を学び、その上に立って国際協力に従事する上でのスキルと実践力を持つ。
2. 平和協力・平和構築や持続可能な開発/社会・教育開発の各分野で、国際社会のこれまでの取り組みや現状の状況に関する深い知見を持ち、様々な課題解決のために実践的かつ実現可能な政策や方策を見出す力を持つ。
3. 国際協力を推進する上で関連する国際関係論や国際社会学、国際経済学、統計学、教育開発、文化社会、地域研究など幅広い学識分野と連携させながら国際協力を考え、批判的および論理的議論の展開力、実践的コミュニケーション能力を有する。
4. 先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力のある学術論文もしくは研究課題を書く力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本専攻では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「平和協力・平和構築研究」と「持続可能な開発/社会・教育開発研究」の二つの専門領域を柱とし、基礎科目（A群）と海外実習科目（B群）から成る中核科目群と、応用科目（C群）、応用実務科目（D群）、連携科目（E群）から成る専門科目群の2つの大科目群と5つの小科目群の中に、その二つの専門領域の科目をバランス良く配置します。それぞれの専門領域に応じて、中核科目群の基礎科目（A群）で得た幅広い知識をベースに、海外実習科目（B群）で海外の現場で国際協力に従事する上でのスキルと実践力を学び、専門科目群の応用科目（C群）や応用実務科目（D群）、連携科目（E群）を通じて、各専門領域の分析、論理構成、知見をさらに深め、専門性と実践力を高めるカリキュラムを編成しています。

1. 基礎科目（A群）では、二つの専門領域の基礎となる科目を配置し、幅広い領域を扱う国際連合や関連した専門的国際機関の役割や機能を学び、さらに国際協力に関する基礎科目や研究の基礎となる調査方法論、スキルの向上、国際公務員制度、コミュニケーション論などに関する科目を配置することにより、国際協力に関する基礎知識を修得させるとともに、思考力、論理的議論の展開力、実践的コミュニケーション力の基礎を養います。

2. 海外実習科目（B群）では、国連機関の本部が集中するニューヨークやジュネーブ、バンコクなどを拠点として、修了後の国際キャリアを目指す上で貴重な実体験を提供することにより、実務型の知識とスキルや実践力を向上させます。

3. 応用科目（C群）および応用実務科目（D群）では、各領域の知識を広め、分析力や思考力および議論の展開力を高め、専門性を深めるための科目を配置します。平和協力・平和構築領域では、国際連合などによる平和協力だけではなく、地域機関やサブ地域機関、専門的国際機関、国際NGO、民間セクターとの連携や主要国の外交が与える影響、人間の安全保障への貢献などの理解を深めます。持続可能な開発では、国連開発計画（UNDP）など開発系の国際機関や世界銀行やアジア開発銀行など国際開発金融機関の役割、政府による開発援助、私企業を含む民間セクターの直接投資、環境やジェンダーに即した開発論など、より実践的な科目を中心とします。社会・教育開発では、人口や人の移動と開発の関係や地域社会の役割、環境と開発のバランス、公教育における教育の公平性や質の向上だけでなく、学校外のノンフォーマルな教育開発にも寄与する要件を学ぶ機会を提供します。

4. 連携科目（E群）には、国際政治や国際政治経済の理論から国際開発協力における地域の特性や地域的開発アプローチの研究、海洋法やジェンダー論など多様な科目を配置し、二つの専門領域に関する学識分野についての幅広い知見を強化する役割を果たします。必要に応じて、他の研究科、専攻の科目を履修できるように設計し、専門領域の知見と分析力や思考力および議論の展開力をさらに高める機会を提供します。

#### [アドミッション・ポリシー]

1. 国際社会の政治的、経済的、社会的動きをよく理解し、グローバルな課題に対する国際社会の対応を国際システム、国家、地域社会レベルから分析する能力を持ち、国際協力に貢献する強い意思を持つ学生

2. 高い学問的探求心を持ち、同時に政策実現のための分析力、論理的思考力、表現力を備え、国際社会で通用する卓越した英語力とコミュニケーション能力を持つ学生

3. 国際協力分野での明確なキャリア志向やそれを実現するだけの能力に関し、過去の指導教員や職業上の上司にあたる人を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

#### 10. 理工学研究科

#### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性とを併せ持つ、特色ある研究科を目指す。前期課程では学部教育との一貫性に配慮しながら、複合知と専門性を兼ね備えた知的能力を持ち、人間社会に貢献できる知的人材を育成する。後期課程では各専門分野で自立して研究を遂行できる研究者の養成を目的とする。

## 理工学専攻（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性をもち、人間社会に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 理工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓ができる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で、学術的価値を有する修士論文にまとめる能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、伝統的学問体系に応じた「領域」ごとのカリキュラム体制をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自領域以外の領域、、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
  2. 自領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。
- また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。
  4. 「領域」として、次の9領域を設けている。機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性を併せ持つ学生
2. このような理念に共感し、それを達成するための基礎学力と研究意欲をもち、専門性と複合知を高めることを希求している学生

## 理工学専攻（博士後期課程）

### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性をもち、各専門分野で自立して研究・開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 理工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野を中心に、高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる学術的価値の高い博士論文にまとめる能力

### 〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、指導教員による日々の研究指導に加えて、週1回以上の専門分野に関する英語の輪講・演習を設け、国際的に活躍できる高度な専門能力を養成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 各領域における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。
2. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
3. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
4. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。
5. 「領域」として、次の9領域を設け、専門性にも配慮したカリキュラム構成としている。機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域。

### 〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性を併せ持つ学生
2. このような理念に共感するとともに各専門分野で自立して研究を行う能力の養成を目指す学生

## 機械工学領域（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、機械工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 機械工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野および関連する分野の先行研究を十分にふまえ、オリジナリティのある自分の研究を通して、学術的に構成された論文を執筆できる力

### [カリキュラム・ポリシー]

機械工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、機械工学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 機械工学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 機械工学領域が提供する材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。また、それらを基礎とした特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目的受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 機械工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 機械工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学などに関する基礎学力を有している学生

## 機械工学領域（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、機械工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけ

るべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 機械工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 高度な専門知識を活かして自立して独創的な研究を行い、国際的なレベルの学術論文を執筆し、学術に貢献できる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

機械工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、こられにより英語力を積極的に向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 機械工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 機械工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

### 電気・電子工学領域（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 電気・電子工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術

の開発や新分野の開拓をできる力

3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野に関する研究内容を中心として、論理構成に一貫性があり、学術的価値の高い修士論文をまとめ上げる力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、電気・電子工学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 電気・電子工学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
  2. 電気・電子工学領域が提供する半導体、電力、情報通信などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。
- また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 電気・電子工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 電気・電子工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な電磁気学、電気電子回路論、物理学、数学などに関する基礎学力を有している学生

#### 電気・電子工学領域（博士後期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、電気・電子工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 電気・電子工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 原著論文等により学会で認められた専門性の高い研究内容を中心とした幅広い内容について、オリジナリティの高い論理構成に基づき、学術的価値の極めて高い博士論文をまとめ上げる力

### [カリキュラム・ポリシー]

電気・電子工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、こられにより英語力を積極的に向上させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 電気・電子工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 電気・電子工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

## 応用化学領域（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、応用化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより修得される、化学技術や化学物質が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 応用化学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識、及び、持続可能な人類の発展に資する新しい化学製品・化学技術の開発や新しい化学工業分野の開拓ができる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 研究論文や研究発表において、自分の研究を論理的かつ適切・明快な表現を用いて公表する力

### [カリキュラム・ポリシー]

応用化学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、応用化学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 応用化学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 応用化学領域が提供する有機合成化学、高分子化学、無機工業化学、工業物理化学および環境化学工

学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目的受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 応用化学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 応用化学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な物理化学、無機化学、有機化学などに関する基礎学力を有している学生

#### 応用化学領域（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、応用化学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことによって修得される、化学技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 応用化学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識、及び、持続可能な人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 専門性が高く独創性のある研究を自ら行い、研究成果を広く社会に発信するとともに、学術的意義の高い博士論文を完成させる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

応用化学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらにより英語力を積極的に向上させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めてています。

1. 応用化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 応用化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

### 化学領域（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより修得される、基礎科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 化学および伝統的学問体系に応じた関連分野（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、環境科学）において最先端で活躍できる専門知識、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 研究論文や研究発表において、自分の研究を論理的かつ適切・明快な表現を用いて公表する力

#### [カリキュラム・ポリシー]

化学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、化学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 化学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 化学領域が提供する物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、錯体化学、環境科学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。  
また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 化学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 化学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な物理化学、無機化学、有機化学などに関する基礎学力を有している学生

## 化学領域（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、化学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことによって修得される、自然科学における基礎科学が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 化学および伝統的学問体系に応じた関連分野（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、環境科学）において最先端で自立的に活躍できる専門知識、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 専門性が高く独創性のある研究を自ら行い、研究成果を広く社会に発信するとともに、学術的意義の高い博士論文を完成させる力

### [カリキュラム・ポリシー]

化学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、こられにより英語力を積極的に向上させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

## 数学領域（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、数学の発展とその応用に寄与し、その専門知識を社会や次世代に伝えることで人間社会の

発展に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 数学の基礎知識に加え、それ以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、数学の基礎およびその社会への応用について多面的にとらえる力
2. 数学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、真理の探究・理論の発展およびそれを広く社会や次世代に伝えることのできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 数学に関する専門的な知識の理解と独創的な発想を持つ研究者として、学術論文を完成させる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

高度に発展した数学の理解と新たな真理の探究のため、体系的に専門的知識を学び、自ら思考して新しい数学的知見を創造し、数学の研究とは何かを学ぶとともに、それを広く社会や次世代に伝えて人間社会の発展に貢献できる力を涵養するため、数学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 数学領域の科目的受講を通じて基礎的知識を得るとともに、他領域および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野についても広く知識を得させる。
2. 数学領域が提供する解析学・代数学・幾何学・数理統計などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目的受講、英語文献の講読、英語による学術講演の聴講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 数学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 数学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な数学の基礎分野および解析学・代数学・幾何学などのうち自らの専門とする分野などに関する基礎学力を有している学生

#### 数学領域（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、数学の発展とその応用に寄与する高度な専門性を身につけ、社会や次世代に伝えるとともに、その及ぼす影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、数学とその応用が社会に及ぼす影響を多面的にとらえる力
2. 数学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけて創造的な研究を行う

- とともに、それを広く社会や次世代に伝えて人類の発展や幸福に寄与できる力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
  4. 数学に関する専門的な知識の理解と独創的な発想を持つ研究者として、学術論文を完成させる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

数学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野を中心には数学の基礎的な学術論文や解説書などを精読することに加え、学際分野を含むその他の分野との関連・応用についても広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらにより英語力を積極的に向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 数学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 数学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

### 物理学領域（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、物理学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 物理学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新分野の開拓や新技術の開発ができる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 先行研究を踏まえ研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で理論やデータを扱い、緻密に結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、修士論文を作成できる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

物理学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するた

め、物理学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 物理学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。

2. 物理学領域が提供する物性物理、光物性、原子・分子などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目的受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 物理学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生

2. 物理学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な基礎数学、電磁気学、熱統計物理学、量子力学、化学物理などに関する基礎学力を有している学生

#### 物理学領域（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、物理学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、科学が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力

2. 物理学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力

3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

4. 先行研究を踏まえ研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で理論やデータを扱い、緻密に結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、博士論文を作成できる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

物理学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。

2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺につ

いて深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。

3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、こられにより英語力を積極的に向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 物理学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 物理学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

#### 生物科学領域（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、多彩な生物現象を広く理解し、生物科学の進歩に寄与する専門性と、学際的研究分野への応用可能な知識を持ち、人間社会に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 学際分野も含めた自分の専門分野以外の自然科学分野、あるいは生命倫理などの問題を広範に学ぶことにより、人間社会への貢献や生物環境の保全などを多面的にとらえる力
2. 大学院生はさまざまな研究技術を修得し、専門分野を深く掘り下げるとともに、多様な講義を受けることにより、生命という未知の分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 適切な構成、明快な研究結果と評価、理論的で説得力のある学術論文を書くことができる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

生物科学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や生物環境の保全に貢献できる力を滋養するため、生物科学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 理工共通領域の科目、および生物科学領域以外の専門領域の科目を受講することにより、自然科学一般の基礎知識を得させる。
2. 生物科学領域が提供する分子、細胞、個体レベルの科目を受講し、生命に関する最先端の専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、英語論文の熟読や輪読などにより、英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 生物の形やその仕組みに興味を持ち、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 生物科学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な基礎学力を有している学生

### 生物科学領域（博士後期課程）

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、生物科学における高度な研究能力と幅広く応用可能な専門知識を兼ね備え、生物科学の基礎研究を力強く推進できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、他の自然科学分野あるいは生命倫理などの学際分野も含め広範に学ぶことにより、バランスのとれた知識
2. 自分の研究分野において自立的に活躍できる最先端の専門知識を身につけるとともに、生命科学の発展に寄与する創造的な研究を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 学会発表や、国際誌への論文への投稿・採択を経て、専門分野に貢献できる高い水準と独創性を備えた博士論文の完成させる力

#### 〔カリキュラム・ポリシー〕

生物科学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる能力をえるため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野に精通するだけでなく、学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、生命科学の分野において広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して精力的に研究を遂行し、研究の技術の修得、論文の掲載などを行ない、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行う。これにより英語力を積極的に向上させる。

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 生物科学分野にて、自立して創造的な研究を遂行することに意欲的である学生
2. 生物科学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

## 情報学領域（博士前期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、情報学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 情報学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓ができる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 専門分野に関する研究内容について、その研究成果を学術論文としてまとめる力

### [カリキュラム・ポリシー]

情報学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、情報学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 情報学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 情報学領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 情報学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 情報学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な情報学、数学などに関する基礎学力を有している学生

## 情報学領域（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、情報学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 情報学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 専門分野に関する高度な研究内容について、その研究成果を広く発信し、学術的価値の高い学術論文としてまとめる力

#### [カリキュラム・ポリシー]

情報学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、こられにより英語力を積極的に向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 情報学分野において自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 情報学分野において自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

### グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、地球環境科学、工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 地球環境科学、工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓ができる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力と地域及び社会とのつながり

を理解する能力

4. 先行研究を踏まえて、自身の研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で研究結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、修士論文を作成できる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

地球環境科学、工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
  2. グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。
- また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 受講する授業はすべて英語で行われ、研究成果の発表、論文の執筆などにより、科学における英語力を向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 地球環境科学、工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 地球環境科学、工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な科学、工学全般に関する基礎学力を有している学生

### グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士後期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本領域では、地球環境科学、工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 地球環境科学、工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの研究力とコミュニケーションスキル

4. 先行研究を踏まえて、自身の研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で研究結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、博士論文を作成できる能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

地球環境科学、工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 地球環境科学、工学分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 地球環境科学、工学分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらによりコミュニケーションスキルを積極的に向上させる。

#### [アドミッション・ポリシー]

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 地球環境科学、工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 地球環境科学、工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

### 1.1. 地球環境学研究科

#### [教育研究上の目的及び人材養成の目的]

地球環境問題の解決にむけ、高い使命感をもち、社会科学と自然科学の知識を総合し、理論と実践を結び付ける優れた知力・学力を有する人材の育成を目指す。前期課程においては、高度専門的な職業を担う人材と知的素養に優れた人材を、後期課程においては、国際的な水準の地球環境学の教育・研究を目指す人材を養成する。

#### 地球環境学専攻（博士前期課程）

#### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、地球環境問題や環境学の専門家として、環境関連の社会科学と自然科学についての幅広い専門知識と様々な理論と実践を体得し、持続可能な社会の実現に貢献できると見なされる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身についたものと認め、学位を授与します。

1. 地球環境問題や環境学についての幅広い専門的知見
2. 地球環境問題や環境学についての幅広い実践的知識

3. 地球環境問題や環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによる適切な研究方法及び分析手法を提案できる力。また、自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信する力
4. 前項を実現する方法として、論文作成において的確な論文構成と明快な論理展開ができる能力
5. グローバルな視点と対応能力

#### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、地球環境問題や環境学に関する、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に体得するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地球環境問題や環境学が提起する課題が常に自然科学的側面と人文・社会科学的側面をもっていることを踏まえた文理融合型の広範かつコンパクトな見通しの良いカリキュラムとするため、環境法律・政策・社会学、環境経済・経営、環境理工の3つの科目群をバランスよく配置する。
2. 問題を適切に認識するための知的枠組み（ディシプリン）の修得と同時に、問題を解決するための実践的あるいは実務的知識をバランスよく身に付けることが可能なカリキュラムとするため、講義科目や演習・セミナー科目等において、最先端の取り組みや現場における知見を学ぶことができる機会を積極的に取り入れる。
3. 本学の教育の特色である小人数教育による教員と学生の多彩なコミュニケーションが可能なきめ細かな教育が可能なカリキュラムとするため、講義科目や演習・セミナー科目等において、研究・分析方法の修得や発表・意見交換を行う機会を取り入れる。また、修士論文執筆と口頭報告の能力の修得のため、第4学期目の始めに論文構想発表会を配置する。
4. 地球環境問題の解決のための国際協力の必要性が高まる中で、積極的に留学生を受け入れ、国際的に活躍する人材を育成するために、英語のみを用いた講義と指導によるカリキュラムの英語コースを設置するとともに、日本語コースと英語コースの講義科目の枠を越えた相互乗り入れを可能とし、演習・セミナー科目等において様々な国籍の学生が交流しつつ学ぶことができる機会を積極的に提供する。また、社会人が学びやすいように、夜間、土曜日に講義科目を配置し、働きながら必要な単位を履修できるように配慮を行う。

#### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、今日の緊急的課題である地球温暖化問題をはじめとする、多くの環境問題についての効率的で効果的な解決に向け、高い使命感をもち、社会科学と自然科学の知識を総合し、理論と実践を結びつけるすぐれた知力・学力を有する人材の育成を目指しています。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めていきます。

1. 深刻化しグローバル化する環境問題に強い関心をもっている学生
2. 社会科学、自然科学、あるいは人文科学に対する基礎的な学力をもっている学生
3. 複数の領域にまたがる学問的知見を身につけ、発展させようという意欲を有する学生
4. 地域、企業、行政やNPOなどの場で、他者との協働を通じて、環境問題の解決に具体的に貢献するという意志をもっている学生

## 地球環境学専攻（博士後期課程）

### [ディプロマ・ポリシー]

本課程では、地球環境学に関する国際レベルの研究能力を有していると認められ、また、自立して研究・開発が遂行でき、持続可能な社会の実現に貢献できると見なされる専門的人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 地球環境問題や環境学についての幅広く、かつ特定の分野・課題についての深い専門的知見
2. 地球環境問題や環境学についての幅広く、かつ特定の分野・課題についての深い実践的知識
3. 地球環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによるオリジナリティのある研究能力を身に付け、自立して研究・開発を行うことができる力。また、自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信することができる力
4. 前項を実現する方法として、オリジナリティのある学術論文を執筆し、外部発表できる能力
5. グローバルな視点と対応能力

### [カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、地球環境問題や環境学に関する、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に体得するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地球環境問題や環境学が提起する課題が常に自然科学的側面と人文・社会科学的側面をもっていることを踏まえた文理融合型の広範かつコンパクトな見通しの良いカリキュラムとするため、環境法律・政策・社会学、環境経済・経営、環境理工の3つの科目群からコースワーク科目をバランスよく配置する。
2. 問題を適切に認識するための知的枠組み（ディシプリン）の修得と同時に、問題を解決するための実践的あるいは実務的知識をバランスよく身につけることが可能なカリキュラムとするため、コースワーク科目や研究指導等において、最先端の取り組みや現場における知見を学ぶことができる機会を積極的に取り入れる。
3. 本学の教育の特色である小人数教育による教員と学生の多彩なコミュニケーションが可能なきめ細かな教育が可能なカリキュラムとするため、コースワーク科目や研究指導等において、研究・分析方法の修得や学会発表等を積極的に取り入れる。また、論文構想発表や資格論文審査などにより、博士論文執筆と口頭報告の能力の修得と提出資格の測定を適切に行う。
4. 地球環境問題の解決のための国際協力の必要性が高まる中で、積極的に留学生を受け入れ、国際的に活躍する人材を育成するために、英語のみを用いた講義と指導によるカリキュラムの英語コースを設置するとともに、日本語コースと英語コースの講義科目の枠を越えた相互乗り入れを可能とし、様々な国籍の学生が交流しつつ学ぶことができる機会を積極的に提供する。また、社会人が学びやすいように、働きながら必要な単位を履修できるように配慮を行う。

### [アドミッション・ポリシー]

本課程は、前期課程で培った環境問題についての効率的で効果的な解決に向け、高い倫理感と使命感を

もち、社会科学と自然科学の知識を更に発展させる人材を求めていいます。具体的には、以下のような資質を持つ学生を求めます。

1. 深刻化しグローバル化する環境問題の幅広い分野に、関心をもっている学生
2. 社会科学、自然科学、あるいは人文科学に対する基礎的な学力を有し、それを応用する力を持っている学生
3. 高度で独創的な研究を行い、学会での研究報告や学術誌への積極的な論文発表を行うと共に、優秀な博士論文を執筆し、博士号を取得することを志している学生
4. 修了後には、国内外の研究機関や地域、企業、行政、NPO、国際機関などで、他者との協働を通じて、環境問題についての研究・教育活動、環境問題の解決のための活動に具体的に貢献するという意志をもっている学生

以上

# **上智大学短期大学部**

**(2022 年度)**

**卒業認定・学位授与の方針  
教育課程編成・実施の方針  
入学者受入れの方針**

## 上智大学短期大学部の卒業認定・学位授与の方針

上智大学短期大学部は、建学の精神を具現化し、地球市民的意識を有し国際社会・多文化共生社会の諸問題に対応しうる者を卒業生として輩出していきます。即ち、本学で学業を修めた者は、以下に掲げる教養と専門的知識を備える者であり、同時に人間性の深い理解に立脚した、多様な他者と協働する力を備えることにより、国内外の国際社会・多文化共生社会に貢献できる態度、知識、技能を有します。そのような教養と専門的知識、人間観と協働力を備え、かつ上智大学短期大学部学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を科目群毎に修得した者に対し、本学は短期大学士（英語）の学位を授与します。

**1. キリスト教ヒューマニズムの理念のもと、人間の尊厳を深く理解し、他者との共存を実現できます**  
上智の教育の精神である「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」のもとで、人間の生の尊さと生の在り方の多様性を理解し、異なる価値観や背景を持つ他者との共存を実現する意思と能力を備えることができます。

**2. 人間と社会の理想の実現のため、知性をもとに責任を伴う決断と行動ができます**  
幅広く豊かな教養力を通して、人間が直面する問題や理想の本質について理解し、自らの主体性と責任感をもとに意見を発信し行動するようになります。

**3. 多言語力による複合的な視点から、人間性と社会の持つ新たな可能性を発見できます**  
社会事象及び学問にかかわる問題を、多言語・多文化的な複合的視点から俯瞰し考察することで、人間と社会が持つ新たな可能性を引き出すことができます。

**4. 複数の学問分野の学修から、新たな価値観を創造することができます**  
英語の学修、及び異文化、多文化共生、国際問題の研究で得た知識と、他者との共存を目的とする視点から新たな価値観を創りだすことができます。

**5. 地球市民的意識を有し、グローバルな問題に取り組み、多文化共生社会の形成を担う力を身につけることができます**  
言語及び文化における多様性の肯定的な理解のもと、地球規模の課題と自分との接点を見出し、背景の異なる他者との対話と協働を通じ課題解決に向かっていく力を持つことができます。

## **上智大学短期大学部英語科の卒業認定・学位授与の方針**

上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探求し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。

### **1. キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます**

キリスト教ヒューマニズムの精神を、キリスト教倫理や哲学において理解し、そこで獲得した視座に基づき人間及び社会的現象を考察できます。そして、その精神の根底に在る人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とのかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力を備えます。

### **2. 学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます**

大学での学びに必要な読解力、論理的文章構成力、発表力を身につけます。同時に人文・社会科学を中心とする幅広い教養を修得し、人間と社会にかかわる多様な事象を理解し、意見を発信する力を身につけます。

### **3. 自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます**

英語を実践的かつ学術的に運用するために重要な主題として、(1) 自己形成と他者との共存、(2) 異文化・多文化、(3) 日本における社会問題、(4) 日本の問題と国際問題、にかかわる知識とともに、自己発信力に重点を置いた4技能（読む・書く・聴く・話す）を身につけることができます。

### **4. 専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます**

異文化理解、英米文学研究、言語研究、言語教育、多文化共生、及び国際問題とかかわる分野の知識を獲得し、論理的、批判的思考に基づき、研究する力を身につけることができます。自律した学修者として課題を自ら設定し、それらに挑戦し続けることのできる意欲と技能を持つことができます。

### **5. 地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます**

国際的な諸問題、そしてその背後にある文化、歴史、思想を、自らの生とのかかわりにおいて理解し、地球市民としての問題意識をもち、国内外における国際社会が抱える問題の解決、及び多文化共生社会の実現に向けた実践ができます。

## 上智大学短期大学部英語科の教育課程編成・実施の方針

英語科の卒業認定・学位授与の方針で示された能力を学生が身につけることを可能とするため、教養科目、英語科目、基礎・専門科目を効果的に編成します。知性の段階的発展を可能とし複数専門科目群を収める幅広い知を提供する教育課程を構成することで、キリスト教ヒューマニズムの精神と人間理解を礎とする教養を身につけ、自己発信力に重点を置いた実用的かつ学術的英語力を修得し、国際的な視野と地球市民的意識から得られる専門的知識と協働・共生の力を発展させ、国際社会・多文化共生社会に貢献する人材を育成します。

### 獲得すべき学修成果五つの視点

英語科では、卒業認定・学位授与の五つの方針で定められた能力を獲得するために、「キリスト教ヒューマニズム理解力」「教養力」「英語力」「専門力」「地域の国際化・多文化共生力」の五つの修得すべき学修成果を尺度に精査した授業やプログラムを配置します。

### 科目群別課程編成方針

#### 1. 【教養科目群】

本学での学びの基礎を築く教養必修科目として「人間学Ⅰ」を配置します。同科目ではキリスト教ヒューマニズムに基づく人間観を理解し、他者とのかかわりの中での自己形成を目指します。そこで学びを受け、主に人文・社会科学各分野における学問体系に関するバランスのよい知識・理解を得ることを目的に教養選択科目を配置します。

#### 2. 【英語科目群】

##### 2-1. 【必修英語科目】

第1～第4セメスター（それぞれ準備期・発展期・応用期・完成期）にわたる履修のため、各学期に「必修英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修内容としてそれぞれ他者とともに生きる、異文化との遭遇、日本における社会問題、日本と世界というテーマを発展的に学び、自己発信力に重点を置きながら英語の4技能を修得します。ペアワークや発表等の能動的学びが中心的活動を成します。それらを通じ、「他者のために、他者とともに」という本学の教育の精神を持つ責任ある地球市民となるために必要な知識と理解を深め、複眼的・批判的・論理的な思考力を伸ばします。同時に他者の考えを尊重しながら自分の考えを効果的に表現する力をつけます。課題やe-learningを通して自律した学修者となるための技能を身につけます。必修英語科目での学びは、学内英語発表イベントである、Sophia Junior English Festa の準備学修を含みます。また各学年の学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

##### 2-2. 【TOEIC 対策講座科目】

第1セメスター（準備期）及び第2セメスター（発展期）までの履修のため、各学期に「TOEIC 対策講座Ⅰ・Ⅱ」を配置し、グローバル化する社会で職業人としてキャリア形成を行うために必要な英語力の基礎を身につ

することを目指します。また各学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

### 2-3. 【英語スキルズ科目】

第1セメスター（準備期）、第2セメスター（発展期）及び第3セメスター（応用期）の履修のため各学期に「英語スキルズ科目」を配置し、学生が様々な英語技能やアカデミックなトピックを扱う科目を選択し、それらの技能の発展、トピックに関する知識・理解を深めることができるように、科目を編成します。また習熟度別のクラスを配置します。

### 3. 【基礎科目群・専門科目群と専門領域】

本学において専門性と結びついた知識の修得を可能とするため、基礎科目群・専門科目群内に以下の4つの専門領域を設けます。

#### 3-1. 【異文化理解】

#### 3-2. 【英米文学研究】

#### 3-3. 【言語研究】

#### 3-4. 【言語教育】

### 4. 【基礎科目群】

本学が定める4領域のテーマを学ぶにあたり、導入科目となりうる科目を基礎科目群として配置します。主に第2セメスター（発展期）から第3セメスター（応用期）での履修を念頭に置いています。

### 5. 【専門科目群内の選択科目】

本学が定める「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4領域において効果的に科目を配置します。各領域は、多様な分野において知識・理解の点で独自の教育内容を持つ科目によって構成されます。基礎科目群の概論科目での学びを受け、主に第3セメスター（応用期）から第4セメスター（完成期）に、専門的知識や技能を修得することができるように、専門科目を配置します。また科目群の一部で反転授業を行い、同時にアクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや課題解決と結びついた学びを実施します。

### 6. 【専門科目群内のゼミナール科目】

本学では、段階を踏んだゼミナール科目を4セメスター（2年間）にわたって設けています。

#### 6-1. 【基礎ゼミナール】

第1セメスター（準備期）に履修し、大学で学ぶにあたって必要なアカデミックスキル修得の導入教育を行い、リサーチの基礎・論文作成・口頭発表の方法を学ぶとともに、キャリア設計の第一歩を踏み出すために必要な知識を身につける演習を行います。

#### 6-2. 【プレ・ゼミナール】

第2セメスター（発展期）に履修し、特定の研究分野において自身の研究テーマを設定し、それに基づく演習を通して、能動的な学びを行います。このような学修により、基礎的研究手法を用い、論理的・批判的思考力、論文作成力、口頭発表力、協働により問題を解決する力を身につけます。

### 6-3. 【ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ】

第3セメスター（応用期）と第4セメスター（完成期）にそれぞれ履修し、自身の設定したテーマをより深く研究していく過程で、高度な研究手法の知識を得ます、自律的思考に基づく独自の問題提起をし、討論、口頭発表、研究論文作成力の素養を統合的に身につけることができます。協働により問題を解決する力もより発展させます。「ゼミナールⅡ」では、学修成果の集大成としてゼミナール論文の作成を行います。

### 6-4. 【アカデミックスキルズ・フォローアップ講座】

第2セメスター（発展期）に、本学で学修成果を効果的に得るために必要とされる基礎的な知識・技能を身につけることを目的とした補習科目を設置します。同科目を、第1セメスター（準備期）履修の必修科目「基礎ゼミナール」を不合格になった学生が履修することを強く推奨します。また第1セメスターに履修したその他の科目（語学及び実習の体育科目は除く）を不合格となった学生にも、履修を推奨します。同補習科目の成績評価基準を満たした者には1単位が付与されます。

### 7. 【基礎科目・専門科目群内のサービスラーニング科目】

キリスト教ヒューマニズムに基づく奉仕の精神と地球市民的意識を持って、多文化共生の実現に向けて実践することを目的にし、基礎科目・専門科目群内にサービスラーニング関連科目として、児童英語教育や日本語教育等の科目を配置します。正課カリキュラムでの学びを受け、その成果を地域社会で実践し、地域社会で学んだ内容を授業へとフィードバックします。またサービスラーニング関連科目には、アクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや地域社会での課題解決を行う科目もあります。

### 8. 【インデペンデント・スタディ】

指導教員の下、学生が独自に設定したテーマについて、主体的に調査・考察した成果をまとめ、発表を行う自律的総合学修です。本プログラムはゼミナールや専門科目等で学んだテーマをさらに拡大・展開させたり、新たな知の領域に挑戦したいという学生の積極的な学修・研究意欲に応えるために設置されています。

### 9. 【短期留学プログラム】

本学では、短期留学プログラムを提供しています。本プログラムの参加者は、事前に「留学準備」科目を修め、派遣先の学校で所定の条件を満たすことにより3単位（「留学準備」1単位、「海外短期語学講座」2単位）を取得することができます。「留学準備」科目では、本プログラムに参加する目的や、その経験をどのように活かしていくかを明確にしていくことで、学修効果を向上させることができます。また、各種ガイダンスやロールプレイ等により、留学先の文化や海外生活で必要となる知識、危機管理方法等を学ぶことができます。さらに、参加者は、学期中に TOEIC-IP を受験することで、留学による語学力向上の成果を客観指標で計ることができます。

### 10. 【上智大学科目等履修生制度の導入による単位認定制度】

上智大学で開講されている科目を本学の学生が履修することができる制度です。この制度では、セメスターごとに6単位、最大12単位を上限に履修することができ、取得した上智大学の単位は本学の単位として認定することができます。この制度を活用することにより、本学で開講されていない領域や、多様な専門的学問領域をより深く探求することができます。また難易度別のナンバリングに基づき、本学開講科目と上智大学開講科目との間で整合性を取り、単位認定を行います。

## 11. 【キャリア形成支援】

本学は、キャリア教育の一環として、学生の多様な進路希望に対応するために、キャリアパスや就職、編入学に関する科目やガイダンス、専門カウンセラーによる個別指導等の支援プログラムを設けています。これらのプログラムに主体的に参加することにより、社会人基礎力を成長させ、編入学や就職等における実践的な知識を得ることができます。

### 【学修成果の評価】

本学は卒業認定・学位授与の方針が示す能力及び資質の修得に向けた学生の学修成果獲得状況を把握し、教育課程の改善を行うため、以下の内容及び方法により評価を実施します。

- キリスト教ヒューマニズム理解力及び教養力の学修成果の評価は、教養必修科目「人間学 I」を通して得た学びの成果を基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、ループリックを用いて実施します。
- 英語力の学修成果の評価は、在学中に定期的に受験する外部試験 TOEIC のスコア、成績評価・GPA、卒業時アンケートを基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、実施します。
- 専門力の学修成果の評価は、学びの集大成であるゼミナール論文の成果を基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、ループリックを用いて実施します。
- 地域の国際化・多文化共生力の学修成果の評価は、サービスラーニング・ポートフォリオ及び卒業時アンケートを基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、実施します。

総合的な学修成果の評価として、以下の評価物を含むアセスメントを適宜実施します。

- 科目別及び全科目についての通算成績評価の分布（A～F）と推移（個人、グループ、学年別等）
- 科目別及び全科目についての GPA とその推移（個人、グループ、学年別等）
- 学習意欲及び学修行動に関する調査結果
- 入試種別ごとの学修成果及び進路データ（エンロール・マネージメント）
- 就職・進学率
- 卒業生進路先アンケート
- 卒業生アンケート

## **上智大学短期大学部の入学者受入れの方針**

大学として入学者に求める素養

### **【教育方針】**

上智大学短期大学部は、キリスト教ヒューマニズムに立脚した上智の教育の精神である「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」を、国際社会において実践することのできる英語発信力と、多文化共生の実現に向けた地球市民としての意識、そして国際的な場で主体的に他者と協働できる力を涵養する教育プログラムを構築しています。そのために、上智大学短期大学部では次のような学生を求めています。

### **【教育目標と求める入学者】**

1. 上智の教育の精神である「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」に共感し、これを受け入れ学ぶ意欲のある者。
2. 英語学修に強い意欲をもち、英語の運用能力の向上、豊かな自己形成と社会貢献のために教養と専門的知識を身に付けたいと望む者。
3. 英語と英語圏の歴史や文化とともに広い言語・文化圏における研究課題を理解しようとする柔軟な姿勢をもち、それらの知識に立脚した地球市民的視野や国際的に活躍できる言語力、教養、専門的知識、人間力を身に付けたいと望む者。
4. 授業への高い出席率、授業での意見の自己発信、会話や討論等を通した学びを重視する環境において、他者とのかかわりの中での能動的な学びを行い、日本語と英語の双方で豊かなコミュニケーション能力を涵養することを望む者。
5. 自らの専門的知識や技能を活用し、本学の推進する社会貢献活動の実践を通して、地域社会の国際化や多文化共生社会の実現に貢献することを望む者。

## **英語科の入学者受入れの方針**

英語科は、多様化する国際社会で多文化共生社会の実現に向け活躍できる人材を育成するために、様々な背景を持つ学生がともに学ぶことを教育方針にしており、多角的視点から学生を選抜する入試制度に取り組んでいます。

それぞれの入試種別において求める学生像及びそれにおける学力の三要素と関連した能力、審査方法は以下のとおりです。

| 上智大学短期大学部 英語科の入学者受け入れの方針  |     | 学力の三要素 配分  |         |     |               |     |                         |   |
|---|-----|--|---------|-----|---------------|-----|-------------------------|---|
| <p>上智大学短期大学部英語科は、多様化する国際社会で多文化共生社会の実現に向け活躍できる人材を育てるために、様々な背景を持つ学生がともに学ぶことを教育方針にしており、多角的視点から学生を選抜する入試制度に取り組んでいます。</p> <p>それぞれの入試種別において求める学生像及びそれにおける学力の三要素と関連した能力、審査方法は以下のとおりです。</p>   |     | 各入試における学力の三要素の配分を以下に記号(☆)の数で示します。配分の高い順に星三つ(☆☆☆)、星二つ(☆☆)、そして星一つ(☆)と表記されます。   |         |     |               |     |                         |   |
| <p>1.【総合型選抜 英語クラス体験方式】</p> <p><b>【目的】</b>英語を能動的に使用し、学生生活における様々な活動や学生間の交流に積極的に参加し、他の学生の模範となりうる資質を持つ者を選考することにより、大学全体を活性化する。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を選考する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>英語を他者とのコミュニケーションの手段として積極的に使用し、他者とのかかわりの中で英語と日本語で自己表現をしようとする意欲と基礎力を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>本学で1日をかけて実施される英語でのクラス学修において、英語を他者とのコミュニケーションの手段として積極的に使用するための基礎的な語彙・文法の知識を有し、英語と日本語を使い口頭と文章で簡潔に言語化する技能を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>クラス学修において、英語圏文化等にかかわる問題について自己の意見を整理し、それらの問題について適切な判断を行い、英語と日本語を通して自らの意見を口頭と文章で分かり易く簡潔に他者に対して表現できる者。志望理由書において、自らの考えを明確に表現できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>クラス活動に積極的に参加するとともに、自分とは異なる他者の意見や立場を、理解したうえで尊重し、それらに自らの意見を結びつけ、問題への理解を深化するため、他者との建設的な議論ができる者。</p> <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>本学キャンパスで一日かけて行われる英語クラスでの活動</p>                                  |     |  |         |     |               |     |                         |   |
| <p>2.【学校推薦型選抜 指定校推薦】</p> <p><b>【目的】</b>出身高等学校と本学との架け橋となり、将来の入学者へ系譜を繋ぐ。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を集めます。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>高等学校において、英語及びその他の科目においてバランスのとれた基礎学力を有する者で、高等学校長が推薦する者。高等学校において、部活動や特別活動を通して自己を高め、それらの経験を通して本学における学生生活をさらに充実させ発展させていく意欲と資質、人柄を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>英語で明確に自己紹介するために必要な、基礎的英語の語彙、文法の知識、そして文構成の技能を持つ者。日本語で、課題として示される問題について論じるために必要な基礎知識を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>英語で明確に自己表現することができる者。課題として示される問題について日本語で論じる際に、論理的に考え、扱うべき内容の重要性について適切な判断を行い、明確に自分の考えを表現する力を持つ者。志望理由において、自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え方判断できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>日本語での課題文において、与えられた問題について自己の意見を整理したうえで表現し、自分とは異なる他者の意見や立場に立って理解し尊重することができ、それらに自らの意見を結びつけ、問題理解の深化のため、建設的な議論ができる者。</p> <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>課題審査(日本語での課題文。英語での自己紹介文)</p> |     | <table border="1"> <tr> <td>【知識・技能】</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>【思考力・判断力・表現力】</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td><td>☆</td></tr> </table> | 【知識・技能】 | ☆☆☆ | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆☆ | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】   | ☆☆☆ |  |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】   | ☆☆☆ |  |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】   | ☆   |  |         |     |               |     |                         |   |
| <p>3.【学校推薦型選抜 公募制推薦A・B】</p> <p><b>【目的】</b>出身高等学校と本学との架け橋となり、将来の入学者へ系譜を繋ぐ。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を集めます。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>高等学校において、英語及びその他の科目においてバランスのとれた基礎学力を有する者で、高等学校教員が推薦する者。高等学校において、部活動や特別活動を通して自己を高め、それらの経験を通して本学における学生生活をさらに充実させ発展させていく意欲と資質、人柄を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>課題の英文を理解するための基礎的語彙、文法、読解知識を持ち、それに問する質問に、日本語と英語の双方により、明確に答えるための言語技能を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>課題の英文について日本語で論理的に考え、そこで扱われる問題が示す重要性について適切な判断を行い、明確に自分の考えを表現する力を持つ者。また英語においても、それらについて、明確に意見を表現できる者。志望理由において、自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え方判断できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>面接において、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見表明できる者。</p> <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>面接(入試要項でお知らせする「課題文(英語)」の内容に関する質問も含む。上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p>                |     | <table border="1"> <tr> <td>【知識・技能】</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>【思考力・判断力・表現力】</td><td>☆☆</td></tr> <tr> <td>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td><td>☆</td></tr> </table>  | 【知識・技能】 | ☆☆☆ | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆  | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】   | ☆☆☆ |  |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】   | ☆☆  |  |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】   | ☆   |  |         |     |               |     |                         |   |

|   |   |         |     |               |     |                         |   |
|---|---|---------|-----|---------------|-----|-------------------------|---|
| <p><b>4.【卒業生・在学生子女姉妹】</b></p> <p><b>【目的】</b>本学の教育方針への理解と共感を抱く卒業生の期待に応え、その子女・姉妹の本学への帰属意識の一層の醸成とその効果を他の学生に波及させる。本学の理念を学生の中心的存在となって実践しうる人材を獲得する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>本学のキリスト教ヒューマニズムの教育方針に共感し、積極的に英語及びその他の本学の学修に取り組む意欲を持つ者。これらの学修を行う基礎学力を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>課題の英文を理解するための基礎的語彙、文法、読解知識を持ち、それに関する質問に、日本語と英語の双方により、明確に答えるための言語技能を持つ者。志望理由において、本学の教育理念および教育プログラムについて深い理解を示すことができる者。</p>  |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>課題の英文について日本語で論理的に考え、そこで扱われる問題が示す重要性について適切な判断を行い、明確に自分の考えを表現する力を持つ者。また英語においても、それについて、明確に意見を表現できる者。志望理由において、自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え判断できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>面接において、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見表明できる者。</p>  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【知識・技能】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">★★★</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【思考力・判断力・表現力】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆</td> </tr> </table> | 【知識・技能】 | ★★★ | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆  | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】   | ★★★   |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】   | ☆☆  |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】   | ☆   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>面接(入試要項でお知らせする「課題文(英語)」の内容に関する質問も含む。上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p>  |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>5.【総合型選抜 英検・GTEC・TEAP等利用方式 A～D】</b></p> <p><b>【目的】</b>英検、GTEC、TEAP等による英語の学力審査を行うことで、受験の機会を拡充する。<br/>本学の教育方針に共感し理念を実践していく志を持つ学生を選考する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>英語能力検定試験において、本学における英語学修を行う基礎力(TEAP PBT四技能 135点、TEAP CBT四技能235点、英検準二級、GTEC Advanced及びGTEC CBT四技能690点等)を示した者。英語及び本学の学修について広く関心を持ち、それについて自己の考えを積極的に表現する意欲を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>英語での明確な自己表現とそれに関する質問に答える際に必要な基礎的な英語の語彙、文法、文構成の知識及び発話技能を持つ者。また面接において、言語や異文化、社会事象にかかわる問題について、日本語と英語で議論する際に必要な基礎知識を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>面接で課題として示される問題について、日本語と英語で議論する際に、論理的に考え、発言すべき内容の重要性について適切な判断を行い、明確に自分の考えを表現する力を持つ者。志望理由において、自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え判断できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>面接時に面接者とのコミュニケーションにおいて、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見交換ができる者。</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【知識・技能】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">★★★</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【思考力・判断力・表現力】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆</td> </tr> </table> | 【知識・技能】 | ★★★ | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆  | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】   | ★★★   |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】   | ☆☆  |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】   | ☆   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>個人面接(上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p>   |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>6.【社会人】</b></p> <p><b>【目的】</b>実社会での職業経験等を活かし、学業や他の学生との交流において本学に多様性や多角的な影響を与えることのできる人材を選考する。生涯学習に対する社会の要請に応える。社会人の学び直し(リカレント)の場を提供する。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を選考する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>本学のキリスト教ヒューマニズムの教育方針に共感し、積極的に英語及びその他の本学の学修に取り組む意欲を持つ者。社会経験をこれらの学修に活かす意欲と資質を持つ者。</p>  |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【知識・技能】</b>日本語の小論文作成において、特定の主題について議論を行う上で前提となる人間と社会の在り方に關する知識、文章作成に必要な語彙・文法の知識を持ち、文章を論理的に構成する技能を持つ者。英語で明確に自己表現し、それに関する質問に答える際に必要な基礎的な英語の語彙、文法、文構成及び発話技能を持つ者。面接の課題として示される社会事象にかかわる問題について、日本語で議論する際に必要な基礎知識を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>日本語の小論文作成において、重要な主題を設定するための成熟した判断力と、主題に関する論理的で明確な思考力を持ち、自己の意見を表明する際に豊かな表現力を持つ者。また面接で示される社会事象にかかわる課題について日本語で明確、論理的、かつ説得力を持って自分の意見を表現できる者。志望理由において、社会での経験で得た自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え判断できる者。</p> <p><b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b>面接時に面接者とのコミュニケーションにおいて、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見交換ができる者。</p>   | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【知識・技能】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【思考力・判断力・表現力】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">★★★</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆</td> </tr> </table> | 【知識・技能】 | ☆☆  | 【思考力・判断力・表現力】 | ★★★ | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】   | ☆☆  |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】   | ★★★   |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】   | ☆   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>設問を含む日本語の小論文60分100点<br/>個人面接(上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p>   |   |         |     |               |     |                         |   |

|  |   |         |     |               |     |                         |   |
|--|---|---------|-----|---------------|-----|-------------------------|---|
| <p><b>7.【帰国生】</b></p> <p>【目的】海外生活経験者を広く集めることにより、様々な背景や文化を持った学生が集い、それにより学業及び学内文化に多様性を醸成する。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を選考する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p>【基本像】本学のキリスト教ヒューマニズムの教育方針に共感し、英語及びその他の本学の学修について広く興味を持ち、それらについて自己の考えを積極的に英語で表現する意欲を持つ者。海外での学びや生活の経験をこれらの学修に活かす意欲と資質を持つ者。</p>  |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p>【知識・技能】日本語の小論文作成において、特定の主題について議論を行う上で前提となる人間と社会の在り方に關する知識と文章作成に必要な語彙・文法の知識を持ち、文章を論理的に構成する技能を持つ者。英語で明確に自己表現し、質問に答える際に必要な英語の語彙、文法、文構成及び発話技能を持つ者。日本語と英語の双方で、異文化・社会事象にかかる問題について議論する際に必要な知識を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】日本語の小論文作成において、重要な主題を設定するための適切な判断力と、主題に関する論理的で明確な思考力をもち、自己の意見を表明する際に豊かな表現力を持つ者。また面接において、日本語と英語の双方により、明確、論理的、かつ説得力を持って自分の考えを表現できる者。志望理由において、海外での経験で得た自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え判断できる者。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】面接時に面接者とのコミュニケーションにおいて、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見交換ができる者。</p>   | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【知識・技能】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【思考力・判断力・表現力】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆</td> </tr> </table> | 【知識・技能】 | ☆☆  | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆☆ | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】  | ☆☆  |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】  | ☆☆☆   |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】  | ☆   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>【選考方法】</b></p> <p>書類審査</p> <p>設問を含む日本語の小論文60分100点</p> <p>個人面接(上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p>   |   |         |     |               |     |                         |   |
| <p><b>8.【総合型選抜 課題文利用方式】</b></p> <p>【目的】本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を集める。筆記試験のみでは測定が困難な情報分析力や考察の視点、多彩かつ論理的な表現の素養を持つ学生を選考し、学生間の相互作用によるアカデミックスキル向上への意欲を育む。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p>【基本像】課題文にかかる質疑応答において、日本語を他者とのコミュニケーションの手段として積極的に使用するための語彙力・文法の知識を持ち、英語を使いそれらを口頭で明確に言語化する技能を持つ者。課題文を基とし、自ら考える意欲と基礎力をもち、自己の考えを発展させ積極的に表現する意欲を持つ者。</p> <p>【知識・技能】日本語の課題文を理解するための語彙、文法、読解知識を持ち、それに関する質問に、日本語と英語の双方により明確に答えることのできる言語技能を持つ者。言語や異文化、社会事象にかかる問題について議論する際に必要な基礎知識を持つ者。志望理由において、本学の教育プログラムについて基本的理解を示すことができる者。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】課題文について論理的に考え、そこで扱われる問題が含む重要性について適切な判断を行い、明確、論理的で、かつ説得力を持って自分の考えを日本語で表現する力を持つ者。また英語においても、それらについて明確に意見を表現できる者。志望理由において、自分の学びと本学の教育プログラムとの関連性について、自分の将来を見据えながら明確に考え判断できる者。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】面接において、自分の立場を明確にしながらも、他者の意見を尊重し、建設的に意見表明ができる者。</p> <p><b>【選考方法】</b></p> <p>書類審査</p> <p>面接(入試要項でお知らせする「課題文(日本語)」の内容に関する質問も含む。上記の学力の三要素と関連した求める学生像で示された能力を問う際、一部英語での質疑応答も含む)</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【知識・技能】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【思考力・判断力・表現力】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆☆</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">☆</td> </tr> </table> | 【知識・技能】 | ☆☆☆ | 【思考力・判断力・表現力】 | ☆☆  | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 | ☆ |
| 【知識・技能】  | ☆☆☆   |         |     |               |     |                         |   |
| 【思考力・判断力・表現力】  | ☆☆  |         |     |               |     |                         |   |
| 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】  | ☆   |         |     |               |     |                         |   |

|  |  |
|--|--|
| <p><b>9.【一般選抜A・B・C】</b></p> <p><b>【目的】</b>本学の教育方針に共感する者に対し、学問と実践的知識を探求する機会を広く提供する。本学の教育方針に共感し理念を実践する志を持つ学生を選考する。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p><b>【基本像】</b>英語を他者とのコミュニケーションの手段として積極的に使用し、英語での読解及び自己表現を行うのに必要な基礎学力を持つ者。本学の学修内容を理解し、自己表現を行うのに必要な日本語能力を持つ者。</p> <p><b>【知識・技能】</b>大学での学修に必要な英語の基礎的な語彙、文法知識、読解技能、文構成の技能を持ち、かつ大学での学修に必要な日本語の語彙、文法知識、読解技能、文構成の技能を持つ者</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>英語読解における論理的思考力、そのような思考に基づいた的確な問題理解のための判断力、英語文章作成での論理的な意見の表現力を持つ者。日本語読解における、論理的思考力、そのような思考に基づいた的確な問題分析のための判断力、日本語論述での論理的かつ発展的思考を表現する力を持つ者。</p> <p><b>【選考方法】</b><br/>書類審査<br/>国語(国語表現・国語総合[現代文領域のみ])60分 50点<br/>外国語(英語(コミュニケーション英語基礎・コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ/記述式問題を含む))60分 100点</p> <p><b>【入学時までの修得が望ましい能力(履修科目・資格等)全入試制度共通】</b></p> <p><b>【英語】</b>異文化を積極的に理解し、英語をコミュニケーションの手段として目的に応じて効果的に使用するために十分な英語力(「コミュニケーション英語基礎」「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」)</p> <p><b>【国語】</b>文章や他者の意見を的確に把握するための理解力、及びそれに対する自らの意見を論理的に構築して表現する力(「国語総合」「国語表現」「現代文A」「現代文B」)</p> <p><b>【地理歴史】</b>英語と英語圏の歴史や文化、社会事象を理解するための基礎知識(「世界史A」、または「世界史B」)</p> |  |
|  | <b>【知識・技能】</b><br>☆☆☆                  |
|  | <b>【思考力・判断力・表現力】</b><br>☆☆☆            |
|  | <b>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</b><br>該当せず |